



今すぐ登録を！

本機は P2HD 5 年間無償
修理特約の対象商品です。
詳しくは Vol. 1 の 31 ページを
ご覧ください。

http://panasonic.biz/sav/pass_j/

Panasonic®

取扱説明書 Vol.2

メモリーカードカメラレコーダー
品番 **AG-HPX250**

Volume **2**

本書は、メモリーカードカメラレコーダーの詳しい操作方法について説明しています。
本機の基本操作は、製品に同梱の、「取扱説明書 Volume 1」（印刷物）をご覧ください。

P2HD

AVC INTRA

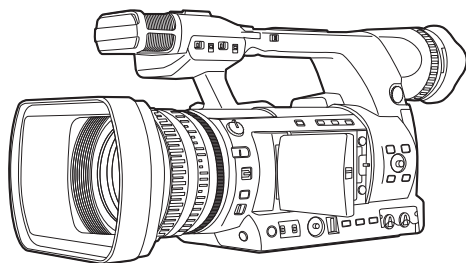
DVCPRO HD

DVCPRO 50

DVCPRO

IX

SD HG



- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」（→ Vol. 1 の 6 ~ 10 ページ）を必ずお読みください。

JAPANESE

- SDHC ロゴは SD-3C、LLC の商標です。
- HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、米国およびその他の国における HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。
- Microsoft[®]、Windows[®] は、米国 Microsoft Corporation[®] の米国、および各国における商標、または登録商標です。
- Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。
- Apple[®]、Macintosh[®]、Mac OS[®] は、米国 Apple Inc. の米国、および各国における商標、または登録商標です。
- その他、この説明書に記載されている各種名称、会社名、商品名などは各社の商標または登録商標です。
- 本製品は、AVC Patent Portfolio License に基づきライセンスされており、お客様が個人的かつ非営利目的において以下に記載する行為にかかわる個人使用を除いてはライセンスされておりません。
 - AVC 規格に準拠する動画（以下、AVC ビデオ）を記録する場合
 - 個人的かつ非営利的活動に従事する消費者によって記録された AVC ビデオを再生する場合
 - ライセンスを受けた提供者から入手された AVC ビデオを再生する場合詳細については米国法人 MPEG LA, LLC (<http://www.mpegla.com>) をご参照ください。

この装置は、クラス B 情報技術装置です。

この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

本書内のイラストについて

- カメラレコーダー本体、メニュー画面などのイラストは、実際とは異なることがあります。
- カメラレコーダー本体の端子の位置を示すために、本体に付属の保護キャップは「各部の名称」（→ Vol. 1 の 15 ページ）以外では表記していません。

参照ページについて

- 本書では、参照ページを（→ 00 ページ）のように示しています。

用語について

- SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、どちらも SD メモリーカードと記載しています。
- 「P2」ロゴがついたメモリーカード（別売の AJ-P2C064AG など）を「P2 カード」と記載しています。
- 1 回の記録動作により作成された映像を「クリップ」と呼び、そのように記載しています。

本機の使いかた
安全上のご注意

はじめに

使用上のご注意
ご使用前に
付属品
別売品

各部の名称

各部の名称

準備

バッテリーの充電
電源の準備
グリップベルトの調節
ショルダーベルトの取り付け
レンズフードの取り外し・取り付け
レンズキャップの取り外し・取り付け
アイカップの取り付け
リモコンの準備
電源の入れかた・切りかた
カレンダーを合わせる
内蔵電池の充電

メニュー

設定メニューの基本操作
設定メニューの構成

ご参考

保証とアフターサービス
(よくお読みください)
定格

撮影

ファインダーの使いかた.....	6	ゼブラパターン.....	35
ビューファインダーを使う.....	6	センターマーカー表示.....	36
液晶モニターを使う.....	7	セーフティーゾーンマーカーの表示.....	36
映像の輪郭を強調する.....	7	撮影状態の確認と表示.....	36
画面表示を調整する.....	8	映像サイズを変える.....	37
バックライトの明るさを変える.....	8	手ぶれ補正機能.....	37
タリーランプ.....	9	DRS (ダイナミックレンジストレッチャー) 機能.....	37
撮影の基本操作.....	10	FBC (フラッシュバンド補正).....	38
撮影準備.....	10	USER ボタンの活用.....	39
オートモードで撮影する.....	10	逆光補正.....	40
撮影した映像を確認する (REC CHECK).....	12	カラーバー.....	40
P2 カードアクセスランプ.....	12	ウェーブフォームモニター機能.....	40
P2 カードの保護について.....	12	撮影時の音量調整.....	40
P2 カードのフォーマット.....	13	バックアップ記録.....	40
P2 カードの記録時間について.....	14	2 スロット連続記録.....	41
P2 カードを取り出す.....	15	ショットマーク機能.....	41
SD / SDHC メモリーカードを使う.....	16	テキストメモ記録.....	42
SD メモリーカードの取り付け・取り出し.....	16	タイムスタンプ機能.....	42
SD メモリーカードのフォーマット.....	16	LAST CLIP DELETE 機能.....	42
SD メモリーカード使用上の注意.....	17	特殊な記録機能を使う.....	43
ズーム機能を使う.....	18	プリレック (PRE REC).....	44
デジタルズーム機能.....	19	インターバル記録 (INTERVAL REC).....	44
プログレッシブモードで撮影する.....	20	ワンショット記録 (ONE SHOT REC).....	45
通常記録 (プルダウン記録).....	20	ループレック (LOOP REC).....	46
Native 記録.....	20	ワンクリップレック (ONE CLIP REC).....	47
バリアブルフレームレート (VFR) で 記録する.....	21	シャッタースピードを調整する.....	49
Native VFR 記録.....	21	SHTR/F.RATE ダイアルの使い方.....	49
スタンダード VFR 記録 (プルダウン記録).....	22	SHUTTER の設定の仕方.....	49
プログレッシブモードと VFR 記録機能の 活用.....	23	SYNCHRO SCAN の設定の仕方.....	50
流れる映像効果撮影.....	27	FRAME RATE の設定の仕方.....	51
マニュアルモードで撮影する.....	28	入力音声を切り替える.....	52
マニュアルモードに切り替える.....	28	内蔵マイクを使う.....	52
ピントを合わせる (マニュアルフォーカス).....	28	外部マイクやオーディオ機器を使う.....	53
フォーカスアシスト機能を使う.....	29	音声の記録レベルを自動で合わせる.....	53
絞りを調整する.....	30	音声の記録レベルを調整する.....	54
ゲインを調整する.....	30	CH3/CH4 の録音レベル.....	55
スーパーゲインを使う.....	31	オーディオ拡大表示.....	55
光量調節.....	31	撮影用の設定を使い分ける (シーンファイル).....	56
ホワイトバランス / ブラックバランスを 調整する.....	32	シーンファイルの設定変更.....	56
ホワイトバランスを調整する.....	32	SD メモリーカードにシーンファイルなどを 保存する.....	58
ブラックバランスを調整する.....	34	設定データのファイル構成.....	60
便利な撮影機能を使う.....	35	タイムデータを利用する.....	61
ローアングル撮影.....	35	カウンターの設定と表示.....	61
対面撮影.....	35	タイムデータの概要.....	61
スキャンリバース撮影.....	35	ユーザーズビットの設定.....	62
		ユーザーズビットの入力方法.....	63
		タイムコードの設定.....	66
		タイムコードを外部ロックさせる.....	67

タイムコードを外部に供給する.....	70
タイムコード、およびユーザーズビットの 記録と出力.....	71

再生

再生の基本操作.....	74
サムネール操作.....	75
サムネール操作の概要.....	76
サムネール画面.....	77
サムネールの選択.....	79
クリップの再生.....	79
サムネール表示の切り替え.....	80
サムネールの変更.....	81
ショットマーク.....	82
テキストメモ.....	82
クリップの削除.....	84
クリップの修復.....	85
不完全クリップの連結.....	85
クリップのコピー.....	86
クリップメタデータの設定.....	87
P2 カードのフォーマット.....	92
SD メモリーカードのフォーマット.....	92
サムネールの表示設定.....	93
プロパティ.....	94
再生に便利な機能.....	99
可変速サーチ.....	99
スロー再生.....	99
早送り / 早戻し再生.....	99
コマ送り再生.....	99
クリップ送り / 戻し.....	100
音量を調整する.....	100
テレビ / モニターに接続して見る.....	100
撮影日時を確認する.....	100

編集

外部機器を接続する.....	101
ヘッドホン.....	101
外部マイク.....	101
パーソナルコンピューター (ノンリニア編集 / ファイル転送).....	102
ハードディスク (データコピー).....	102
デジタルビデオ (ダビング).....	103
テレビ / モニター (再生 / ダビング).....	104
DVCPRO/DV 端子での接続.....	105
DVCPRO/DV 端子に入力された信号を 記録する.....	105
1394 接続して外部機器を制御する.....	106
1394 接続時のご注意.....	108
P2 カードのノンリニア編集をする (PC モード: USB デバイス).....	109
パーソナルコンピューターとの接続手順.....	109

ハードディスクドライブを使用する (PC モード: USB ホスト).....	111
USB ホストモードへの切り替え方.....	111
USB ホストモードの使い方.....	112
ハードディスクドライブ情報の表示.....	112
ハードディスクドライブのフォーマット.....	114
ハードディスクドライブへの書き込み.....	115
P2 カードへの書き戻し方.....	116
ハードディスクドライブ使用時のご注意.....	117
サムネール操作および USB ホストモードでの 警告 / エラー表示.....	117

表示

画面の表示.....	120
ビューファインダーの状態表示.....	120
画面の表示.....	121
中央部の情報表示.....	125
モードチェック (MODE CHK) での表示.....	130

メニュー

メニューの一覧.....	131
SCENE FILE 画面.....	131
SYSTEM SETUP 画面.....	134
SW MODE 画面.....	137
AUTO SW 画面.....	139
RECORDING SETUP 画面.....	140
AUDIO SETUP 画面.....	142
OUTPUT SEL 画面.....	144
DISPLAY SETUP 画面.....	146
CARD FUNCTIONS 画面.....	149
OTHER FUNCTIONS 画面.....	150
DIAGNOSTIC 画面.....	152
OPTION MENU 画面.....	153

ご参考

故障?と思ったら (Q&A).....	154
本機搭載ファームウェアのアップデート.....	157
お手入れについて.....	158
保管上のお願ひ.....	159
P2 カード記録データの取り扱いについて.....	160
メモリーカードのご使用について.....	161
本製品に関するソフトウェア情報.....	162
海外で使う.....	163
バッテリー充電器を海外で使用するには.....	163
AC アダプターを海外で使用するには.....	163
記録フォーマット一覧.....	164
さくいん.....	165

ファインダーの使いかた

本機のファインダーには、小型の LCD を採用したビューファインダーと、3.45 型の液晶モニターがあります。

用途や撮影条件に合わせて、使い分けてください。

- ビューファインダーや液晶モニターの映像と、モニターテレビの映像とでは、明るさや色合いが違う場合があります。

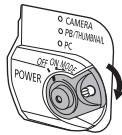
最終的な映像は、モニターテレビで確認してください。

液晶モニターが開いているときは、ビューファインダーが表示されない場合がありますので、液晶モニターを閉じてください。

- 液晶部には、0.01%以下の画素欠けや常時点灯するものがあります。これらは故障ではなく、また、記録された映像に影響を与えるものではありません。
- 液晶モニターに画面の焼付けが発生する場合がありますが、故障ではありません。
- 以下はいずれもビューファインダー上の現象であり、故障ではありません。また、本体の記録および出力信号には影響ありません。
 - ビューファインダー内で視線を動かした場合などに、原色（緑、青、赤）が見えることがあります。
 - 低温時に画面にピンクの色ムラが見えることがあります。
 - 本体に通電していない状態で、画面に黒いシミが見えることがありますが、通電するとなくなります。
 - 低温時に残像が増えて見えることがありますが、故障ではありません。
 - カメラレコーダーが冷え切っている場合、電源 ON の直後は液晶モニターが通常より少し暗くなります。内部の温度が上がると通常の明るさに戻ります。

ビューファインダーを使う

- 1 本機の POWER/MODE スイッチを ON にし、ビューファインダーに映像が映っていることを確認する。

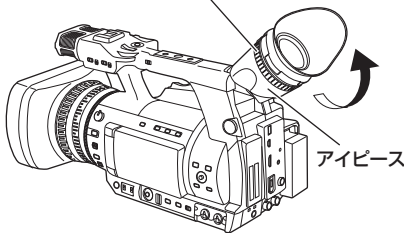


- 2 ビューファインダーの画面が、一番見やすい位置にする。

- ビューファインダーは、約 90 度まで垂直に起こすことができます。

- 3 視度調整ダイヤルで、ファインダー画面の文字がはっきり見えるように調整する。

視度調整ダイヤル



ビューファインダーのアイピースは、太陽や強い光源に向けたままにしない。

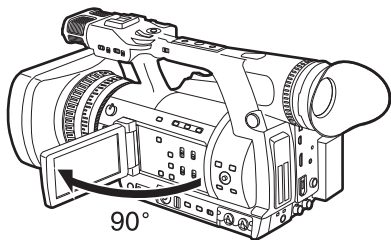
- レンズにより集光されると、内部部品が破損し、火災の原因となります。

液晶モニターを使う

1 本機の POWER/MODE スイッチを ON にする。(→ Vol. 1 の 24 ページ)

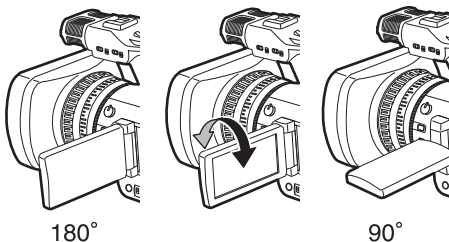
2 液晶モニターを開く。

- 開く角度は、90 度までです。それ以上、無理に開くと、本機の故障につながります。



3 液晶モニターの画面が一番見やすい位置にする。

- レンズ方向に 180 度、手前方向に 90 度まで回転します。
- 開いた状態の液晶モニターには無理な力が掛からないようにしてください。本機が故障するおそれがあります。



映像の輪郭を強調する

ビューファインダー映像や液晶モニター映像の輪郭を強調することで、フォーカスが合わせやすくなります。

輪郭を強調しても、カメラレコーダーから出力される映像や記録される映像には影響ありません。

設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の EVF PEAK LEVEL、EVF PEAK FREQ 項目を調整する。

DISPLAY SETUP	
EVF PEAK LEVEL	0
EVF PEAK FREQ	LOW
EVF SETTING	>>>
EVF B. LIGHT	NORMAL
EVF COLOR	ON
EVF MODE	AUTO
ZEBRA1 DETECT	100%
ZEBRA2 DETECT	85%
PUSH MENU TO RETURN	

液晶モニターを閉じる時は、確実に閉じてください。

ファインダーの使いかた (つづき)

画面表示を調整する

1 本機の POWER/MODE スイッチを ON にする。(→ Vol. 1 の 24 ページ)

2 MENU ボタンを押す。

- メニュー操作については、「設定メニューの基本操作」(→ Vol. 1 の 27 ページ)をご参照ください。
- 本体のボタンに対応したリモコンのボタンでも操作できます。詳しくは、「各部の名称 (リモコン)」(→ Vol. 1 の 18 ページ)をご参照ください。

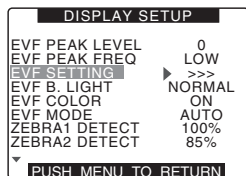
3 ビューファインダーの調整

設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の EVF SETTING 項目で CHANGE を選びます。

液晶モニターの調整

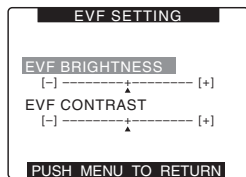
設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の LCD SETTING 項目で CHANGE を選びます。

- ビューファインダー調整の場合



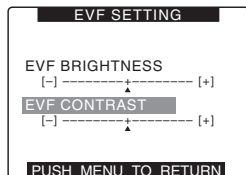
4 設定したい項目を OPERATION レバーを ▲ 方向または ▼ 方向に倒す。

- ビューファインダー調整の場合



5 選んだ項目を OPERATION レバーを ◀ 方向または ▶ 方向に倒して、調整する。

- ビューファインダー調整の場合



6 MENU ボタンを 3 度押して、メニューモードを解除する。

- EVF SETTING または LCD SETTING の各項目を選択して設定値を変更可能な状態の時、COUNTER RESET ボタンを押すと、その項目の設定値を工場出荷値にすることができません。
- ビューファインダー表示はカラーとモノクロを選択できます。(設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の EVF COLOR 項目) なお、解像度はどちらも同じです。

バックライトの明るさを変える

液晶モニターのバックライトの明るさを 5 段階で切り替えることができます。

1 設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の LCD BACKLIGHT 項目を選ぶ。

2 +1 ~ 3 の範囲から数値を選び、設定します。数値が大きいほど明るくなります。

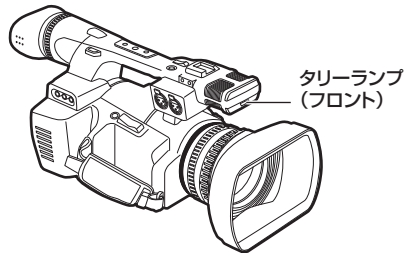
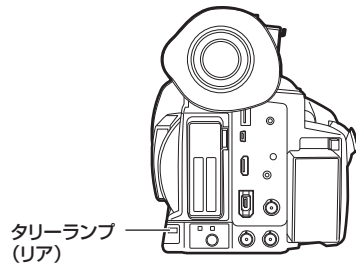
- 本体の電源を切っても、設定は保持されます。
- なお「LCD B.L.」を割りつけた USER ボタンを押すことにより LCD BACKLIGHT 項目の値を順に変えて、バックライトの明るさをワンタッチで切り替えることができます。「USER ボタンの活用」(→ 39 ページ)

タリーランプ

OTHER FUNCTIONS 画面の TALLY LAMP 項目 (→ 150 ページ) を OFF 以外に設定すると、撮影中にタリーランプを点灯させることができます。

また、本機が下記の状態の時は、タリーランプが点滅します。

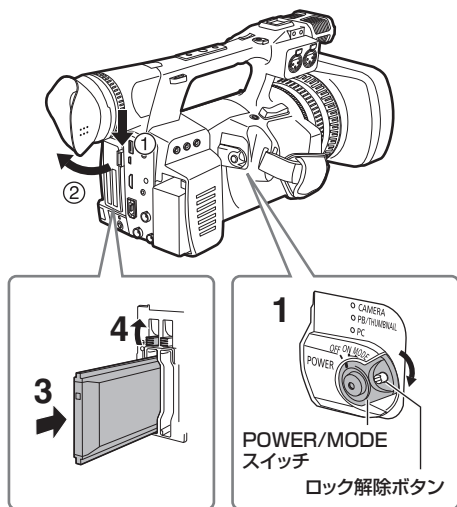
- バッテリーの残量がなくなった時 (1 秒間に 4 回)
- P2 カードの記録残量、およびバッテリーの残量が少なくなった時 (1 秒間に 1 回)
- P2 カードのアクセス中にカードを抜いた時 (1 秒間に 4 回)
- P2 カードの記録残量がなくなった時 (1 秒間に 4 回)
- GENLOCK IN 端子の基準信号の乱れ、システムエラーまたは記録異常などの警告時 (1 秒間に 4 回)



撮影の基本操作

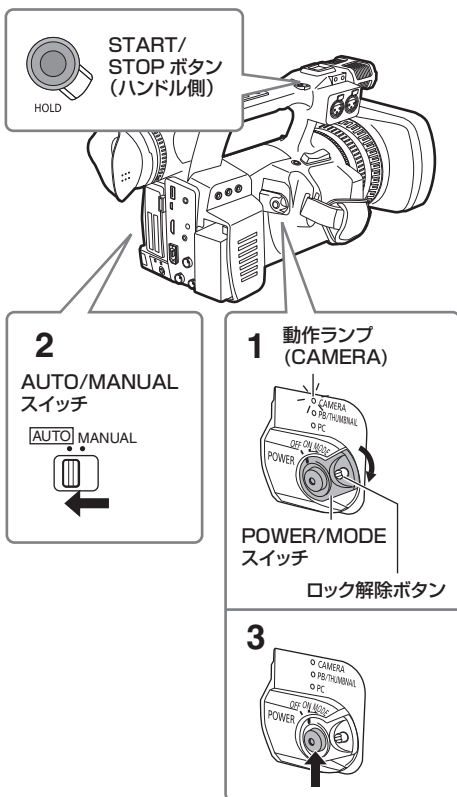
撮影準備

- 1 本機の POWER/MODE スイッチを ON にする。(→ Vol. 1 の 24 ページ)
- 2 P2 カード /SD メモリーカードスロットカバーの OPEN レバーを下方に押し (①)、スライドさせて開く (②)。
- 3 P2 カードをカードスロットの奥までしっかり差し込む。
- 4 P2 カード取り出しボタンを矢印の方向に起こし、P2 カード /SD メモリーカードスロットカバーを閉じる。
 - 2 つの P2 カードスロットがあります。
 - ほこり等から保護するため、カードスロットカバーは必ず閉じてください。
 - P2 カードアクセスランプがオレンジ色に点滅している間は、P2 カードを取り出さないでください。(→ 12 ページ)



オートモードで撮影する

- 1 本機の POWER/MODE スイッチを ON にする。(→ Vol. 1 の 24 ページ)
 - 動作ランプ (CAMERA) が赤点灯していることを確認してください。
- 2 AUTO/MANUAL スイッチを AUTO にする。
 - [A] がビューファインダーや液晶モニターの上に表示されます。
 - フォーカス、ゲイン、絞り、ホワイトバランスが自動調整されます。
- 3 START/STOP ボタン (赤) を押し、撮影を開始する。
 - 再度押すと撮影の一時停止状態になります。
 - ローアングルで撮影する時は、ハンドル側の START/STOP ボタンを使うと便利です。
 - ハンドル側の START/STOP ボタンは、誤動作防止のためにホールド機構がついています。



以下のような場合、START/STOP ボタンを押して記録を停止しても、P2 カードへの書き込み完了までに時間を要する場合があります。

そのため、すぐに START/STOP ボタンを押して記録を開始させようとしても、動作を受け付けることができません。

- 短時間記録の停止動作
 - 2 枚目の P2 カードにわたって記録した直後の停止動作
-
-

撮影の基本操作（つづき）

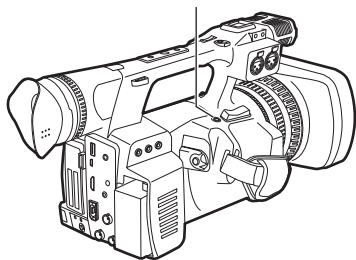
撮影した映像を確認する（REC CHECK）

記録後に、REC CHECK ボタンを押すと、最新のクリップの最後の約 2 秒間が自動的に再生されます。REC CHECK ボタンを押し続けると最大 10 秒前までの再生が可能です。

これにより記録が正しく行われたかどうかを確認できます。

- 再生後は、再び記録待ち状態になります。
- 再生時間が 10 秒以内のクリップの場合は、クリップの先頭まで戻った状態で、REC CHECK ボタンを押し続けても、現在のクリップより以前のクリップは再生されません。

REC CHECK ボタン



- バックアップ機器を DVCPRO/DV 端子、または SDI OUT 端子などに接続して、バックアップ画像を記録中の場合、この REC CHECK 中の再生画像が記録されてしまいますので、お気をつけください。
- ワンクリップレックモードでは、REC CHECK の最大戻り位置、および記録一時停止状態からの再生開始位置は、クリップの先頭ではなく、最後に記録開始した位置になります。

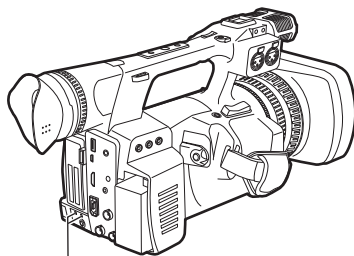
P2 カードアクセスランプ

■ CAMERA/ PB / PC (USB HOST) モード

緑色点灯	: 書き込み、読み込み可能
緑色点滅（遅）	: カード残量なし、書き込み保護状態
オレンジ点灯	: 記録対象スロット
オレンジ色点滅	: アクセス中
オレンジ色点滅（速）	: 認識中
オレンジ色同時点滅	: アクセス中のカード取り出し
消灯	: 未挿入、未フォーマット、未対応カードの挿入

■ PC (USB DEVICE) モード

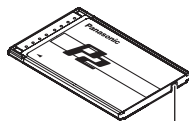
オレンジ点滅	: アクセス中
消灯	: アクセス中以外



P2 カードアクセスランプ

P2 カードの保護について

P2 カードの記録内容を誤って消してしまうことを防ぐには、P2 カードの書き込み禁止スイッチを「PROTECT」側にします。

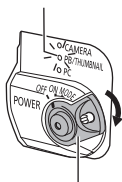


書き込み禁止スイッチ



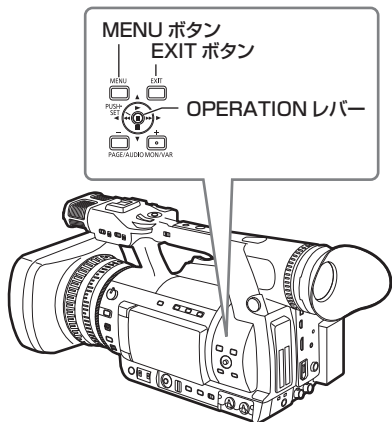
P2 カードのフォーマット

- 1 本機の POWER/MODE スイッチを ON にする。(→ Vol. 1 の 24 ページ)
- 2 POWER/MODE スイッチを回して、PB / THUMBNAILモード (PB / THUMBNAILランプが点灯) にする。
 - サムネールが表示されます。
 - 動作ランプ (PB / THUMBNAIL)



POWER/MODE スイッチ

- 3 MENU ボタンを押す。
 - サムネールメニューが表示されます。



- 4 サムネールメニューから OPERATION → FORMAT を選ぶ。(→ 92 ページ)
 - 下記のような画面が表示されますので、フォーマットしたい P2 カードが挿入されたスロット番号を選び、選択します。フォーマットしない場合は、EXIT ボタンを押してください。
 - MENU ボタンを押すと、サムネールメニュー表示が消えます。

THUMBNAIL	DELETE	
OPERATION	FORMAT	SLOT1
PROPERTY	REPAIR CLIP	SLOT2
META DATA	RE-CONNECT	SD CARD
HDD	COPY	EXIT
EXIT	EXCH.THUMB	
	EXIT	

- 5 確認の画面で YES を選ぶ。
 - 選択した P2 カードがフォーマットされます。

撮影の基本操作（つづき）

P2 カードの記録時間について

本機で使用できる P2 カード

本機では、別売の AJ-P2C064AG (64 GB)、AJ-P2E032XG (32 GB) などの、4 GB から 64 GB の P2 カードが使用できます。

(2011 年 9 月現在)

- AJ-P2C002SG (2 GB) のカードは使用できません。
- P2 カードの種類によっては、本機搭載のファームウェアのアップデートが必要になることがあります。
 - ・「本機搭載ファームウェアのアップデート」
(→ 157 ページ)
- 取扱説明書に記載された情報以外の最新情報は、下記ウェブサイトのサポートデスクをご参照ください。
(日本語) <http://panasonic.biz/sav/>
(英語) <http://pro-av.panasonic.net/>

P2 カードに記録されるクリップの分割について

本機で 8 GB 以上の P2 カードを使用した場合、1 回の連続記録時間が下表に示す時間を超えると、自動的に別のクリップとして記録を継続します。なお、P2 機器でクリップのサムネール操作（表示、削除、修復など）を行う場合は、1 つのクリップとして操作できます。ノンリニア編集ソフト、およびパーソナルコンピューターなどでは、別々のクリップとして表示されることがあります。

記録フォーマット (Native 記録を除く)	連続記録時間
AVC-I 100 DVCPRO HD	約 5 分
AVC-I 50 DVCPRO50	約 10 分
DVCPRO DV	約 20 分

P2 カードの記録時間

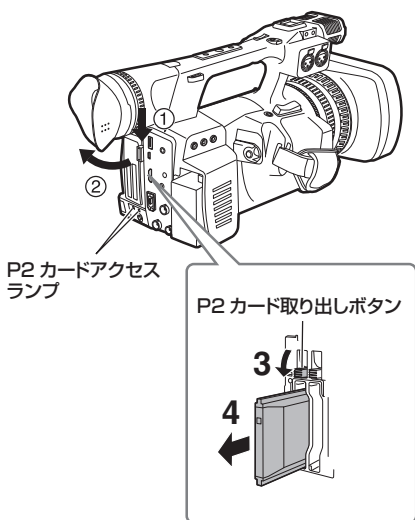
(64 GB カード 1 枚使用の場合)

システムモード	記録フォーマット (コーデック)	記録時間
HD (1080i、 720P)	AVC-I 100 DVCPRO HD	約 64 分
	AVC-I 50	約 128 分
SD (480i、576i)	DVCPRO50	約 128 分
	DVCPRO DV	約 256 分

- 上記は、通常の記録の値です。Native 記録の場合は、システムモードによりさらに長時間記録できます。
 - ・「記録フォーマット一覧」(→ 164 ページ)
- 32 GB の P2 カードの場合は上記の各記録時間の 1/2、16 GB の P2 カードの場合は 1/4、8 GB の P2 カードの場合は 1/8 となります。
- 表示容量には管理領域などが含まれており、記録に使用できる容量は上記より少なくなります。

P2 カードを取り出す

- 1 P2 カード /SD メモリーカードスロットカバーの OPEN レバーを下方に押し (①)、スライドさせて開く (②)。
- 2 P2 カードアクセスランプがオレンジ色に点滅していないことを確認する。
- 3 P2 カード取り出しボタンを倒して、押す。
- 4 P2 カードを取り出す。



- P2 カード故障の原因となりますので、以下の状態の時は、カードを取り出したり、電源を切ったりしないでください。
 - ① 挿入された P2 カードを認識中 (P2 カードアクセスランプがオレンジ色に点滅) の間。
 - ② 記録中や記録終了処理中、および P2 カードアクセスランプが点滅している間。

- 万が一、フォーマットやアクセス中の P2 カードを取り出した場合、ビューファインダーと液晶モニター画面に「TURN POWER OFF」と表示され、タリランプで警告表示を行います。この場合、電源を入れ直してください。
 - フォーマット中に取り出した時：フォーマットをやり直してください。
 - アクセス中に取り出した時：クリップが不正規の状態になることがあります。(→ 78 ページ) クリップをご確認の上、修復を行ってください。「クリップの修復」(→ 85 ページ)
- プリレックの直後、空きスロットに P2 カードを挿入しても、すぐに認識されません。
- 再生中は、他の空きスロットに P2 カードを挿入しても認識されず、P2 カードアクセスランプは点灯しません。再生が終了してから、P2 カードの認識を始めます。
- P2 カードアクセスランプは、OTHER FUNCTIONS 画面の ACCESS LED 項目で常に消灯させる設定ができます。この場合、電源を OFF にしてから取り出すか、カード装着後または動作 (記録、再生など) 停止後、十分時間をおいてから取り出してください。
- PB / THUMBNAIL モード、PC モード (USB HOST) の時、P2 カードを取り出すと画面はいったん閉じてから更新されます。ただし、カードを抜く直前の画面がいずれであっても、サムネール画面に戻ります。またこの時、もう一方のスロットに P2 カードが残っている場合、アクセス中になりますので、連続して P2 カードを引き抜く際には、お気をつけください。

P2 カード使用上の注意

P2 カードは必ず P2 機器でフォーマットしてご使用ください。

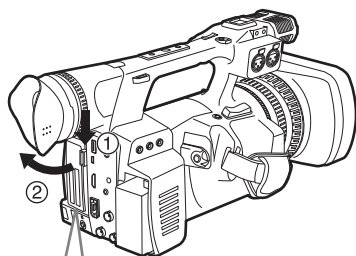
SD / SDHC メモリーカードを使う

SD / SDHC メモリーカード（以後、両カードとも SD メモリーカードと記載します）を使って、SCENE ファイル、USER ファイルの保存・読み込みやクリップメタデータのアップロードができます。（→ 58 ページ）

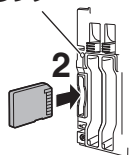
SD メモリーカードの取り付け・取り出し

取り付け

- 1 P2 カード / SD メモリーカードスロットカバーの OPEN レバーを下方に押し（①）、スライドさせて開く（②）。
- 2 カードの向きに気をつけて、SD メモリーカードスロットに入れる。



アクセ斯拉ンプ



- 3 P2 カード / SD メモリーカードスロットカバーを閉じる。

取り出し

- 1 P2 カード / SD メモリーカードスロットカバーを開け、アクセ斯拉ンプが点灯していないことを確認する。
- 2 カードをさらに本体側へ押し込み、カードをつまんで取り出す。
- 3 P2 カード / SD メモリーカードスロットカバーを閉じる。

SD メモリーカードのフォーマット

- 1 本機の POWER/MODE スイッチを ON にする。（→ Vol. 1 の 24 ページ）
- 2 POWER/MODE スイッチを回して、PB / THUMBNAILモード（PB / THUMBNAILランプが点灯）にする。
- 3 MENU ボタンを押す。
- 4 サムネールメニューから OPERATION → FORMAT → SD CARD を選ぶ。（→ 92 ページ）
 - フォーマットしない場合は、EXIT ボタンを押してください。
- 5 確認の画面で YES を選ぶ。
 - 選択した SD メモリーカードがフォーマットされます。

THUMBNAIL	DELETE	
OPERATION	FORMAT	SLOT1
PROPERTY	REPAIR CLIP	SLOT2
META DATA	RE-CONNECT	SD CARD
HDD	COPY	EXIT
EXIT	EXCH.THUMB	
	EXIT	

- 5 確認の画面で YES を選ぶ。
 - 選択した SD メモリーカードがフォーマットされます。
-
- 設定メニュー CARD FUNCTIONS 画面の SD CARD FORMAT 項目からもフォーマットできます。（→ 149 ページ）
 - SDHC カードの場合、32 KB の容量は使用済みとなります。
-

SD メモリーカード使用上の注意

本機で使用する SD メモリーカードは SD 規格 / SDHC 規格に準拠したものをお使いください。

また、SD メモリーカードのフォーマットは、必ず本機で行ってください。本機では、下記の容量の SD メモリーカードが使用できます。

なお、SDXC メモリーカードには対応していません。

SD (8 MB ~ 2 GB まで)

SDHC (4 GB ~ 32 GB まで)

取扱説明書に記載された情報以外の最新情報は、下記のウェブサイトより、P2 のサポートページをご参照ください。

(日本語) <http://panasonic.biz/sav/>

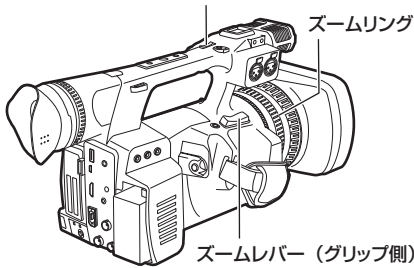
(英語) <http://pro-av.panasonic.net/>

- 使用時、保管時は以下の点にお気をつけください。
 - 高温・多湿を避ける。
 - 水滴を付けない。
 - 帯電を避ける。
- SD メモリーカード使用時は、必ずカバーを閉じてください。
- 「メモリーカードのご使用について」(→ 161 ページ)もあわせてご参照ください。

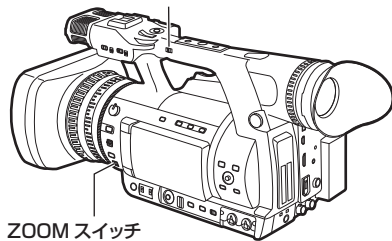
ズーム機能を使う

本機は、22 倍光学ズームを備えています。
ズームレバー、またはズームリングでズーム動作を行います。

ズームレバー（ハンドル側）



HANDLE ZOOM スイッチ



ズームレバー

ZOOM スイッチを SERVO 位置にすると、ズームレバーでモータードライブによるズーム動作が行えます。

T:ズームイン

W:ズームアウト

グリップ側のズームレバーを軽く押すと低速でズーム動作を行い、強く押すと高速でズーム動作を行います。

ハンドル側ズームレバー

ハンドル側のズームレバーで行うズーム動作のスピードは、HANDLE ZOOM スイッチで3段階に切り替えることができます。

HANDLE ZOOM スイッチのスピード設定は、設定メニュー SW MODE 画面の HANDLE ZOOM 項目で変更できます。(➔ 137 ページ)

ズームリング

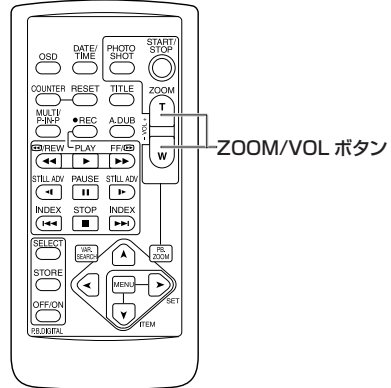
ZOOM スイッチを MANUAL 位置にすると、ズームリングで手動によるズーム動作が行えます。

• ZOOM スイッチが SERVO 位置の時は手動でズーム操作を行わないでください。故障の原因になります。

リモコンでの操作

ZOOM/VOL ボタンを押すと、モータードライブでのズーム動作を行います。

• ズームスピードは中速に固定されています。



デジタルズーム機能

USER MAIN または USER1 ～ 4 ボタンのいずれかに、D.ZOOM を割り当てることによって、デジタルズーム機能を使うことができます。(➔ 39ページ)
D.ZOOM を割り当てた USER ボタンを押すごとに、倍率が OFF (× 1) → 2 倍 (× 2) → 5 倍 (× 5) → 10 倍 (× 10) → OFF (× 1) の順に切り替わります。

- OFF (× 1) 以外が選択されているときは、ビューファインダーや液晶モニターの画面に、現在の倍率が表示されます。
- 「USER ボタンの活用」(➔ 39 ページ)

デジタルズーム機能の使用に関しては、以下の点にお気をつけください。

- DRS (ダイナミックレンジストレッチャー) 機能(➔ 132ページ)およびSCAN REVERSE機能(➔ 135ページ)が動作中はデジタルズームは動作しません。
- デジタルズーム機能が動作中は、FBC (フラッシュバンド補正)機能(➔ 38 ページ)は動作しません。なおデジタルズームをオフに戻した時、FBC機能は、再び動作します。
- デジタルズーム機能が動作しているときに、DRS 機能や SCAN REVERSE 機能を動作させると、デジタルズーム機能はオフされます。

プログレッシブモードで撮影する

本機は、1080i と 480i (576i) モードのとき、設定メニューの CAMERA MODE 項目で 24P、24PA、30P (25P) を選択すると、プログレッシブで撮影することができます。

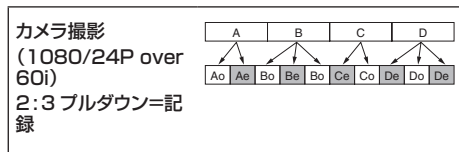
このとき、記録方式は、カメラの撮影フレームレートのまま記録する Native 記録方式と、59.94 (50) フレームにブルダウンして記録する通常記録方式を選択できます。

通常記録 (ブルダウン記録)

24P は 2:3 ブルダウン、30P (25P) は 2:2 ブルダウンし 59.94i (50i) として記録します。

24PA (2:3:3:2 アドバンスドブルダウン) にも対応しています。

なお、AVC-Intra では、ブルダウン記録に対応していません。



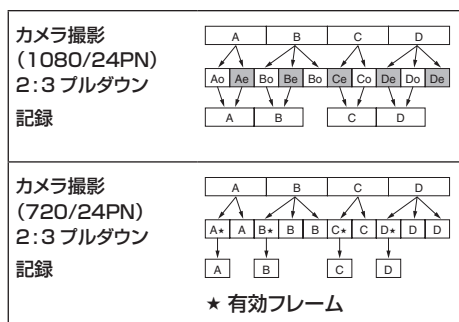
- 24P/24PA の場合は 5 フレーム周期、24PN (Native 記録) では 4 フレーム周期、720P の 30PN/25PN (Native 記録) では 2 フレーム周期の先頭から記録が開始されます。そのため、記録周期の異なるシステムモードのクリップに続けて記録すると、タイムコードが不連続になることがあります。
- P2 カードを挿入後、あるいは電源を ON にした直後に記録を開始した場合でも、本機の内部メモリーを使用して記録が開始されます。この場合、P2 カードの認識が終わるまで記録を停止できません。
P2 カードの状態は、DISP/MODE CHK ボタンを押し、ビューファインダーや液晶モニター画面に表示される SLOT 1、2 の行で確認してください。
- 24PA (2:3:3:2 アドバンスドブルダウン) に対応した編集システムを使用すると、24P (2:3 ブルダウン) に比べ画質の劣化が少ない編集ができます。
- 24PA に対応した編集システムを使用しない場合は、通常の 24P で撮影を行ってください。

Native 記録

1080i で AV C-Intra モードの 24PN、30PN (25PN) を選択した場合に有効フレームのみを抜き出して記録する方式です。

また、720P では、DVCPRO HD と AVC-Intra とともに Native 記録方式に対応し、ブルダウン記録よりも 2 ~ 2.5 倍長く記録することができます。

なお、Native 記録の場合でも、カメラ映像の出力や再生映像の出力は、ブルダウンされた 59.94 (50) フレームになります。



バリアブルフレームレート (VFR) で記録する

本機は、1080i および 720P モード時にコマ落とし (アンダークランク) や高速度 (オーバークランク) 撮影ができます。Native (PN) 記録モードとスタンダード (OVER) 記録が選択できます。

Native VFR 記録

1 1080i または 720P モードで、設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の REC FORMAT 項目を AVC-I 100/24PN (または 30PN、25PN) に設定する。

2 設定メニュー SCENE FILE 画面の VFR 項目を ON に設定し、FRAME RATE 項目を撮影意図に合わせて設定する。

SHTR/F.RATE ダイアルを用いてフレームレートを変更することもできます。

- 「FRAME RATE の設定の仕方」(→ 51 ページ)

3 START/STOP ボタンを押す。
VFR モード (Native VFR) で記録されます。

記録フォーマットは AVC-I 100、AVC-I 50、30PN (25PN)、24PN を組み合わせて選択することができます。

- なお、720P では DVCPRO HD も選択できます。
- 「FRAME RATE の設定の仕方」(→ 51 ページ)
 - 「SYSTEM SETUP 画面」(→ 134 ページ)

Native VFR 記録時は、以下の内容にお気をつけください。

- ブリレック、ルーブレック、インターバル記録、ワンショット記録、およびワンクリップレックはできません。
- 記録待機中および記録中は 1394 出力されません。
- 記録中は、シーンダイアルを切り替えても VFR 項目の ON/OFF とフレームレートは変化しません。
- 音声は記録できません。^{*1}
このとき、音声は出力されず、レベルメーターの上に「A REC」が表示されます。また、記録開始時に「VFR ON、NO AUDIO RECORDING」が表示されます。
- タイムコードはレックラン (R-RUN) に固定されます。^{*1}
- P2 カードに記録されている映像より、サムネイル画面が 1 フレーム遅れて作成されることがありますが、故障ではありません。
- フレームレートの設定を変更する場合に画面が乱れる場合があります。
- 4 フレーム以下に設定しているときは、ゲインは 0 dB に固定されます。

また、AGC、オートアイリス、オートフォーカス、および ATW は動作しません。すべてマニュアル動作になります。

- フレームレートが低い場合、画面に赤、青、緑の点が出るがありますが、故障ではありません。

*1 記録モードが 24PN 時にフレームレートが 24 フレームの場合、および記録モードが 30PN (25PN) 時にフレームレートが 30 フレーム (25 フレーム) の場合は、音声を記録することができます。また、タイムコードをフリーラン (F-RUN) に設定できます。

バリアブルフレームレート (VFR) で記録する (つづき)

スタンダード VFR 記録 (プルダウン記録)

1 1080i または 720P モードで、設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の REC FORMAT 項目を AVC-I 100/60i (60P) (または 50i、50P) に設定する。

2 設定メニュー SCENE FILE 画面の VFR 項目を ON に設定し、FRAME RATE 項目を撮影意図に合わせて設定する。

SHTR/F.RATE ダイアルを用いてフレームレートを変更することもできます。

- 「FRAME RATE の設定の仕方」(→ 51 ページ)

3 START/STOP ボタンを押す。
VFR モード (プルダウン) で記録されます。

記録フォーマットは、720P では AVC-I 100/60P (50P)、AVC-I 50/60P (50P)、DVCPROHD/60P (50P) を、1080i では AVC-I 100/60i (50i)、AVC-I 50/60i (50i)、DVCPROHD/60i (50i) を組み合わせて選択することができます。

- 「FRAME RATE の設定の仕方」(→ 51 ページ)
- 「SYSTEM SETUP 画面」(→ 134 ページ)

- AVC-Intra および 1080i の DVCPRO HD ではプルダウン情報は記録されず、クリップは 60i、60P (50i、50P) として記録されます。
- フレームレートコンバーターなどでアクティブフレームを抜き出して、オーバークランクやアンダークランクにした場合、音声は再生できなくなります。

スタンダード VFR 記録時には、以下の内容に気を付けてください。

- ブリレック、ルーブレック、インターバル記録、ワンショット記録、およびワンクリップレックはできません。
 - 記録待機中および記録中に 1394 を出力しません。ただし、AVC-Intra モードのときは出力されません。
 - 記録中は、シーンダイヤルを切り替えても VFR 項目の ON/OFF とフレームレートは変化しません。
 - 音声が記録されます。
 - フレームレートの設定を変更する場合に画面が乱れる場合があります。
 - 4 フレーム以下に設定しているときは、ゲインは 0 dB に固定されます。
- また、AGC、オートアイリス、および ATW は動作しません。すべてマニュアル動作になります。
- フレームレートが低い場合、画面に赤、青、緑の点が出ることがありますが、故障ではありません。

プログレッシブモードと VFR 記録機能の活用

映画製作のための標準速撮影

スクリーン上映を目的とした制作の場合、フィルム上映時と同じ 24 fps（毎秒 24 コマ）のフレームレートが通常（1 倍速）となります。下記の設定にすることにより上映時と同じ再生ができます。720P プログレッシブとシネライクガンマによりフィルムライクな映像が得られます。

映画製作のための標準設定

SYSTEM MODE 設定			記録フレームレート
SYSTEM MODE	その他の項目の設定		
720-59.94P	REC FORMAT	AVC-I 100/24PN (AVC-I 50/24PN) (DVCPROHD/24PN)	24 フレーム
	VFR	OFF	
1080-59.94i	REC FORMAT	AVC-I 100/24PN (AVC-I 50/24PN) (DVCPROHD/60i)	
	CAMERA MODE*1	24P、24PA	
	VFR	OFF	

*1：設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の REC FORMAT 項目が DVCPROHD/60i の場合のみ

バリアブルフレームレート (VFR) で記録する (つづき)

CM/ドラマ制作のための標準速撮影

HDTV/SDTV 放送などテレビ画面上映を目的とした制作の場合、30 fps (毎秒 30 コマ)、50 Hz では 25 fps (毎秒 25 コマ) のフレームレートが通常 (1 倍速) となります。下記の設定にすることにより放送局と同じ再生ができます。CM、ミュージッククリップがフィルムライクな映像で、しかもテレビ放送に適したコマ数で収録できます。

CM/ドラマ制作のための標準設定

SYSTEM MODE 設定			記録フレームレート
SYSTEM MODE	そのほかの項目の設定		
720-59.94P	REC FORMAT	AVC-I 100/30PN (AVC-I 50/30PN) (DVCPROHD/30PN)	30 フレーム
	VFR	OFF	
1080-59.94i	REC FORMAT	AVC-I 100/30PN (AVC-I 50/30PN) (DVCPROHD/60i)	
	CAMERA MODE*1	30P	
	VFR	OFF	
720-50P	REC FORMAT	AVC-I 100/25PN (AVC-I 50/25PN) (DVCPROHD/25PN)	
	VFR	OFF	
1080-50i	REC FORMAT	AVC-I 100/25PN (AVC-I 50/25PN) (DVCPROHD/50i)	
	CAMERA MODE*1	25P	
	VFR	OFF	

*1 : 設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の REC FORMAT 項目が DVCPROHD/60i (50i) の場合のみ

アンダークランク撮影

雲の流れ、雑踏の中に立つ人物、カンファなどの演出に用いられるクイックモーション効果です。例えば再生フレーム指定するための記録フォーマット 24P で撮影した場合、VFR 記録フレームレートを 12 fps にすれば 2 倍速のクイックモーション効果が得られます。

アンダークランク撮影のための標準設定

SYSTEM MODE 設定			記録フレームレート
SYSTEM MODE	そのほかの項目の設定		
1080-59.94i	REC FORMAT	AVC-I 100/24PN (AVC-I 50/24PN)	1 ~ 22 フレーム
	VFR	ON	
	FRAME RATE	23FRAME 以下に設定	
1080-50i	REC FORMAT	AVC-I 100/25PN (AVC-I 50/25PN)	1 ~ 24 フレーム
	VFR	ON	
	FRAME RATE	24FRAME 以下に設定	
720-59.94P	REC FORMAT	AVC-I 100/24PN (AVC-I 50/24PN) (DVCPROHD/24PN)	1 ~ 22 フレーム
	VFR	ON	
	FRAME RATE	22FRAME 以下に設定	
720-50P	REC FORMAT	AVC-I 100/25PN (AVC-I 50/25PN) (DVCPROHD/25PN)	1 ~ 24 フレーム
	VFR	ON	
	FRAME RATE	24FRAME 以下に設定	

- REC FORMAT 項目が DVCPROHD/60P (50P) の場合、収録した映像をノンリニア編集システムで処理することでクイックモーションの効果が得られます。

バリアブルフレームレート（VFR）で記録する（つづき）

オーバークランク撮影

カーチェイスやアクション、クライマックスシーンなどのドラマチックな演出に用いられるスローモーション効果です。例えば再生フレーム指定するための記録フォーマット 24P で撮影した場合、記録フレームレートを 60 fps にすれば 2.5 倍速のスローモーション効果が得られます。720P プロGRESSIVE 映像が滑らかで高品質のスローモーションを生み出します。

また、1080i では再生フレーム指定するための記録フォーマット 24P で撮影した場合、記録フレームレートを 30 fps にすれば 1.25 倍速のスローモーション効果が得られます。

オーバークランク撮影のための標準設定

SYSTEM MODE 設定			記録フレームレート
SYSTEM MODE	その他の項目の設定		
1080-59.94i	REC FORMAT	AVC-I 100/24PN (AVC-I 50/24PN)	25 ~ 30 フレーム
	VFR	ON	
	FRAME RATE	25FRAME 以上に設定	
720-59.94P	REC FORMAT	AVC-I 100/24PN (AVC-I 50/24PN) (DVCPROHD/24PN)	25 ~ 60 フレーム
	VFR	ON	
	FRAME RATE	25FRAME 以上に設定	
720-50P	REC FORMAT	AVC-I 100/25PN (AVC-I 50/25PN) (DVCPROHD/25PN)	26 ~ 50 フレーム
	VFR	ON	
	FRAME RATE	26FRAME 以上に設定	

- REC FORMAT 項目が DVCPROHD/60P（50P）の場合、収録した映像をノンリニア収録システムで処理することでスローモーションの効果が得られます。
- SYSTEM MODE 項目が「1080-50i」、REC FORMAT 項目が「AVC-I*** /25PN」の場合、スローモーションの効果が得られません。

流れる映像効果撮影

自動車が通行する車道の向かい側にいる人の撮影時、高速で動く自動車を流れる映像にし、静止している人を浮かび上がらせて撮影するときなど、流れる映像効果を得ることができます。

- 1 設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の SYSTEM MODE 項目を 1080-59.94i (50i) に、REC FORMAT 項目を AVC-I 100 (50)/60i (50i) もしくは DVCPROHD/60i (50i) に、VFR 項目を ON にそれぞれ設定する。

FRAME RATE 項目を撮影意図に合わせて小さい値に設定します。

720P でも同様に設定できます。

- 2 START/STOP ボタンを押す。

VFR モードで記録されます。

流れる映像効果記録中の注意事項

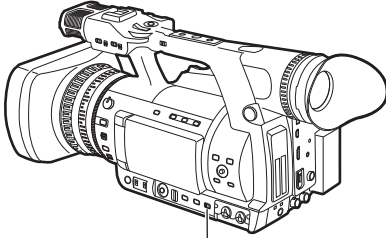
- AVC-Intra 記録を選択しているときは以下の点にお気をつけください。
 - 1080i のとき、記録される映像信号および HD SDI 出力信号は 60i (50i) になり、すべてのフレームが有効フレームとなります。
 - 1080i と 720P の両方で、記録されたクリップにはプルダウン情報は付加されません。これらの情報を使用するときは、720P の DVCPRO HD モードを選択してください。
- 音声記録はすべてのフレームレートにおいて P2 カードに記録されます。
- 固定シャッターおよびシンクロスキャンは有効です。

マニュアルモードで撮影する

手動でフォーカス、絞り、ゲイン、およびホワイトバランスを調整する場合は、本機をマニュアルモードにします。

マニュアルモードに切り替える

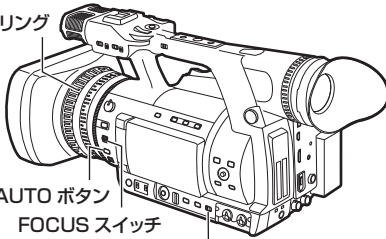
AUTO/MANUAL スイッチを、MANUAL 側にスライドさせてマニュアルモードに切り替えます。(ビューファインダーや液晶モニターの **A** 表示が消えます)



AUTO/MANUAL スイッチ

ピントを合わせる (マニュアルフォーカス)

フォーカスリング



PUSH AUTO ボタン

FOCUS スイッチ

AUTO/MANUAL スイッチ

PUSH AUTO ボタン

PUSH AUTO ボタンを押している間は、自動で高速にピントを合わせることができます。

マニュアルフォーカスアシストモードに切り替える

設定メニュー SW MODE 画面の MF ASSIST 項目を ON にすることで、マニュアルフォーカスモードから切り替わります。

- マニュアルフォーカスモードと比べて、フォーカスリングの回転が約半分の操作で、フォーカスを調整 (粗調整) できます。
- フォーカスリングでの調整の後、フォーカスを自動で調整 (微調整) します。
- フォーカスのズレが大きい場合は、フォーカスが合わない場合があります。
- 自動調整実施後は、フォーカスリングを操作するまでは、次の自動調整を行いません。
- フリッカーが生じると、オートフォーカスの制御が正しく動作しない時がありますので、照明に適したシャッタースピードを選んでください。(→ 49 ページ)
- 60i (50i)、60P (50P) 以外の時にオートフォーカスモードにすると、通常のフォーカスモードの時よりも、フォーカス制御を行う時間が若干長くなります。
- 設定メニュー AUTO SW 画面の AF 項目で ON が選ばれている場合、オートモードの時は FOCUS スイッチのポジションに関係なくオートフォーカスになります。(→ 139 ページ)
- マクロ撮影時は「AF」、「MF」、「MA」の画面表示が白黒反転文字になります。

1 AUTO/MANUAL スイッチで、マニュアルモードに切り替える。

2 FOCUS スイッチでフォーカスの制御方法を切り替えます。

A (AUTO): (オートフォーカスモード)

自動的にピントを合わせます。

M (MANUAL): (マニュアルフォーカスモード)

フォーカスリングを手動で制御して、ピントを合わせます。

∞:

ピント距離を無限遠に合わせた後、マニュアルフォーカスモードになります。

∞の位置にしても、FOCUS スイッチは、M (MANUAL) の位置に戻ります。

フォーカスアシスト機能を使う

フォーカスを合わせやすくするために、FOCUS ASSIST ボタンでの拡大表示あるいはフォーカスインレッド表示と、フォーカスバー表示をすることができます。

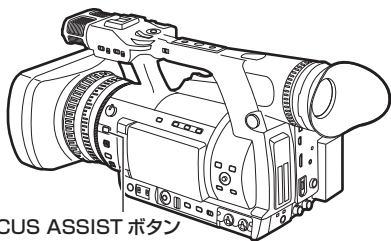
FOCUS ASSIST ボタン

FOCUS ASSIST ボタンを押すと映像の輪郭部分が、赤色でふち取られて表示、または液晶モニターの画面中央部分が拡大表示され、ピントを容易に合わせることができます。

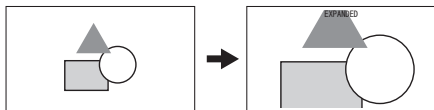
FOCUS ASSIST ボタンを押した時のビューファインダーや液晶モニターの画面表示は、設定メニュー SW MODE 画面の FOCUS ASSIST 項目で設定することができます。

拡大表示 (EXPAND) :

FOCUS ASSIST ボタンを押すと、画面中央部分が約 3 倍に拡大表示されて、フォーカスを容易に合わせることができます。



FOCUS ASSIST ボタン



- 拡大表示中は状態表示およびゼブラパターンが消え、画面上部に「EXPANDED」と表示されます。
- 記録中は拡大表示しません。

フォーカスインレッド (IN RED) :

ビューファインダーや液晶モニターに表示される映像の輪郭部分が赤色でふち取られます。このとき、画面枠が赤くなります。

ピントを合わせたい被写体の輪郭が赤色になるように、フォーカスを調整してください。

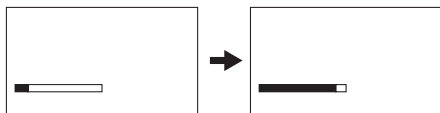
液晶モニター、ビューファインダーのみ拡大表示されます。

VIDEO OUT、SDI OUT、HDMI OUT では拡大表示されませんが、各種ステータスを表示している場合、ステータス表示は消えます。

フォーカスバー表示 (FOCUS BAR) :

設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の FOCUS BAR 項目を ON にすると、フォーカスバーを表示することができます。

フォーカスが合っている度合いをバーの長さで表示します。

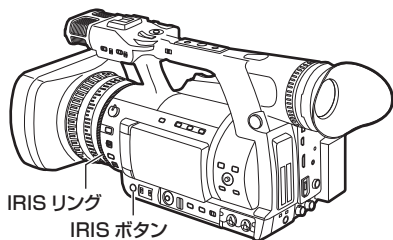


フォーカスが合っていないとき

フォーカスが合っていると、バーが右方向に伸びる

マニュアルモードで撮影する（つづき）

絞りを調整する



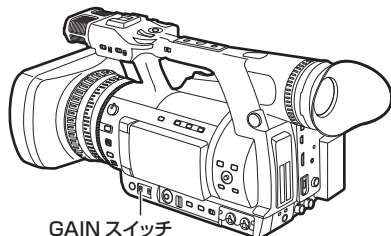
- 1 AUTO/MANUAL スイッチで、マニュアルモードに切り替える。(→ 28 ページ)
- 2 IRIS ボタンを押して、レンズ絞りの調整方法を切り替える。
AUTO IRIS : (オートアイリス)
絞り値を自動調整します。
MANUAL IRIS : (マニュアルアイリス)
手動でレンズの絞りを調整します。
- 3 マニュアルアイリスになっている時は、IRIS リングを回して、レンズの絞りを調整する。
オートアイリス時は、このリングでレンズの絞りを補正することができます。

設定メニュー AUTO SW 画面の A. IRIS 項目で ON が選ばれている場合、オートモードの時は、強制的にオートアイリスになります。(→ 139 ページ)

- 本機におけるレンズ絞りが開放の時の F 値は、レンズズームの広角側 (W) 端で F1.6、望遠側 (T) 端で F3.2 になっています。ビューファインダーや液晶モニターに表示されるレンズ絞りが開放の時のアイリス表示には、広角側 (W) 端で OPEN が表示され、望遠側 (T) 端では F3.2 または OPEN が表示されます。
- Y GET を割り当てた USER ボタン(→ 39 ページ)を押すと、画面中央部の輝度レベルを表示できます。

ゲインを調整する

カメラレコーダーの画面が暗い時は、ゲインを上げ、画面を明るくすることができます。



- 1 AUTO/MANUAL スイッチで、マニュアルモードに切り替える。(→ 28 ページ)
- 2 GAIN スイッチで、ゲインを切り替える。
L: 通常は、この位置にします。
(工場出荷時は 0 dB)
M: カメラ映像アンプのゲインを上げます。
(工場出荷時は 6 dB)
H: カメラ映像アンプのゲインを上げます。
(工場出荷時は 12 dB)

L、M、H それぞれのゲイン値は、設定メニュー SW MODE 画面の LOW GAIN、MID GAIN、HIGH GAIN 項目で変更することができます。(→ 137 ページ)

設定メニュー AUTO SW 画面の AGC 項目で OFF 以外が選ばれている場合、オートモードの時は GAIN スイッチのポジションに関係なくオートゲインになります。(→ 139 ページ)

パリアブルフレームレート (VFR) モードで、フレームレートを 4 フレーム以下に設定しているときは、ゲインは 0 dB 固定となります。

スーパーゲインを使う

暗い場所で撮影する時、さらにゲインを上げることができます。

設定メニュー SW MODE 画面で SUPER GAIN 項目を 24dB、30 dB、BOTH のどれかを選択します。BOTH の場合、USER ボタンを押すたびに、24dB → 30dB → 通常ゲインのように切り替わります。

S・GAIN を割り当てた USER ボタンを押すと、選択したゲインに切り替わります。

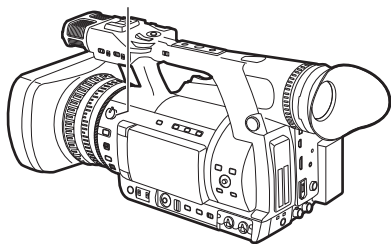
- 「USER ボタンの活用」 (→ 39 ページ)
- バリアブルフレームレート (VFR) モードで、フレームレートを 4 フレーム以下に設定しているときは、スーパーゲインは動作しません。
- AUTO/MANUAL スイッチを AUTO に設定していても、スーパーゲインを設定したときは AGC は動作しません。

光量調節

外光が強い時 ND FILTER ダイヤルで、使用する ND フィルター (光量の調節フィルター) を切り替えることができます。

- OFF** : ND フィルターを使用しません。
1/4 : 光の量を、約 4 分の 1 にカットします。
1/16 : 光の量を、約 16 分の 1 にカットします。
1/64 : 光の量を、約 64 分の 1 にカットします。

ND FILTER ダイヤル



ホワイトバランス / ブラックバランスを調整する

本機を使用し、常に高画質の映像を得るためには、状況に応じたブラックバランスとホワイトバランスの調整が必要です。

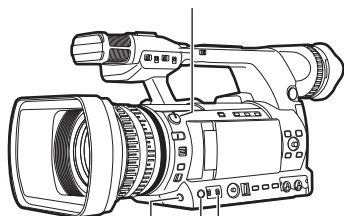
GENLOCK によって映像が乱れた時に、ホワイトバランスまたはブラックバランスの調整を行うと、正しく調整できない場合があります。映像が正常に戻った後に、再度ホワイトバランスまたはブラックバランスの調整を行ってください。

ホワイトバランスを調整する

照明条件が変わったときには、必ず調整し直してください。右記の手順でホワイトバランスを自動調整します。

ND FILTER ダイヤル

MOS センサーに入る光の量を調整します。



AWB ボタン

AWB 実行時に使用します。

WHITE BAL スイッチ

A、または B に設定します。

GAIN スイッチ

通常は 0 dB。暗すぎるときは、適切なゲインに設定します。

1 GAIN スイッチ、WHITE BAL スイッチをそれぞれ設定する。

- WHITE BAL スイッチは調整値を保存するポジションとして A または B を選択します。

2 照明条件に合わせて、ND FILTER ダイヤルの設定を切り替える。

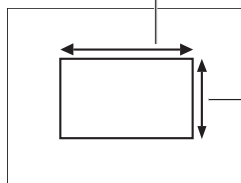
ND FILTER ダイヤルの設定例については、「光量調節」(⇒ 31 ページ) をご参照ください。

3 被写体の照明光源と同じ条件のところにホワイトパターンを置き、ズームアップして画面に白を映す。

- 被写体近くの白い物 (白布、白壁) で代用することもできます。必要な白の大きさは、下図の通りです。

- 画面内に高輝度スポットを入れないようにしてください。
- 白い物は、画面の中心に写してください。

画面の幅の 1/3 以上



画面の高さ
の 1/3 以上

4 レンズの絞りを調整する。

- Y GET 機能 (⇒ 122 ページ) 動作させ、表示が約 70 % になるようにアイリスを調整します。

5 AWB ボタンを押す。

- ホワイトバランスの自動調整が実行されます。

6 調整中、ビューファインダー画面および液晶モニターには、下記のメッセージが表示される。

AWB Ach ACTIVE

7 数秒で調整が完了し、下記のメッセージが表示される。

- 調整値は、設定したメモリー（A または B）に自動的に記憶されます。

AWB A OK 3.2K

- このときシーンファイルの COLOR TEMP 設定が 0 以外になっていると、C TEMP + 7 ~ - 7 が表示されます。

8 被写体の色温度が、2300 K よりも低い場合や 9900 K よりも高い場合は、下記のメッセージが表示される。

- 矢印のうち、下向きの矢印（↓）は表示温度よりも低い状態を示し、上向きの矢印（↑）は表示色温度より高い状態を示します。

AWB A OK 2.3K ↓

ホワイトバランスを調整する時間がないとき

WHITE BAL スイッチを PRST にします。

- AWB ボタンを押すたびに、3200 K、5600 K の変更ができます。

ホワイトバランスの自動調整ができないとき

ホワイトバランスの調整が正常に終了しなかったときは、ビューファインダー画面および液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。

エラーメッセージ	内容 →調整内容
AWB Ach (または Bch) NG	色温度が高すぎる、または低すぎる
LOW LIGHT	光量が不足している →光量を多くする。 または、ゲインを上げる。
LEVEL OVER	光量が多すぎる →光量を少なくする。 または、ゲインを下げる。

ホワイトバランス関連のビューファインダー表示について

- ビューファインダーの画面表示については、「画面の表示」(⇒ 121 ページ) をご参照ください。

オートトラッキングホワイトバランス (ATW) の設定

本機は、照明条件に応じて画像のホワイトバランスを自動追尾させる、オートトラッキングホワイトバランス (ATW) 機能を備えています。

ATW 機能は、設定メニュー SW MODE 画面の ATW 項目を B ch に設定することにより、WHITE BAL スイッチの B に機能を割り当てることができます。

また、USER MAIN、USER1 ~ 4 ボタンに ATW 機能を割り当てすることもできます。

- 「USER ボタンの活用」(⇒ 39 ページ)

オートトラッキングホワイトバランスを解除するには

ATW を割り付けた USER ボタンを再度押すか、WHITE BAL スイッチを切り替えます。ただし WHITE BAL スイッチの B に ATW を設定している場合は、USER ボタンでは解除されません。

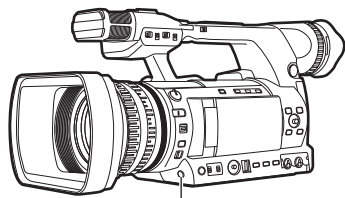
- 本機能は、ホワイトバランスの精度を 100 % 保証する機能ではありません。照明条件の変化に対する追従性およびホワイトバランスの引き込み精度には、多少余裕を持たせていますので、本機能の取り扱いにはお気をつけください。
- バリアブルフレームレート (VFR) モードでフレームレートを 4 フレーム以下に設定しているときは、ATW は動作しません。

ブラックバランスを調整する

ブラックバランスは、下記の場合に調整が必要です。

- 本機を初めて使用するとき
- 長時間使用しなかったあとに使用するとき
- 周囲の温度が大幅に変化した状態で使用するとき
- ゲイン切り替え値を変更したとき
- 設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の SYSTEM MODE 項目、REC FORMAT 項目を切り替えたとき

最適な映像を撮影するために、撮影直前にブラックバランス調整を実施することをお奨めします。



AWB ボタン
ABB 実行時に使用します。

1 ABB ボタンを約 2 秒間押し続ける。

- ホワイトバランス調整に続いて、ブラックバランスの調整が実施されます。

まずホワイトバランス調整が行われますのでホワイトバランスを調整する条件を整えてから行ってください。

2 調整中、ビューファインダー画面には下記のメッセージが表示される。

ABB ACTIVE

3 数秒で調整が完了し、下記のメッセージが表示される。

ABB END

調整値は自動的にメモリーに記憶されます。

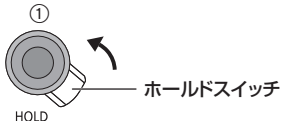
-
- ブラックバランス調整中、絞りは自動的に遮光状態になります。
 - 記録中はブラックバランス調整はできません。
 - ABB 実行中は START/STOP ボタンを押しても P2 カードへの記録はされません。
-

便利な撮影機能を使う

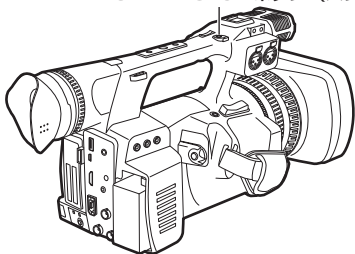
ローアングル撮影

ローアングルで撮影する時は、ハンドル側の START/STOP ボタンのホールドスイッチを HOLD 位置から解除 (①) することにより、ハンドル側の START/STOP ボタンで撮影を行うことができます。

- ハンドル側の START/STOP ボタンを使用しないときは誤操作防止のため、ホールドスイッチを HOLD 位置にしておいてください。

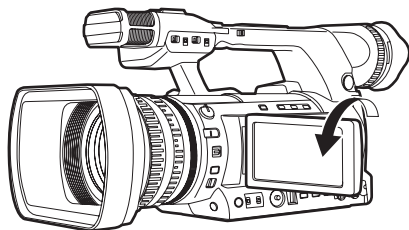


START/STOP ボタン (ハンドル側)



対面撮影

液晶モニターをレンズ側に 180°回転させて撮影を行うとき、設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の SELF SHOOT 項目で MIRROR に設定すると、液晶モニターの映像が左右反転して表示されます。鏡を見ているイメージでの撮影が可能になります。ただし、左右反転されるのは液晶モニターの表示のみです。記録は通常どおり行われます。



スキャンリバーズ撮影

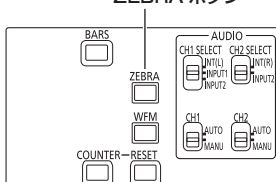
設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の SCAN REVERSE 項目を ON に設定することにより、映像を上下、左右反転して表示、記録することができます。

ゼブラパターン

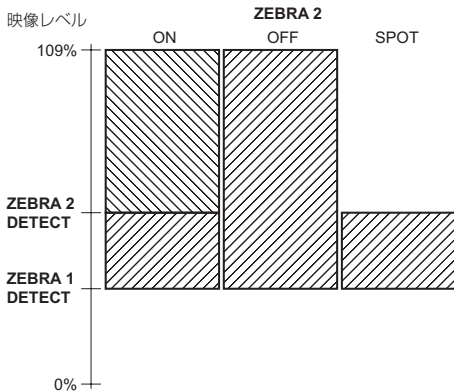
本機は 2 種類のゼブラパターンを表示できます。ZEBRA ボタンを ON にすると、ビューファインダーおよび液晶モニターにメニューで設定されているゼブラパターンが表示されます。

また、メニュー設定により、VIDEO OUT 端子の映像にもゼブラパターンを表示することができます。

ZEBRA ボタン



ゼブラパターンを表示するレベルは、設定メニュー DISPLAY SETUP 画面で設定できます。(➔ 146 ページ)



SPOT : ZEBRA 1 の設定値から ZEBRA2 の設定値までの間の映像レベルがゼブラパターンで表示されます。

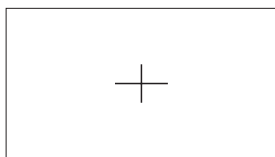
VIDEO OUT 端子の映像にゼブラパターンを表示させる場合は、設定メニュー OUTPUT SEL 画面で設定してください。(➔ 144 ページ)

便利な撮影機能を使う（つづき）

センターマーカ表示

設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の MARKER 項目を ON に設定しているときに表示します。

(➔ 146 ページ)



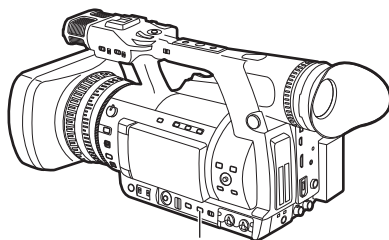
センターマーカ表示は、液晶モニター、ビューファインダーのみ表示されます。VIDEO OUT、SDI OUT、HDMI OUT では表示されません。

セーフティーゾーンマーカの表示

設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の SAFETY ZONE 項目で選択したものが表示されます。(➔ 146 ページ)

セーフティーゾーンマーカ表示は、液晶モニター、ビューファインダーのみ表示されます。VIDEO OUT、SDI OUT、HDMI OUT では表示されません。

撮影状態の確認と表示



DISP/MODE CHK ボタン

記録待機または記録中に DISP/MODE CHK ボタンを押したままにすると、各種撮影機能の設定状態、USER ボタンに割り当てた機能の一覧など、すべての情報が表示されます。ボタンを放すと通常の表示に戻ります。

- 「USER ボタンの活用」(➔ 39 ページ)

記録待機または記録中に DISP/MODE CHK ボタンを押すと、すべての表示がオフになります。もう一度押すと通常の表示に戻ります。

本機の電源を切る、または動作モードを切り替えても状態は維持されます。

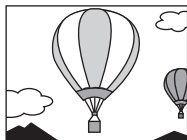
映像サイズを変える

480i/576i モードで記録する場合、記録する映像のサイズ（アスペクト比）を変えることができます。設定メニューSYSTEM SETUP 画面のASPECT CONV 項目（➔ 136 ページ）で選びます。

- メニュー操作については、「設定メニューの基本操作」（➔ Vol. 1 の 27 ページ）をご参照ください。

SIDE CROP:

標準の 4:3 モードで記録します。
左右両端をカットします。



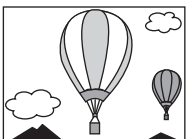
LETTER BOX:

画角を 16:9 にして記録します。
画面の上下に黒い帯が記録されます。
LETTER BOX に設定されている時は、ビューファインダーと液晶モニターは画面サイズが 16:9 のため上下に黒い帯は表示されません。そこで、画面に「LT.BOX」と表示されます。



SQUEEZE:

カメラ映像を水平方向に圧縮して記録します。記録された映像をワイド画面に対応したモニターテレビで再生すると、アスペクト比 16:9 の映像になります。



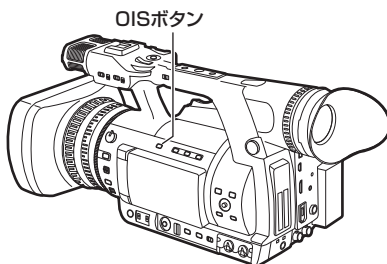
手ぶれ補正機能

カメラレコーダーを手に持って撮影する時は、手ぶれ補正機能を使うことで、手ぶれの少ない撮影を行うことができます。

OIS ボタンで手ぶれ補正 ON/OFF の切り替えを行います。

手ぶれ補正が ON の時は、ビューファインダーや液晶モニターに (H) が表示されます。

三脚を使用する時は、手ぶれ補正機能を OFF にすることで、自然な映像を得ることができます。



- 大きくぶれた時や、動いている被写体を追いかけるながら撮影した場合、補正きれないことがあります。

DRS (ダイナミックレンジストレッチャー) 機能

通常の撮影では白とびする、高輝度な部分の映像信号レベルを、コントラストを保ちながら圧縮することにより、ダイナミックレンジを拡大することができます。

1080i でご使用の場合、24P、30P、25P、および VFR（バリアブルフレームレート）で撮影しているときは DRS 機能は動作しません。

設定メニュー SCENE FILE 画面の DRS 項目を ON にすることで動作します。（➔ 132 ページ）

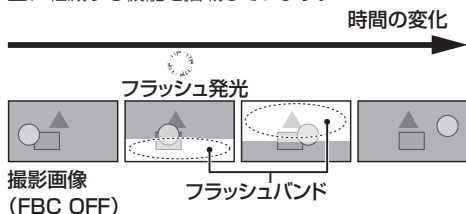
DRS EFFECT 項目で圧縮の度合いを変えることができます。（➔ 132 ページ）

なお、DRS ON/OFF は USER ボタンに割り当てることができます。（➔ 39 ページ）

便利な撮影機能を使う（つづき）

FBC（フラッシュバンド補正）

本機は、スチルカメラなどのフラッシュ閃光がある環境で撮影したときに、MOS 撮像素子に起因する帯状の妨害（これをフラッシュバンドと呼びます）を補正、軽減する機能を搭載しています。

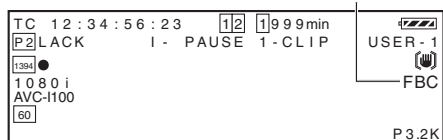


FBC 機能の設定

FBC 機能は、USER ボタンに割り当てて使用します。FBC 機能を割り当てた USER ボタンを押すことで、FBC 機能が ON となり、スチルカメラなどのフラッシュ閃光を検出し、補正を行うことができます。

- 「USER ボタンの活用」（→ 39 ページ）

FBC 機能が有効になっているときは、ステータス画面に FBC が表示されます。*1



*1: 設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の OTHER DISPLAY 項目が OFF のときは表示されません。

フラッシュ閃光時、以下の現象が発生することがありますが、FBC の補正によるもので故障ではありません。

- 動いている被写体が、一瞬止まったように見える。
- フラッシュ閃光時の解像度が低下する。
- フラッシュ閃光時の映像に横線が見える。

FBC のご使用について

FBC は、フラッシュ閃光の有無に関わらず、画面下部の輝度変化が大きい場合に動作します。明るい窓がズームイン・ズームアウトした場合など、撮影環境によっては FBC が動作することがありますので、フラッシュ閃光が予想される撮影環境下での使用をお勧めします。

なお、フラッシュ閃光が発生しても、撮影環境によっては十分な FBC の効果が得られない場合があります。

FBC 機能動作条件について

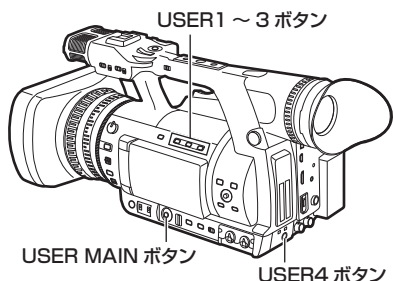
- FBC 機能は、下記「FBC 動作可能なモード」の場合に使用することができます。
- FBC 機能が ON の状態であっても、下記「FBC 動作可能なモード」以外のモードに変更した場合、FBC 機能は強制的に OFF になります。再度、ご使用の際は、下記モードに戻した後、USER ボタンを押して FBC 機能を ON にしてください。
- FBC 機能が ON の状態であっても、シャッターを ON にした場合またはデジタルズームを動作させた場合は、FBC 機能は一時的に OFF になります。その後、シャッターまたはデジタルズームが OFF になると、FBC 機能は ON に戻ります。
- 一度、電源を OFF にすると、FBC 機能は OFF になります。

FBC 動作可能なモード

- 1080/60i*2、1080/50i*2、720/60P*2、720/50P*2、480/60i、576/50i
- *2: VFR は OFF 限定。
- シャッター OFF
- デジタルズーム OFF

USER ボタンの活用

USER MAIN および USER1 ~ 4 ボタンには、選択した機能をそれぞれのボタンに割り当てることができます。



選択可能な機能

SPOTLIGHT :

スポットライト用のオートアイリス制御の ON/OFF を割り当てます。

BACKLIGHT :

逆光補正用のオートアイリス制御の ON/OFF を割り当てます。(→ 40 ページ)

ATW :

ATW 機能の ON/OFF を切り替えます。(→ 33 ページ)

ATW LOCK :

ATW 機能が動作しているときに押すと、ホワイトバランスの値を固定します。再度押すと、ATW 機能動作を再開します。

S.GAIN :

ゲインを 24 dB 以上にアップする機能を割り当てます。

ゲインの値は、設定メニュー SW MODE 画面の SUPER GAIN 項目で設定できます。(→ 137 ページ)

D.ZOOM :

DIGITAL ZOOM 機能を割り当てます。
ボタンを押すごとに、×2 → ×5 → ×10 → OFF (×1) の順に切り替わります。
(→ 19 ページ)

Y GET :

中央付近に表示された枠部分の輝度レベルを表示させる機能を割り当てます。

DRS :

ダイナミックレンジストレッチャーの機能を割り当てます。
設定は、設定メニュー SCENE FILE 画面の DRS 項目の ON/OFF と連動します。(→ 37 ページ)

TEXT MEMO :

テキストメモ記録を割り当てます。(→ 42 ページ)

SLOT SEL :

P2 カードスロットの選択を割り当てます。

SHOT MARK :

ショットマーク機能を割り当てます。(→ 41 ページ)

MAG A. LVL :

オーディオ レベルメーターを拡大表示にする機能を割り当てます。(→ 55 ページ)

LVL METER :

ボタンを押している間、オーディオ レベルメーター表示、およびヘッドフォン、内蔵スピーカー、AUDIO OUT 端子出力、HDMI OUT 出力のオーディオチャンネルの CH1/2 と CH3/4 を切り替える機能を割り当てます。

PRE REC :

プリレック機能の ON/OFF を切り替える機能を割り当てます。(→ 44 ページ)

WFM :

WAVE FORM の表示を切り替える機能を割り当てます。

WAVE FORM 表示の選択は設定メニュー SW MODE 画面の WFM 項目で選択します。

WFM ボタンと同じ機能です。(→ 40 ページ)

LAST CLIP :

直前に撮影したクリップを削除する機能を割り当てます。(→ 42 ページ)

FBC :

FBC 機能の ON/OFF を切り替えます。(→ 38 ページ)

LCD B.L :

液晶モニターのバックライトの輝度を切り替える機能を割り付けます。

設定は、設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の LCD BACKLIGHT 項目と連動します。(→ 147 ページ)

• 工場出荷時の設定では、以下の機能が各ボタンに割り当てられています。

USER MAIN	: Y GET
USER1	: BACKLIGHT
USER2	: TEXT MEMO
USER3	: DRS
USER4	: SLOT SEL

• 以下の機能を割り当てた USER ボタンを押して動作させた状態で電源を切ると、元の状態に戻りません。

SPOTLIGHT、BACKLIGHT、ATW、ATW LOCK、S.GAIN、D.ZOOM、Y GET、WFM、MAG A.LVL、FBC

便利な撮影機能を使う（つづき）

逆光補正

逆光で被写体を撮影する時は、BACKLIGHT 機能を割り当てた USER ボタンを押します。

画面に BACK が表示されます。

逆光補正用のオートアイリス制御を行い、被写体の映像が暗くなるのを防ぎます。

再度、この USER ボタンを押すと、逆光補正を解除します。

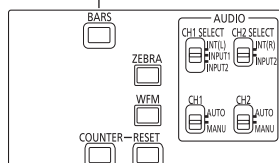
- 「USER ボタンの活用」(➔ 39 ページ)

カラーバー

CAMERA モードの時に、BARS ボタンを押すと、テレビや外部モニターの画質調整に便利な、カラーバーを表示することができます。再度押すと、元の映像に戻ります。

BARS ボタン

カラーバーはオフになり、カメラ映像を表示します。



設定メニュー AUDIO SETUP 画面の TEST TONE 項目で LEVEL1 または LEVEL2 に設定しているときは、カラーバー表示中に 1 kHz のテストトーンが出力されます。(➔ 142 ページ)

- カラーバーは 1 kHz のテストトーンと共に記録されます。

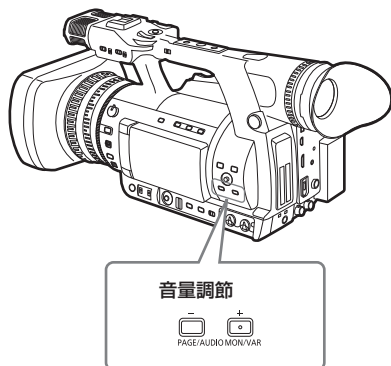
ウェーブフォームモニター機能

CAMERA モード中に WFM ボタンを押すと、液晶モニターに映像の波形を表示することができます。

もう一度ボタンを押すと通常表示に戻ります。

- 設定メニュー SW MODE 画面の WFM 項目(➔ 138 ページ)で波形表示とベクトル表示を切り替えることができます。
- ビューファインダーには波形表示されません。
- フォーカスアシスト機能 (EXPANDED) の動作中は表示されません。
- 波形表示は記録することはできません。
- WFM ボタンと同じ機能を USER ボタンに割り当てることができます。(➔ 39 ページ)

撮影時の音量調整



ヘッドホンで撮影時の音声をモニターしている場合は、PAGE/AUDIO MON/VAR ボタンで音量を調整することができます。

- 入力音声レベルの調整は、AUDIO LEVEL つまみで行います。(➔ 54 ページ)

バックアップ記録

1394 端子に接続した外部機器(➔ 103 ページ)に、本機のカメラ映像を記録し、自動的にバックアップ記録を行うことができます。

- 「1394 接続して外部機器を制御する」(➔ 106 ページ)

2 スロット連続記録

2 つの P2 カードスロットの両方に P2 カードを装着すれば、2 枚のカードにわたって連続記録することができます。

また、一方が記録中にもう片方のカードを差し替えて、3 枚以上に連続記録することもできます。(ホットスワップ記録)

ただし、空きスロットに P2 カードを挿入するタイミング（プリレックの直後や 2 つのスロットにわたって連続記録するときの前後）によって、P2 カードの認識が遅くなる場合があります。

P2 カードを挿入する際は、記録対象カードの残量が 1 分以上ある状態で行うことを推奨します。

SLOT SEL を割り当てた USER ボタンを押すと、ワンタッチで記録対象スロットを変更できます。

- 「USER ボタンの活用」(➔ 39 ページ)
- スロットの変更は記録中にはできませんので、記録待機中に行ってください。
- ホットスワップ再生には対応していません。

ショットマーク機能

クリップのサムネールに付ける目印をショットマークといいます。サムネール画面でショットマークを付けたクリップのみ選んで表示 / 再生できます。

- 「サムネール表示の切り替え」(➔ 80 ページ)
- 記録中、ショットマーク機能を割り当てた USER ボタンを押すと、液晶モニターやビューファインダーに「MARK ON」と表示され、記録中のクリップのサムネールにショットマークが設定されます。もう一度押すと解除されます。
- 「USER ボタンの活用」(➔ 39 ページ)

- 記録後の一時停止中にショットマークをつける場合、直前に記録したクリップにつきます。
- ショットマークは、サムネール表示中も付けることができます。
- ループレック、インターバル記録、ワンショット記録では、ショットマークを付けることはできません。操作が無効な場合は、ボタンを押したときに「SHOT MARK INVALID」と表示されます。
- 再生中のショットマークの設定、または解除はできませんが、再生一時停止中の設定、または解除は可能です。
- ホットスワップ記録で 1 回の撮影によってできた映像データが複数のクリップで構成される場合、その映像データを構成するすべての P2 カードがスロットに挿入されていないと、ショットマークの設定と解除はできません。また、このような複数のクリップで構成される映像データの場合、先頭のクリップにのみショットマークがつきます。

便利な撮影機能を使う（つづき）

テキストメモ記録

記録中または再生中のクリップのある映像ポイントに、テキストメモを付加する機能です。

TEXT MEMO 機能を割り当てた USER ボタンを押すと、そのポイントにテキストメモが記録されます。

- 「USER ボタンの活用」(➡ 39 ページ)

サムネール画面でテキストメモを付けたクリップのみ選んで表示 / 再生ができます。

- 「サムネール表示の切り替え」(➡ 80 ページ)
- テキストメモは 1 クリップにつき、最大 100 個まで記録できます。
- ループレック、インターバル記録中、およびワンショット記録中はテキストメモを記録できません。
 - テキストメモの記録ができない時は、「TEXT MEMO INVALID」が表示されます。

タイムスタンプ機能

映像に重ねて、撮影日時を記録することができます。設定メニュー RECORDING SETUP 画面の TIME STAMP 項目で ON を選びます。

タイムスタンプ機能が ON の時は、ビューファインダーと液晶モニターの日時表示の先頭に **[R]** が表示されます。

- **[R]** は、実際の映像には記録されません。
- 撮影フォーマットによって、映像に記録される日時の文字の大きさや位置は異なります。
- 設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の DATE/TIME 項目の設定により、記録される内容が変わります。また OFF に設定している場合は記録されません。
- DVCPRO/DV 端子の出力映像には、このタイムスタンプが多重されます。

LAST CLIP DELETE 機能

USER MAIN、USER1 ～ 4 ボタンのいずれかに、LAST CLIP を割り当てることによって、ボタンを押すことで最後に撮影したクリップを削除することができます。

LAST CLIP を割り当てた USER ボタンを押すと、画面に YES/NO が表示されます。

YES を選ぶと最後に撮影したクリップが削除され、「LAST CLIP DELETE OK」が表示されます。

- 「USER ボタンの活用」(➡ 39 ページ)
- クリップを削除しない場合は、NO を選択してください。
- 撮影後、PB / THUMBNAIL モード、PC モードに切り替えた場合や、1394 入力の記録、およびメニュー表示中は、ボタンを押しても、クリップは削除できません。また、電源を切って、再度電源を入れた場合も、クリップは削除できません。
- ホットスワップ記録では、1 回の撮影によってできた映像データを構成するすべての P2 カードがスロットに挿入されていないと、クリップは削除されません。
- ワンクリップレックに設定されているときは、クリップは削除できません。

特殊な記録機能を使う

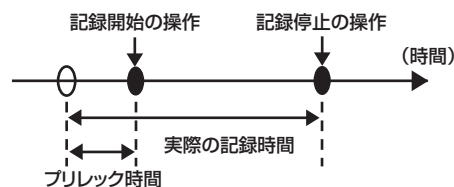
P2 カードに記録する場合、設定メニューの RECORDING SETUP 画面で設定することにより、プリレック、インターバル記録、ワンショット記録、ループレック、およびワンクリップレックの特殊な記録ができます。これらの特殊な記録（ワンクリップレックを除く）は下記の設定になっているときのみ可能です。なお、ワンクリップレックは、VFR が ON に設定されている場合を除き、すべての記録モードで使用可能です。

SYSTEM MODE	REC FORMAT	その他の条件
1080-59.94i	DVCPROHD/60i AVC-I 100/60i AVC-I 50/60i	<ul style="list-style-type: none">• CAMERA MODE の設定は 60i または 30P に設定する。• VFR の設定は OFF にする。
1080-50i	DVCPROHD/50i AVC-I 100/50i AVC-I 50/50i	<ul style="list-style-type: none">• VFR の設定は OFF にする。
720-59.94P	DVCPROHD/60P AVC-I 100/60P AVC-I 50/60P	<ul style="list-style-type: none">• VFR の設定は OFF にする。
720-50P	DVCPROHD/50P AVC-I 100/50P AVC-I 50/50P	<ul style="list-style-type: none">• VFR の設定は OFF にする。
480-59.94i	DVCPRO50/60i DVCPRO/60i DV/60i	<ul style="list-style-type: none">• CAMERA MODE の設定は 60i または 30P に設定する。
576-50i	DVCPRO50/50i DVCPRO/50i DV/50i	—

特殊な記録機能を使う (つづき)

プリレック (PRE REC)

記録開始の操作をした時点より一定時間前 (HD 記録で約 3 秒前、SD 記録で約 7 秒前) からの映像と音声を記録します。



1 設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の各項目が43ページの表の設定になっていることを確認する。

- メニュー操作については、「設定メニューの基本操作」(⇒ Vol. 1 の 27 ページ)をご参照ください。

2 設定メニュー RECORDING SETUP 画面の PREREC MODE 項目で、ON に設定する。(⇒ 140 ページ)

- ビューファインダーや液晶モニター画面の特殊記録表示エリアに下記のように表示されます。

記録中: 「P-REC」点灯

一時停止中: 「P-PAUSE」点灯

- 「画面の表示」(⇒ 121 ページ)

3 START/STOP ボタンを押す。

一定時間前からの映像と音声を記録します。

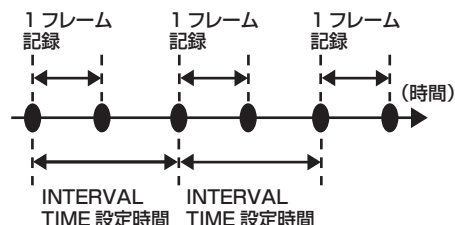
- 下記の場合、プリレックは無効となり、それぞれの操作時点からの記録となります。

- IEEE1394 入力記録時
- 記録フォーマット切り替え時
- 再生から記録への移行時
- インターバル記録時
- ワンショット記録時
- ループレック時

- サムネール表示や再生からカメラ映像に切り替え直後、電源 ON 直後、PREREC MODE 項目を変更した直後は、すぐに記録を開始しても一定時間前の映像と音声が記録できません。

インターバル記録 (INTERVAL REC)

INTERVAL TIME 項目で設定した時間間隔で 1 フレーム記録を行います。



1 設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の各項目が43ページの表の設定になっていることを確認する。

- メニュー操作については、「設定メニューの基本操作」(⇒ Vol. 1 の 27 ページ)をご参照ください。

2 設定メニュー RECORDING SETUP 画面の REC FUNCTION 項目で、INTERVAL に設定する。(⇒ 140 ページ)

3 設定メニュー RECORDING SETUP 画面の INTERVAL TIME 項目で時間を設定する。(⇒ 140 ページ)

4 START/STOP ボタンを押す。

- INTERVAL TIME 項目で設定した時間間隔で 1 フレーム記録する動作を繰り返し行います。
- 停止するには、OPERATION レバーを ▼ 方向 (STOP) に倒します。
- 設定を解除するには、電源 OFF にするか、設定メニュー REC FUNCTION 項目で NORMAL に設定します。
- 動作状態表示の左に下記のように表示されます。
 - 記録中: 「I-REC」点灯
 - 一時停止中: 「I-PAUSE」点灯

ただし、手順 3 の設定が 2 秒未満の場合は、設定時間に応じて記録中「I-REC」が点滅します。

- 停止中: 「I-PAUSE」の「I」点滅

- ブリレック、およびワンクリップレックは動作しません。
- 音声は記録されません。
- このモード中に記録したデータ（停止するまでのデータ）は、まとめて1つのファイルとなります。
- DVCPRO/DV 端子からは出力されません。

ワンショット記録 (ONE SHOT REC)

設定した時間単位で一度だけ記録します。

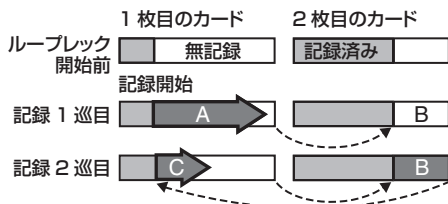
- 1 設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の各項目が43ページの表の設定になっていることを確認する。
 - メニュー操作については、「設定メニューの基本操作」(→ Vol. 1 の 27 ページ)をご参照ください。
- 2 設定メニュー RECORDING SETUP 画面の REC FUNCTION 項目で、ONE SHOT に設定する。(→ 140 ページ)
- 3 設定メニュー RECORDING SETUP 画面の ONE SHOT TIME 項目で時間を設定する。(→ 140 ページ)
- 4 START/STOP ボタンを押す。
 - 手順 **3** で設定した時間の記録を行い、記録一時停止になります。
 - 停止するには、OPERATION レバーを ▼ 方向 (STOP) に倒します。
 - 設定を解除するには、電源 OFF にするか、設定メニュー REC FUNCTION 項目で NORMAL に設定します。
 - 動作状態表示の左に下記のように表示されます。
 - 記録中：「I-REC」点灯
 - 一時停止中：「I-PAUSE」点灯
 - 停止中：「I-PAUSE」の「I」点滅

- 動作中は、ほかの操作を受け付けません。
- ブリレック、およびワンクリップレックは動作しません。
- 音声は記録されません。
- このモード中に記録したデータ（停止するまでのデータ）は、まとめて1つのファイルとなります。
- DVCPRO/DV 端子からは出力されません。
- 連続でワンショット記録する場合、記録動作の受け付けが遅くなることがあります。

特殊な記録機能を使う (つづき)

ループレック (LOOP REC)

- P2 カードスロットに 2 枚の P2 カードが挿入されているとき、順次カードを切り替えながら記録します。
- 2 枚目のカードの残量がなくなると 1 枚目に戻り、保存されている古いクリップを消去しながら新しいクリップを記録します。
 - 「P2 カードに記録されるクリップの分割について」(→ 14 ページ)



P2 カードの記録のない部分をつないで (A-B-C の順で) 記録を行います。記録残量がなくなったら、A を消去して新規の記録 (C) を行います。

1 設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の各項目が 43 ページの表の設定になっていることを確認する。

- メニュー操作については、「設定メニューの基本操作」(→ Vol. 1 の 27 ページ) をご参照ください。

2 設定メニュー RECORDING SETUP 画面の REC FUNCTION 項目で、LOOP に設定する。(→ 140 ページ)

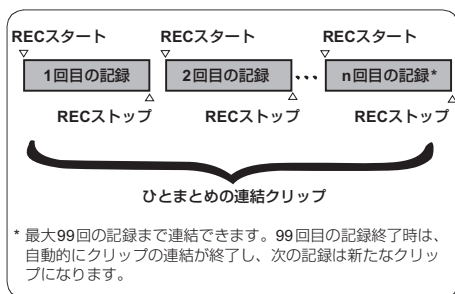
3 START/STOP ボタンを押す。

- 記録を開始します。
- 停止するには、START/STOP ボタンを押します。
- 設定を解除するには、電源 OFF にするか、設定メニュー REC FUNCTION 項目で NORMAL に設定します。
- 動作状態表示の左に下記のように表示されません。
 - 記録中：[L-REC] 点灯
 - 停止中：[L-PAUSE] 点灯
 - メモリー残量不足：[P2] LACK] 点滅

- 1 分以上の記録残量がある P2 カードを 2 枚ご使用ください。
- モードチェック画面に切り替えると、P2 カード残量は記録フォーマットに応じた標準的な記録時間を表示します。古い記録を消去した直後にループレックを停止した場合、カードに記録されている時間は表示された時間より少なくなることがあります。
- IEEE1394 入力記録時は動作しません。
- プリレック、およびワンクリップレックは動作しません。
- 停止に時間がかかる場合があります。P2 カードアクセスランプの点滅が点灯に変わるまで、次の動作は受け付けません。
- ループレック中は、記録に使用する P2 カードの P2 カードアクセスランプがすべてオレンジ色に点灯および点滅します。これらの P2 カードを抜くと、ループレックは停止するのでお気をつけください。
- ループレック中に GENLOCK の入力基準信号が乱れると、ループレックが停止することがあります。

ワンクリップレック (ONE CLIP REC)

1回の記録 (REC 開始から終了まで) を1つのクリップとするのではなく、複数回の記録をひとまとめの連結されたクリップとして記録することができます。



本機能を使用するには、メニュー操作で、RECORDING SETUP 画面の ONE CLIP REC 項目を「ON」に設定します。(→ 141 ページ) ワンクリップレックモードが選択されるとビューファインダー および液晶モニター上部に「1-CLIP」と表示されます。本機の START/STOP ボタンを押すと、最初の記録が開始され、「START 1*CLIP」と表示されます。以後、記録する度にクリップは自動的に連結され、最大で 99 回の記録まで 1 つにまとめられます。

新たなクリップとして記録するには

新しい別のクリップとして分けたい場合は、次のどちらかの操作により、クリップの連結を一度終了します。

- 記録一時停止中に、OPERATION レバーを ▼ 方向 (STOP) に約2秒間倒します。(記録一時待機中に操作する場合)

または

- 記録中に、START/STOP ボタンを約 2 秒間押し続けて記録を終了させます。(記録中に操作する場合)

上記操作により、クリップ連結を終了し「END 1-CLIP」と表示され、次の記録からは新しい別のクリップになります。

- 前述の操作以外でも、以下の場合はクリップ連結を終了し、次の記録からは新たなクリップになります。
 - 電源を OFF にしたとき
 - 直前に記録した P2 カードを取り出したとき
 - P2 カードのフォーマットや、クリップの削除を行ったとき (連結元クリップが存在しないとき)
- メニューやサムネール表示中は、STOP ボタンを押してもクリップ連結を終了することはできません。

ワンクリップレックモードを終了するには

メニュー操作で、ONE CLIP REC 項目を「OFF」に設定します。

クリップの連結部分の頭出しをするには

記録開始のたび、記録開始点にテキストメモを自動付加して再生時に頭出しをしたり、その位置のサムネールを確認することができます。

記録開始点にテキストメモを自動付加するには、メニュー操作で、RECORDING SETUP 画面の START TEXT MEMO 項目を「ON」に設定します。(→ 141 ページ)

付加したテキストメモのポイントを確認、再生するには、サムネールメニューから THUMBNAIL → TEXT MEMO CLIPS を選択し、対象のクリップにカーソルを合わせます。

詳しくは、「テキストメモ位置からの再生」(→ 83 ページ) をご参照ください。

また、再生時にテキストメモ位置を頭出しするには、OTHER FUNCTIONS 画面の SEEK SELECT 項目を「CLIP&T」に設定しておき、再生一時停止中に OPERATION レバーを ◀▶ 方向に倒します。

特殊な記録機能を使う（つづき）

ワンクリップレックモードでの注意事項

- インターバル記録、ワンショット記録、ループレック、および VFR 記録機能を選択しているときは、動作しません。
- REC SIGNAL 項目で「1394」を選択しているときは動作しません。
- クリップ連結を継続中は、メニュー操作やサムネール操作に以下の制限があります。これらは、OPERATION レバーを ▼ 方向 (STOP) に約 2 秒間倒して、クリップ連結を終了させてから操作してください。
 - 次のメニュー項目は変更できません。
SYSTEM MODE、REC SIGNAL、
ASPECT CONV、CAMERA MODE、
REC FORMAT、REC FUNCTION、
25M REC CH SEL

VFR 項目は、SCENE FILE ダイアル、SHTR/F.RATE ダイアルの操作またはメニューにより、クリップ連結の継続中でも「ON」に変更できます。その場合にはクリップ連結は終了し、以後の記録は毎回別々のクリップとなります。

- SD メモリーカードの読み込み / 書き出しや設定ファイルの読み出しに関する以下のメニュー項目を実行することはできません。
SCENE FILE 画面の LOAD/SAVE/INIT、
CARD FUNCTIONS の各項目、OTHER
FUNCTIONS 画面の USER FILE および
MENU INIT
- 以下のサムネールメニュー項目を選択して操作することはできません。
OPERATION → COPY
- 次の記録でクリップの連結を可能にするため、記録の終了処理時間が通常記録より多少かかる場合があります。
- 再生時、クリップ内の記録の連結点で、不連続な音声に対してフェード処理ははたしません。
- 連結数の多いクリップをノンリニア編集ソフトなどで使用する場合、ソフトウェアの種類によっては正常に動作できないことがあります。(2011年9月現在)
動作確認済みソフトウェアの最新情報は、下記ウェブサイトのサポートデスクをご参照ください。

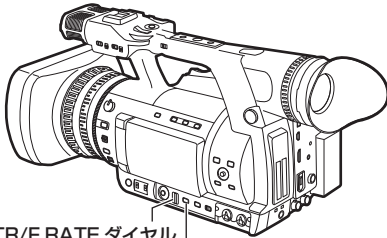
(日本語) <http://panasonic.biz/sav/>

(英語) <http://pro-av.panasonic.net/>

シャッタースピードを調整する

シャッタースピードの設定は、SHTR/F.RATE ダイアルと DIAL SEL ボタンを使って行います。SHTR/F.RATE ダイアルでは、シャッタースピードのほか、シンクロスキャンの設定、およびフレームレートの設定を選択して行うことができます。

SHTR/F.RATE ダイアルの使い方



SHTR/F.RATE ダイアル

DIAL SEL ボタン

DIAL SEL ボタンを押す。

- SHTR/F.RATE ダイアルの役割が以下の様に、順に変わります。
SHUTTER → SYNCHRO SCAN →
FRAME RATE → LOCK → SHUTTER →
- SYNCHRO SCAN 機能は、SHUTTER の設定が SYNCHRO SCAN 時に選択可能になります。SHUTTER の設定が SYNCHRO SCAN 時のみ表示されます。
- FRAME RATE 機能は、1080i または 720P の時、選択可能になります。

誤操作防止のため、約 12 秒間操作が行われな
いときは、自動的に DIAL LOCK の状態になりま
す。

SHUTTER の設定の仕方

1 DIAL SEL ボタンで、SHUTTER 機能を選択する。

2 SHTR/F.RATE ダイアルを押す。

- シャッターが ON/OFF します。
- ON した状態で SHTR/F.RATE ダイアルを回すと、シャッター速度が変化します。(→ 50 ページ)

- シャッタースピードが速いほど、カメラの感度は低下します。
- シャッタースピードを遅くした場合には、合焦時間が長くなるため、三脚などに固定して撮影することをお勧めします。
- シンクロスキャンおよびシャッターの設定を変更する場合に画面が乱れる場合があります。
- 蛍光灯などの放電管による照明下では、画面上に横帯が現れることがあります。この時、シャッタースピードを調整すると改善される場合があります。
- すばやく横切る被写体を撮影すると、少し歪んで見えることがあります。これは、撮像素子 (MOS センサー) の信号読み出し方式によるものであり、故障ではありません。
- シャッタースピードが遅いとき (1/6 ~ 1/15 など) に、画面に白・赤・緑・青等の点が出る場合がありますが、故障ではありません。

シャッター速度を調整する (つづき)

すべてのモードとスピードが表示される場合は、下記の順序で表示が切り替わります。

■ SYSTEM MODE が 1080-59.94i、720-59.94P、480-59.94i のとき

60i、60P 記録の場合

S/S → (1/15) → (1/30) → 1/60 → 1/100 → 1/120
→ 1/250 → 1/500 → 1/1000 → 1/2000

30P 記録の場合

S/S → (1/7.5) → (1/15) → 1/60 → 1/100 → 1/120
→ 1/250 → 1/500 → 1/1000 → 1/2000

24P 記録の場合

S/S → (1/6) → (1/12) → 1/60 → 1/100 → 1/120
→ 1/250 → 1/500 → 1/1000 → 1/2000

● VFR が ON のときは () 内のスピードは選択できません。

■ SYSTEM MODE が 1080-50i、720-50P、576-50i のとき

50i、50P 記録の場合

S/S → (1/12.5) → (1/25) → 1/50 → 1/60 → 1/120
→ 1/250 → 1/500 → 1/1000 → 1/2000

25P 記録の場合

S/S → (1/6.25) → (1/12.5) → 1/50 → 1/60 → 1/120
→ 1/250 → 1/500 → 1/1000 → 1/2000

● VFR が ON のときは () 内のスピードは選択できません。

SYNCHRO SCAN の設定の仕方

1 SHUTTER の設定で、SYNCHRO SCAN を選択する。

- SHTR/F.RATE ダイアルを回して、1/2000 の次に表示される値が、現在の SYNCHRO SCAN の設定値です。この値を選択します。

2 DIAL SEL ボタンで、SYNCHRO SCAN 機能を選択する。

3 SHTR/F.RATE ダイアルを回す。

- SYNCHRO SCAN シャッターの速度を設定できます。
- SHTR/F.RATE ダイアル押しながら回すと、速度変化が速くなります。

各モードでの可変範囲

■ SYSTEM MODE が 1080-59.94i、720-59.94P、480-59.94i のとき

- 60P/60i モード: 1/60.0 ~ 1/249.8
- 30P/30PN モード: 1/30.0 ~ 1/249.8
- 24P/24PA/24PN モード: 1/24.0 ~ 1/249.8

■ SYSTEM MODE が 1080-50i、720-50P、576-50i のとき

- 50P/50i モード: 1/50.0 ~ 1/250.0
- 25P/25PN モード: 1/25.0 ~ 1/250.0

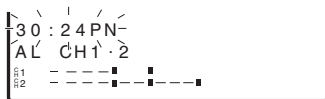
■ 設定メニュー SCENE FILE 画面の SYNC SCAN TYPE 項目を deg に設定するとシャッター開角度のイメージで設定・表示できます。(→ 131 ページ)

- 3.0 d ~ 359.5 d
- SYSTEM MODE を切り替えると、切り替えた前後でシャッター速度が異なることがあります。

FRAME RATE の設定の仕方

1 DIAL SEL ボタンで、FRAME RATE 機能を選択する。

VFR ON 状態のときは、下図のようにビューファインダーと液晶モニターのフレームレート表示が点滅し、フレームレートが変更可能であることを示します。



- 点滅しないときは、VFR モードがオフになっているので、SHTR/F.RATE ダイアルを押して VFR モードをオンにします。SHTR/F.RATE ダイアルを押すごとに、VFR モードの ON/OFF が切り替わります。

2 SHTR/F.RATE ダイアルを回して、FRAME RATE を設定する。

- 約 10 秒間操作を行わない場合、フレームレート表示が点灯に変わり、ダイアルはロック状態に戻ります。
- FRAME RATE の設定は、メニュー設定 SCENE FILE 画面の FRAME RATE 項目でも設定できます。

FRAME RATE 機能は、1080i または 720P でご使用ください。

ただし、1080i で DVCPRO HD 記録にしている時は、CAMERA MODE 項目が 60i (50i) 以外では、動作しません。

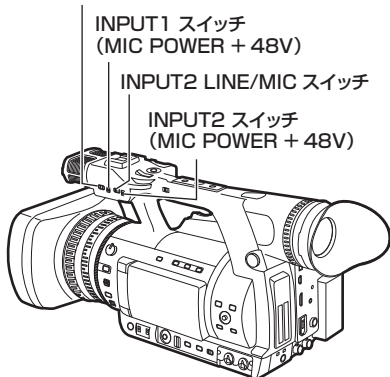
入力音声を切り替える

撮影時は、最大 4 チャンネルの音声を記録することができます。また、それぞれのチャンネルに記録する入力音声を、内蔵マイク、外部マイク、および接続したオーディオ機器に切り替えることができます。(下表参照)

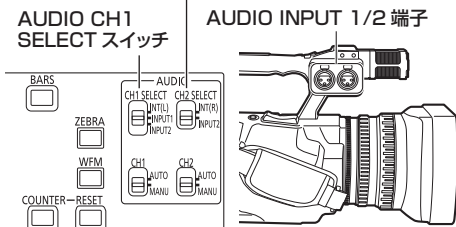
CH1 SELECT スイッチ	CH1 記録	CH3 記録
INT (L)	内蔵マイク Lch	INPUT1 スイッチ選択が有効 (LINE/MIC 選択)
INPUT1	INPUT1 スイッチ選択が有効 (LINE/MIC 選択)	内蔵マイク Lch
INPUT2	INPUT2 スイッチ選択が有効 (LINE/MIC 選択)	内蔵マイク Lch

CH2 SELECT スイッチ	CH2 記録	CH4 記録
INT (R)	内蔵マイク Rch	INPUT2 スイッチ選択が有効 (LINE/MIC 選択)
INPUT2	INPUT2 スイッチ選択が有効 (LINE/MIC 選択)	内蔵マイク Rch

INPUT1 LINE/MIC スイッチ



AUDIO CH2 SELECT スイッチ



また、フォーマットによって次の制限があります。

- フォーマットについては、「記録フォーマット一覧」(→ 164 ページ)をご参照ください。

AVC-I100、AVC-I50、DVCPROHD、DVCPRO50 フォーマット:

4 チャンネル記録に固定されます。

DVCPRO または DV フォーマット:

設定メニュー AUDIO SETUP 画面の 25M REC CH SEL 項目で 2CH または 4CH を選ぶことができます。

内蔵マイクを使う

- 1 AUDIO CH1 SELECT スイッチを INT (L) の位置にする。**
 - 内蔵マイク Lch の音声信号が音声チャンネル 1 のトラックに記録されます。
- 2 AUDIO CH2 SELECT スイッチを INT (R) の位置にする。**
 - 内蔵マイク Rch の音声信号が音声チャンネル 2 のトラックに記録されます。

外部マイクやオーディオ機器を使う

1 AUDIO INPUT 1/2 端子 (XLR、3 ピン) に外部マイクまたはオーディオ機器を接続する。
(→ 101 ページ)

2 INPUT 1/2 スイッチで、接続した音声入力信号を切り替える。

LINE: (オーディオ機器を接続した時)

入力レベルは 0 dBu です。

MIC: (外部マイクを接続した時)

入力レベルは -50 dBu です。

設定メニュー AUDIO SETUP 画面の MIC GAIN1 と MIC GAIN2 項目で入力レベルを -40 dBu または -60 dBu に変更することができます。(→ 143 ページ)

ただし、-60 dBu に設定すると感度が高くなり、ノイズ等が記録される場合があります。

- AG-MC200G (別売) をお使いの場合は、MIC GAIN 項目を -50 dBu に設定してください。

ファントムマイク (+48 V 電源が必要なマイク) を使用する場合は

INPUT 1/2 スイッチ (MIC POWER +48 V) を ON の位置にする。

ON: (ファントムマイクを接続した時)

INPUT 1/2 端子に +48 V 電源を供給します。

OFF: (ファントムマイクを接続しない時)

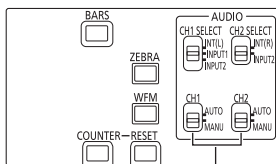
INPUT 1/2 端子に電源を供給しません。

- ファントムマイクを使用すると、バッテリーの持続時間が短くなります。
- +48 V 電源に対応していない機器を接続する時は OFF の位置にしてください。ON の位置にすると、接続した機器が故障する場合があります。

3 音声チャンネル 1 ~ 4 のトラックに記録する入力信号を選択する。

- AUDIO CH1 SELECT スイッチで CH1 と CH3 に記録する入力を選択し、AUDIO CH2 SELECT スイッチで CH2 と CH4 に記録する入力を選択します。(→ 52 ページ)
- 外部マイクの信号を CH1 と CH2 に入力する時は、外部マイクを AUDIO INPUT 2 端子に接続し、AUDIO CH1 SELECT スイッチと AUDIO CH2 SELECT スイッチの両方を INPUT 2 の位置にしてください。

音声の記録レベルを自動で合わせる



AUDIO AUTO/MANU
CH1, CH2 スイッチ

AUDIO AUTO/MANU CH1, CH2 スイッチを AUTO の位置にする。

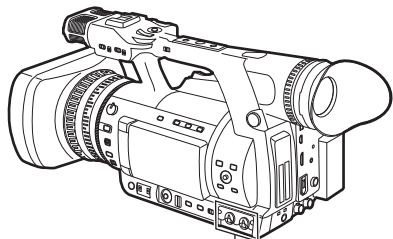
内蔵マイクや AUDIO INPUT 1/2 端子 (XLR、3 ピン) に入力された、音声信号の記録レベルを自動で調整します。

- CH1/CH2 個別に設定できます。
- AUTO 設定時は、AUDIO LEVEL つまみによる記録レベルの変更と、設定メニュー AUDIO SETUP 画面の LIMITER CH1/LIMITER CH2 項目 (→ 142 ページ) の設定が無効になります。

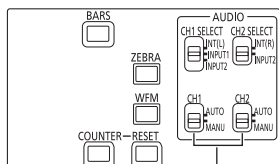
音声信号の記録レベルを自動で調整するため、周囲の音の状況により、高速ズーム時にズーム駆動音が記録される場合があります。この場合は、マニュアルモードで記録レベルを調整してください。

入力音声を切り替える (つづき)

音声の記録レベルを調整する



AUDIO LEVEL つまみ (CH1、CH2)



AUDIO AUTO/MANU
CH1、CH2 スイッチ

AUDIO LEVEL つまみで、内蔵マイクロホンや AUDIO INPUT 1/2 端子 (XLR、3 ピン) に入力された、音声信号の記録レベルを調整します。

- モニター音量の調整については、「撮影時の音量調整」(→ 40 ページ) をご参照ください。

音声チャンネル 1/2 に録音されるレベルを手動調整する手順は下記の通りです。

- 1 オーディオレベルメーター表示が CH1、CH2 を示すように、設定メニュー AUDIO SETUP 画面の AUDIO OUT 項目を CH1/CH2 にし、表示が 1、2 であることを確認する。
- 2 AUDIO AUTO/MANU CH1、CH2 スイッチを MANU にする。
- 3 ビューファインダー画面のオーディオレベルメーター表示を見ながら AUDIO LEVEL つまみ (CH1、CH2) を調整する。
 - 0 dB を超えると OVER 表示が点灯し入力音量が過大であることを示します。最大でも 0 dB まで表示しないように調整してください。



OVER 表示

オーディオレベルメーター拡大表示 (MAG A.LVL) を割り当てた USER ボタンを押すと、オーディオレベルメーターが拡大表示されます。

- 「オーディオ拡大表示」(→ 55 ページ)

- AUDIO SETUP 画面の INT MIC 項目が ON に設定されているときは、CH1、CH2 の表示が白黒反転文字になります。



INT MIC ON



INT MIC OFF

撮影前に記録レベルを確認してください。

- 記録時、当社放送用カメラレコーダー (品番 AJ シリーズ) や AG-HPX500、370、300 シリーズと比較すると、記録レベルが高く設定されています。

CH3/CH4 の録音レベル

設定メニュー AUDIO SETUP 画面の AUTO LEVEL CH3 項目と AUTO LEVEL CH4 項目の設定条件とリミッターの設定により、音声チャンネル 3/4 の録音レベル動作は、以下の表のように変わります。なお、手動での調整はできません。各項目は AUDIO SETUP 画面で選択が可能です。

AUTO LEVEL CH3 (CH4)	LIMITER CH3 (CH4)	
	ON	OFF
ON	LIMITER OFF AGC* ON	LIMITER OFF AGC ON
OFF	LIMITER ON AGC OFF	LIMITER OFF AGC OFF

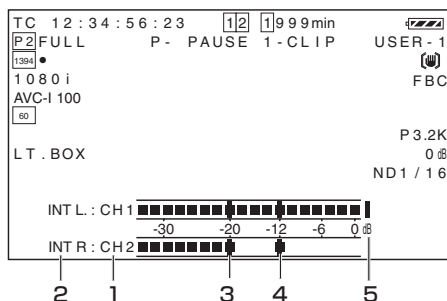
* AGC : オートゲインコントロール

オーディオ拡大表示

MAG A. LVL を割り当てた USER ボタンを押すと表示します。(設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の LEVEL METER 項目が OFF でも表示) もう一度押すと通常表示に戻ります。

オーディオ拡大表示中にモードチェック (MODE CHK) を行うと、モードチェック (MODE CHK) 表示に切り替わり、モードチェック (MODE CHK) 後は通常表示に戻ります。

- 「USER ボタンの活用」 (➡ 39 ページ)



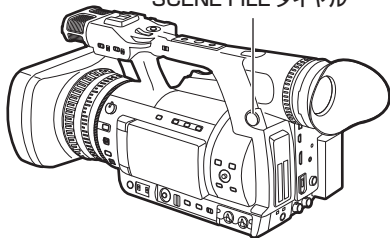
- 1 チャンネル表示**
モニターしているオーディオチャンネルを表示します。
- 2 入力系統表示**
表示中のオーディオチャンネルの入力系統を表示します。
 - OFF (内蔵マイク選択でオフ状態)
 - INT L、R (内蔵マイク選択)
 - XLR1、XLR2 (INPUT1、2 選択)
- 3 基準レベルバー**
-20 dB と -12 dB の位置に表示します。
- 4 ピークホールド表示**
オーディオのピークレベルを 1 秒間ホールドして表示します。
- 5 レベルオーバー表示**
オーディオレベルが 0 dB を超えたとき赤く表示されます。

撮影用の設定を使い分ける (シーンファイル)

各種撮影状況に応じた設定を、シーンファイルダイヤルの各ポジションに保存しています。

撮影時、シーンファイルダイヤルで瞬時に必要なファイルが読み出せます。

SCENE FILE ダイヤル



- 記録中にシーンファイルを変更しても、VFR 項目と FRAME RATE 項目は変更されません。これらの項目を変更する場合は、記録待機状態時に行ってください。

■工場出荷時の設定

F1 (SCENE)

標準の撮影に適したファイル。

F2 (SCENE FLUO.)

蛍光灯の特性を考慮した撮影 (屋内撮影などの撮影) に適したファイル。

F3 (SCENE SPARK)

解像度、色合い、コントラストにメリハリをつけた SD 撮影に適したファイル。

F4 (SCENE B-STR)

暗い部分の階調を広げた撮影 (夕暮れなどの撮影) に適したファイル。

F5 (SCENE CINE V)

コントラスト重視の映画感覚の撮影に適したファイル。

F6 (SCENE CINE D)

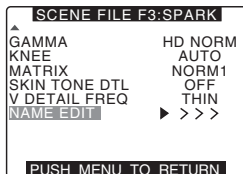
ダイナミックレンジ重視の映画感覚の撮影に適したファイル。

シーンファイルを変更しても、SYSTEM MODE 項目は変更されません。設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の各項目で設定してください。

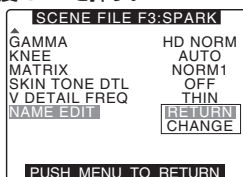
シーンファイルの設定変更

■例 1: シーンファイルのファイル名を変更する

- 1 シーンファイルダイヤルを回して、変更するシーンファイルを選ぶ。
- 2 設定メニュー SCENE FILE 画面の NAME EDIT 項目を選び、OPERATION レバーを ▲ ▼ 方向に倒して、NAME EDIT 項目を選ぶ。
 - メニュー操作については、「設定メニューの基本操作」(→ Vol. 1 の 27 ページ)をご参照ください。



- 3 OPERATION レバーの SET を押し (または ▶ 方向に倒し)、▼ 方向に倒して CHANGE を選び、再度 SET を押す。



4 下記の画面が表示されたら、OPERATIONレバーで6文字のファイル名を設定する。

- ▲ ▼ : 文字移動
- ◀ ▶ : 文字選択
- SET : 文字確定
- 設定できる文字
スペース (□) → アルファベット (A ~ Z)
→ 数字 (0 ~ 9)
→ 記号 (:;<=>?@[¥] ^_./)
- ファイル名を設定しているときに、RESET ボタンを押すと、文字がクリアされます。

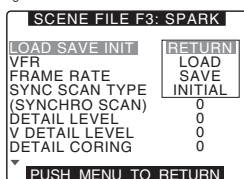


- MENU ボタンを押すと、現在の設定を確定して NAME EDIT が終了します。
- 確定した値は、電源 OFF したりダイヤルを変更しても保持されます。また、シーンファイルの各項目の設定も同様に保持されます。

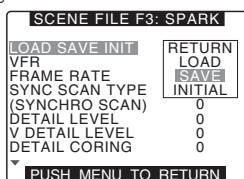
■ 例 2 : F 3 のシーンデータを本機に保存する

1 設定メニュー SCENE FILE 画面の LOAD/SAVE/INIT 項目を選び、OPERATIONレバーの SET を押す。

- F3 のシーンファイルであることを確認する。
- メニュー操作については、「設定メニューの基本操作」(→ Vol. 1 の 27 ページ)をご参照ください。

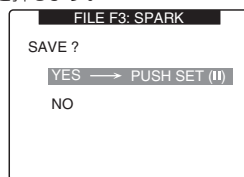


2 SAVE を選び、OPERATIONレバーの SET を押す。



3 下記の画面が表示されたら YES を選び、OPERATIONレバーの SET を押す。

- 一階層上の設定メニューに戻るには MENU ボタンを押します。



- PROCESSING と表示され、設定の変更が終了すると、下記のようなメッセージが表示されます。



- シーンファイルの設定変更後、前回保存した設定値に戻す場合は、**2** の操作で LOAD を選択して **3** の操作を同様に行います。
- シーンファイルの設定値を工場出荷時の設定に戻す場合は、**2** の操作で INITIAL を選び、**3** の操作を同様に行います。
- ユーザーファイルの設定の保存、読み出し、工場出荷時の設定に戻す場合は、設定メニュー OTHER FUNCTIONS 画面の USER FILE 項目で、シーンファイル時と同様に操作を行います。

撮影用の設定を使い分ける（シーンファイル）（つづき）

SD メモリーカードにシーンファイルなどを保存する

設定したシーンファイルやその他の設定値をまとめて、ファイルとしてそれぞれ4つまで、SDメモリーカードに保存、読み出しすることができます。

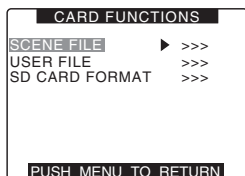
- シーンファイルの場合、現在の設定値は自動的に本機に保存され、その保存したデータをSDメモリーカードに書き込みます。SDメモリーカードから読み出したときは、本機内の保存データと同時に、現在の設定値も書き替わります。
- F1～F6すべてのシーンファイルが書き替わります。
- SDメモリーカードの取り扱いについては、<SDメモリーカード使用上の注意>（→ 161ページ）をご参照ください。

以下の説明は、シーンファイルの保存を基本に説明しています。

1 本機のPOWER/MODEスイッチをONにする。

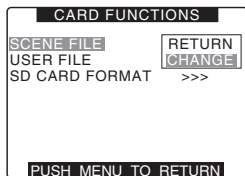
2 設定メニューCARD FUNCTIONS画面のSCENE FILE項目を選び、OPERATIONレバーのSETを押す（または▶方向に倒す）。

- メニュー操作については、「設定メニューの基本操作」（→ Vol. 1の27ページ）をご参照ください。



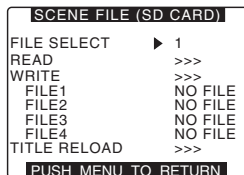
3 CHANGEを選び、OPERATIONレバーのSETを押す（または▶方向に倒す）。

- その他の設定値の場合は、USER FILEを選択します。

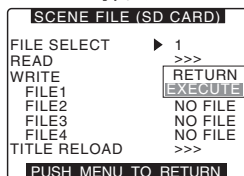


4 OPERATIONレバーを▲▼方向に倒して、ファイル番号（1～4）を選ぶ。

- 確定するには再度、SETを押します。

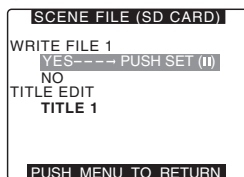


5 OPERATIONレバーでWRITE→EXECUTEを選択し、SETを押す。



6 OPERATIONレバーを◀方向に倒し、下記の画面が表示されたらYESを選び、SETを押す。

- 下図の場合は、TITLE 1がファイル名になります。
- 書き込みが完了すると、WRITE OKが表示されます。



ファイルを読み出すには

手順**1**～**4**を行い、手順**5**でREADを選び、EXECUTEを選択して、OPERATIONレバーのSETを押します。読み込みが完了すると、READ OKが表示されます。

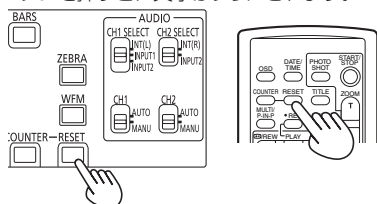
ユーザーファイルもCARD FUNCTIONS画面のUSER FILE項目で、シーンファイル時と同様の操作で行います。

SDメモリーカードからファイルを再読み込みするには

手順**1**～**3**を行い、手順**5**でTITLE RELOADを選んだあと、EXECUTEを選び、OPERATIONレバーのSETを押すと、ファイルの再読み込みが行われます。

ファイルにタイトルを付けるには

- 1) 手順 **1** ~ **5** を行う。
- 2) OPERATION レバーを操作して 8 文字のタイトル名を入力する。
 - ▲ ▼ : 文字移動
 - ◀ ▶ : 文字選択
 - SET : 文字確定
 - 設定できる文字
 - スペース (□) → アルファベット (A ~ Z)
 - 数字 (0 ~ 9)
 - 記号 (:;<=>?@ [¥] ^_./)
 - ファイル名を設定しているときに、RESET ボタンを押すと、文字がクリアされます。



- 3) すべての入力が終わったら、文字の左端で OPERATION レバーを ◀ 方向に倒し (または右端で ▶ 方向に倒し)、YES を選び SET を押す。

- WRITE NG FORMAT ERROR が表示された場合は、SD メモリーカードをフォーマットしてください。(→ 16 ページ)
- WRITE NG WRITE PROTECT が表示された場合は、SD メモリーカードのプロテクトを解除してください。
- WRITE NG CANNOT ACCESS が表示された場合は、その他の動作 (再生中など) を終了してから操作してください。
- WRITE NG ERROR が表示された場合は、SD メモリーカードの不良が考えられます。交換してください。

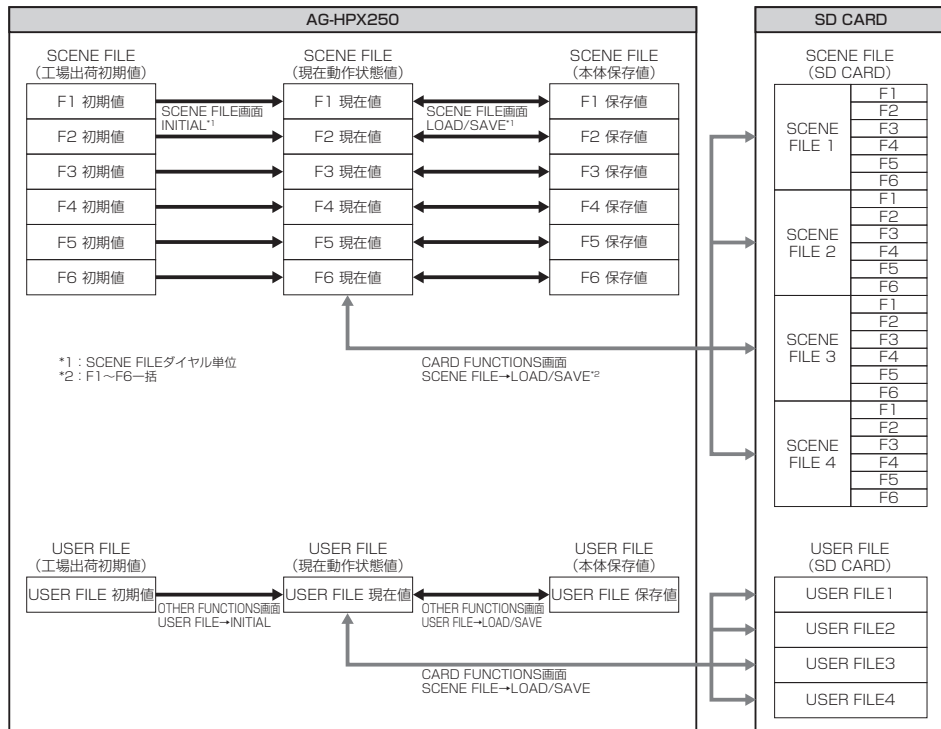
撮影用の設定を使い分ける（シーンファイル）（つづき）

設定データのファイル構成

本機は、SCENE FILE ダイアルに合わせて F1 ~ F6 の SCENE FILE を本機内に保存できます。SD メモリーカードを使用すると、SCENE FILE の F1 ~ F6 のデータを一括して最大 4 つまでカード内のファイルに保存し、読み出して使用することができます。

また、設定メニュー値をユーザーファイルとして本機内に 1 つ、SD メモリーカードに最大 4 つまで保存することができます。

本機の設定データファイルの構成は、下記のようになっています。



- 設定メニュー OTHER FUNCTIONS 画面の MENU INIT 項目を実行すると、SCENE FILE F1 ~ F6 のすべての現在動作状態の値と本体保存値および USER FILE の現在動作状態の値と本体保存値を、一括して工場出荷時の状態に戻すことができます。ただし、TIME ZONE の設定は工場出荷時の設定には戻りません。
- ワンクリップレックで前のクリップに連結して記録可能な状態のとき(「1 * CLIP」と表示されているとき)は、SCENE FILE や USER FILE を操作できません。一度メニューを閉じた後、OPERATION レバーを ▼ 方向 (STOP) に約 2 秒間倒してクリップ連結を終了させてから、再度操作してください。

タイムデータを利用する

本機はタイムデータとしてタイムコード、ユーザーズビット、日時（リアルタイム）データを備え、映像と同期して毎フレーム記録します。また、クリップメタデータファイルのデータとして記録されます。

カウンターの設定と表示

COUNTER ボタンでカウンター表示にすると、ビューファインダー/液晶モニター画面のタイムコード表示部(→ 121 ページ)にカウンター値を表示します。カウンター値は、時:分.秒で表示されます。再生中は表示されません。

設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の REC COUNTER 項目の設定で 2 種類のカウントができます。(→ 148 ページ)

TOTAL:

COUNTER RESET ボタンでリセットされるまで積算してカウントを続けます。

P2 カードを入れ替えたり、電源を OFF にしたりしてもカウンター値は保持されます。

CLIP:

記録開始のたびにカウンター値がクリアされ、0 からカウントを開始します。

常に現在記録中のクリップの記録時間を確認しながら撮影できます。

-
- **カウンター値を表示中に RESET ボタンを押すと、カウンター値がリセットされ、ふたたび 0 からカウントを開始します。**
 - **カウンター値は、0:00.00 ~ 9:59.59 の 1 秒単位です。**
-

タイムデータの概要

■ タイムコード

設定メニューで REC RUN と FREE RUN に切り替えることができます。(→ 141 ページ)

FREE RUN:

常に歩進し、電源 OFF でも歩進が行われ、時刻と同様に扱うことができます。また TC IN/ OUT 端子や DVCPRO/DV 端子に入力されたタイムコードにスレーブロックして記録することができます。

REC RUN:

記録のときだけ歩進します。通常、前回記録したクリップに連続した値となり、電源 OFF にしたり、記録する P2 カードを交換しても値は保持されません。

下記の場合は、連続した値になりません。

- 記録したクリップを削除した場合
 - 24P、24PA のフレームレートに切り替えた場合
 - 24PN、30PN (25PN) に切り替えた場合
 - 記録中に REC WARNING などの異常で記録を中止した場合
-

■ ユーザーズビット

- ユーザーズビット (LTC UB: LTC として記録し、TC IN/OUT 端子から出力および HD SDI の LTC として出力される) と、VITC (DVCPRO では VIDEO AUX 領域に記録され、HD SDI の VITC として出力される) の 2 種類を別々に内蔵しています。
- LTC UB は、ユーザー設定値、時刻、年月日、タイムコードと同値、カメラ撮影のフレームレート情報、外部 (TC IN/OUT 端子や DVCPRO/DV 端子) 入力値などを選択して記録することができます。
- VITC UB は、カメラ撮影のフレームレート情報が記録されます。
- クリップメタデータのユーザーズビットには、記録開始時の LTC UB 値が記録されます。

タイムデータを利用する（つづき）

■日時（リアルタイム）

- 内蔵の時計により、年、月、日、時刻を計測し、ビューファインダー / 液晶モニター画面、および VIDEO OUT などの出力映像に表示することができます。
- 内蔵時計はフリーランタイムコードの電源 OFF 中の計測や、ユーザーズビットの時刻、年月日データとして使用されるだけではなく、クリップを記録するときにファイル生成時刻のもととなり、サムネールの並びや再生順序が決まります。
- また、クリップメタデータや、UMID (Unique Material Identifier) の生成にも使用されます。
 - 「カレンダーを合わせる」(→ Vol. 1 の 25 ページ)

ユーザーズビットの設定

サブコード領域に記録するユーザーズビットを設定メニュー RECORDING SETUP 画面の UB MODE 項目で設定します。(→ 141 ページ)

USER:

内蔵しているユーザー値を記録します。ユーザー値は、設定メニュー UB PRESET 項目で設定できます。設定値は、電源 OFF でも保持されます。

- 「ユーザーズビットの入力方法」(→ 63 ページ)

TIME:

内蔵時計で計測している時刻を記録します。

DATE:

内蔵時計で計測している年、月、日時刻の時の桁を記録します。

EXT:

TC IN/OUT 端子に入力されているユーザーズビット値を記録します。

また、1394 入力記録時は、DVCPRO/DV 端子から入力されているユーザーズビット値を記録します。

TCG:

タイムコード値が記録されます。

FRM. RATE:

カメラ撮影のフレームレート情報が記録されます。ネイティブ記録されたクリップの再生時には、記録された値に関わらず VITC UB と同じフレームレート情報を出力します。パーソナルコンピューターなどの編集機器がユーザーズビットのフレームレート情報を使用する場合には、この設定でご使用ください。

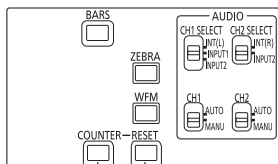
- 「ユーザーズビットに記録されるフレームレート情報」(→ 64 ページ)
- なお、TC IN/OUT 端子に入力しているユーザーズビット値にスレーブロックする場合は、EXT に設定してください。
- スレーブしている間は、UB 表示が白黒反転文字になります。

- 一度スレーブしたあとは、TC IN/OUT 端子や DVCPRO/DV 端子入力を止めてもスレーブ状態を継続します。ただし、下記の場合はユーザーズビットのスレーブ状態は解除されます。
 - UB MODE 項目を EXT 以外に設定した場合。
 - UB PRESET を行った場合。
 - 設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の REC SIGNAL 項目で 1394 に切り替えた場合。
 - 電源 OFF にした場合。
- スレーブ解除後も内蔵の USER 値はスレーブした値を保持します。

TC IN/OUT 端子から外部タイムコードを入力するには、設定メニュー OUTPUT SEL 画面の TC IN/OUT SEL 項目を TC IN に設定する必要があります。

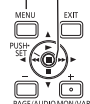
ユーザズビットの入力方法

ユーザズビットを設定することにより、16進数8桁までのメモ(日付、時刻)などの情報をサブコード領域に記録できます。



RESET ボタン
COUNTER ボタン

MENU ボタン
OPERATION レバー

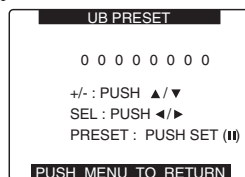


1 設定メニュー RECORDING SETUP 画面の UB MODE 項目で USER を選択する。

- メニュー操作については、「設定メニューの基本操作」(→ Vol. 1 の 27 ページ)をご参照ください。
- 本体のボタンに対応したリモコンのボタンも操作できます。詳しくは、「各部の名称(リモコン)」(→ Vol. 1 の 18 ページ)をご参照ください。

2 設定メニュー RECORDING SETUP 画面の UB PRESET 項目で CHANGE を選択し、OPERATION レバーの SET を押すと、ユーザズビット設定画面が開く。

3 OPERATION レバーでユーザズビットを設定する。



- ▶ 方向: 設定を行う(反転表示している)桁が右に移ります。
- ◀ 方向: 設定を行う(反転表示している)桁が左に移ります。
- ▲ 方向: 反転表示している桁の数値を1ずつ大きくします。
- ▼ 方向: 反転表示している桁の数値を1ずつ小さくします。

SET: 設定したユーザズビットを確定させます。

- ユーザズビットを設定しているときに RESET ボタンを押すと、ユーザズビットが0にリセットされます。

4 OPERATION レバーの SET を押してユーザズビットの設定値を確定させ、ユーザズビット設定画面を抜ける。

OPERATION レバーの SET ボタンを押さずにユーザズビット設定画面を抜けた場合は、設定した値は無効になります。

5 COUNTER ボタンでUBを表示し、設定した値が表示されていることを確認する。

ユーザズビットのメモリー機能について
ユーザズビットの設定内容は、自動的にメモリーされ、電源 OFF のあとも保持されます。

タイムデータを利用する（つづき）

ユーザーズビットに記録されるフレームレート情報

設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の各項目や FRAME RATE 項目で設定されたフレームレートに従って撮影・記録される映像情報のフレームレート値をユーザーズビットに記録しておき、編集機器（パーソナルコンピューター編集ソフト）で利用できます。

VITC UB には常にこの情報が記録されます。

また、設定メニュー UB MODE 項目を FRM. RATE に設定すると、ユーザーズビット（LTC UB）にも記録されます。ネイティブで記録されたクリップの再生では、VITC UB を再生して得たフレームレート情報と同じ値を LTC UB としても出力します。

■ フレームレート情報

フレームレート、および映像のプルダウンと、タイムコード・ユーザーズビットの関係は下記のようになっています。



右 6 桁の検 固定値 算情報

シーケンス No.
24P、24PA: 0 ~ 4
上記以外: F 固定

カメラ映像モード

- 例) ・60i: 600
 ・60P: 608
 ・30P: 308
 ・24P: 248
 ・24PA: 24C
 ・24PN: 24C (撮影中)
 ・50i: 502
 ・50P: 50A
 ・25P: 25A
 ・** P: ** 9 (VFR 30PN または over 60P)
 ・** P: ** 1 (VFR over 60P)
 ・** P: ** D (VFR 24PN 撮影中)
 ・** P: ** B (VFR 25PN または over 50P)
 ・** P: ** 3 (VFR over 50i)

1080i、480i、576i のとき

フレームレート: 24P Over 60i (2:3)

更新フレームの先頭フィールド

タイムコードフレーム桁

00	01	02	03	04	05	06	...	23	24	25	26	27	28	29
----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----

映像

A0	A1	B0	B1	B2	B3	C0	C1	D0	D1	A0	A1	B0	B1	...	C0	C1	D0	D1	A0	A1	B0	B1	B2	B3	D0	D1	C0	C1	D0	D1
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

シーケンス No.

0	1	2	3	4	0	1	...	3	4	0	1	2	3	4
---	---	---	---	---	---	---	-----	---	---	---	---	---	---	---

更新フレーム情報

10	10	01	01	00	10	10	...	01	00	10	10	10	01	01	00
----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----

フレームレート: 24PA Over 60i (2:3:3:2)

タイムコードフレーム桁

00	01	02	03	04	05	06	...	23	24	25	26	27	28	29
----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----

映像

A0	A1	B0	B1	B2	B3	C0	C1	D0	D1	A0	A1	B0	B1	...	C0	C1	D0	D1	A0	A1	B0	B1	B2	B3	D0	D1	C0	C1	D0	D1
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

シーケンス No.

0	1	2	3	4	0	1	...	3	4	0	1	2	3	4
---	---	---	---	---	---	---	-----	---	---	---	---	---	---	---

更新フレーム情報

10	10	01	00	10	10	10	...	00	10	10	10	10	01	00	10
----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----

フレームレート: 30P Over 60i (2:2)
25P Over 50i (2:2)

タイムコードフレーム桁

00	01	02	...
----	----	----	-----

映像

A0	A1	B0	B1	C0	C1	...
----	----	----	----	----	----	-----

更新フレーム情報

10	10	10	...
----	----	----	-----

720P のとき

フレームレート： 24P Over 60P (2:3)

更新フレーム

タイムコードフレーム桁

00 01 02 03 04 05 06 ... 23 24 25 26 27 28 29

映像

A A B B C C D D A A B B ... C D D C A A B B C C D D

更新フレーム情報

10 10 01 01 00 10 10 ... 01 00 10 10 01 01 00

フレームレート： 30P Over 60P (2:2)

25P Over 50P (2:2)

タイムコードフレーム桁

00 01 02 ...

映像

A A B B C C ...

更新フレーム情報

10 10 10 ...

タイムデータを利用する (つづき)

タイムコードの設定

1 設定メニュー RECORDING SETUP 画面の TC MODE 項目と TCG 項目で、タイムコードのモードを設定する。

- TC MODE 項目 (59.94 Hz の場合) (→ 140 ページ)

DF/NDF を設定します。

タイムコード	設定
ドロップフレームモード	DF
ノンドロップフレームモード	NDF

24P、24PA、24PN では常に NDF で動作します。

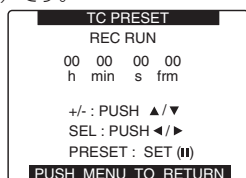
- TCG 項目 (→ 141 ページ)

FREE RUN (フリーラン) / REC RUN (レックラン) を設定します。

2 設定メニュー RECORDING SETUP 画面の TC PRESET 項目で CHANGE を選択し、OPERATION レバーの SET を押すとタイムコード設定画面が開く。

3 OPERATION レバーでタイムコードを設定する。

- タイムコードの設定可能範囲は
00:00:00:00 ~ 23:59:59:29 (60i、60P)、
00:00:00:00 ~ 23:59:59:23 (24PN)、
00:00:00:00 ~ 23:59:59:24 (50i、50P) です。



- ▶ 方向：設定を行う (反転表示している) 桁が右に移ります。
- ◀ 方向：設定を行う (反転表示している) 桁が左に移ります。
- ▲ 方向：反転表示している桁の数値を 1 ずつ大きくします。
- ▼ 方向：反転表示している桁の数値を 1 ずつ小さくします。

SET： 設定したタイムコードを確定させます。

- タイムコードを設定しているときに RESET ボタンを押すと、タイムコード値が 0 にリセットされます。

4 OPERATION レバーの SET を押し、タイムコードの設定値を確定して、タイムコード設定画面を抜ける。

5 COUNTER ボタンで TC 表示にし、設定値が表示されていることを確認する。

- 24P、または 24PA でご使用時は、タイムコードの設定は 5 フレーム単位に調整されます。24PN の場合は 4 の倍数に、720/30PN と 720/25PN の場合は偶数になるように調整されます。また、記録中にタイムコードの設定はできません。
- OPERATION レバーの SET を押さずにタイムコード設定画面を抜けた場合は、設定した値は無効になります。

バッテリー交換時のタイムコードについて

バッテリー交換時にもバックアップ機構がはたらいで、タイムコードジェネレーターは動作を続けます。

POWER/MODE スイッチを ON → OFF → ON と切り替えた場合、フリーランのタイムコードのバックアップ精度は約±2 フレームです。

VFR (バリアブルフレームレート) でのタイムコード

- 24PN では、記録は 24 フレームとなり出力は 2:3 プルダウン映像に合わせ、30 フレームとなります。
- FRAME RATE (撮影のフレームレート) が 24P のときは、記録と出力のタイムコードの歩進速度は、実時間どおり一致しますが 24P 以外では一致しません。(例：60P の場合、記録の歩進速度は 60/24 倍速となります)
- この場合は、REC RUN 固定動作となり記録開始時に出力するタイムコード値を記録タイムコードに一致させます。
- 30PN のときの 30P 撮影以外、および 25PN のときの 25P 撮影以外も同様です。

タイムコードを外部ロックさせる

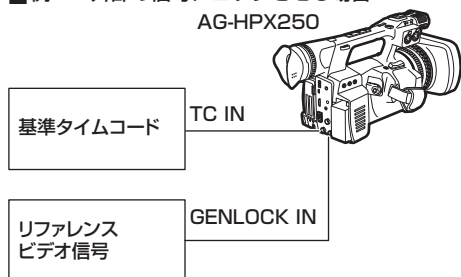
本機の内部タイムコードジェネレーターを外部ジェネレーターにロックさせることができます。また、外部機器のタイムコードジェネレーターを本機の内部ジェネレーターにロックさせることもできます。

外部ロックさせる為の接続例

図のように、リファレンスビデオ信号と基準タイムコードの両方を接続します。

■ 例 1：外部の信号にロックさせる場合

AG-HPX250

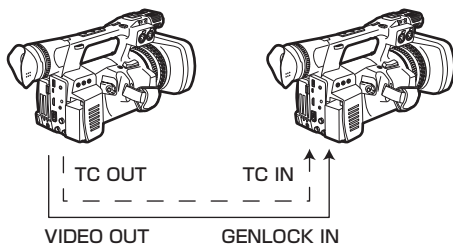


- 外部タイムコードを入力するには、設定メニュー OUTPUT SEL 画面の TC IN/OUT SEL 項目を TC IN に設定し、RECORDING SETUP 画面の TCG 項目を FREE RUN に設定します。
- リファレンスビデオ信号としては、HD の Y 基準信号のほかコンポジットビデオ信号も入力可能です。
- システムモードが 480i (576i) (SD) および 720P の場合は、コンポジットビデオ信号を入力してください。
- システムモードが 720P の場合、HD-Y 信号を入力すると映像信号の GENLOCK はかかりますが、タイムコードは 1 フィールドずれる場合があります。
- GENLOCK の入力基準信号が乱れた場合、正常に記録が行えず、ビューファインダーおよび液晶モニター画面に「TEMPORARY PAUSE IRREGULAR FRM SIG」が赤く点滅し、クリップが分割されます。また、タイムコードの連続性も保証されません。信号が正常に戻ると記録を再開します。ただし、インターバル記録、ワンショット記録、ループロックのときは、記録を再開しません。

■ 例 2：本機を 2 台つなぎ、1 台をリファレンス機とする場合

リファレンス機

スリーブ機



- TC IN/OUT 端子を出力にするまたは入力にするかは、設定メニュー OUTPUT SEL 画面の TC IN/OUT SEL 項目で設定します。
- 各機とも、設定メニュー OUTPUT SEL 画面の TC VIDEO SYNC 項目を RECORDING に、OTHER FUNCTIONS 画面の GL PHASE 項目を COMPOSITE に設定してください。
- 設定メニュー OUTPUT SEL 画面の TC VIDEO SYNC 項目を RECORDING に設定すると 2 台で同時刻の映像に同じタイムコードをつけて記録することができます。
- 本機の VIDEO OUT 端子の VBS 信号のサブキャリアを外部ロックさせることはできません。

タイムデータを利用する（つづき）

外部ロックの操作手順

下記の手順で、外部ロックさせます。

- 1 POWER/MODE スイッチを ON にする。
- 2 設定メニュー RECORDING SETUP 画面の TCG 項目を FREE RUN に設定する。
- 3 COUNTER ボタンで TC 表示にする。
- 4 タイムコードの規格を満たした位相関係にある基準タイムコードとリファレンスビデオ信号を、TC IN/OUT 端子と GENLOCK IN 端子へそれぞれ供給する。

- これ内で蔵タイムコードジェネレーターは、基準タイムコードにロックします。
- 外部ロックの操作をすると、タイムコードは瞬時に外部のタイムコードにロックし、外部タイムコードの値と同じ値がカウンター表示部に出て、TC 表示が白黒反転文字になります。シンクジェネレーターが安定するまでの数秒間は、記録モードにしないでください。
- 一度、スレーブすると TC IN/OUT 端子や GENLOCK IN 端子の入力がなくなっても、スレーブ状態*を継続します。ただし、下記の場合はスレーブ状態は解除されます。
 - TC PRESET を行った場合。
 - 設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の REC SIGNAL 項目を 1394 に切り替えた場合。
 - 電源 OFF にした場合。
 - TC MODE 項目で DF/NDF を切り替えた場合。
 - TCG 項目を REC RUN にした場合。
 - REC FORMAT 項目、CAMERA MODE 項目を切り替えた場合。
- * スレーブ機能とは、本機の内部タイムコードジェネレーターが、外部から入力しているタイムコードにロックして歩進している状態、または、外部からのタイムコード入力がなくなった後も連続して歩進している状態です。

外部ロック時のユーザーズビットの設定について

ユーザーズビットを外部ロックさせるには、設定メニュー RECORDING SETUP 画面の UB MODE 項目を EXT に設定してください。

REC RUN/FREE RUN に関わらず、TC IN/OUT 端子に入力されたユーザーズビット値にスレーブします。

- 「タイムデータの概要」(→ 61 ページ)・「ユーザーズビットの設定」(→ 62 ページ)

外部ロックを解除するには

外部タイムコードの供給を止めてから、設定メニュー RECORDING SETUP 画面の TCG 項目を REC RUN に設定します。

外部ロック中のカメラ部の外部同期について

外部ロック中、GENLOCK IN 端子に入力されるリファレンスビデオ信号により、カメラ部は GENLOCK がかります。

-
-
- 本機をマスター機として複数台に外部ロックさせる場合は、本機のカメラモードと同一モードにしてください。インターレースとプログレッシブ混在等のシステムでは映像・タイムコードの連続性が保証されませんのでお気をつけください。
 - 24P、24PA および 24PN (Native) で外部ロックさせるときは、必ずノンドロップフレームのタイムコードを入力してください。ドロップフレームでは外部ロックできません。また、外部ロックした瞬間、画像が乱れることがありますが、5 フレーム周期を合わせるためであり、異常ではありません。
-
-

GENLOCK とタイムコード入出力の接続と設定

本機の使用条件			本機の設定	GENLOCK 入力と本機の出力位相 一致：○、不一致：×		
記録 フォーマット	外部に供給する 映像・基準信号	GENLOCK 入力	GL PHASE	SDI OUT (HD)	VIDEO OUT および SDI OUT (SD)	TC OUT
1080i	SDI OUT (1080i)	1080i	HD SDI	○	90H 遅れ	○
	VIDEO OUT		COMPOSITE	90H 進み	○	○
	SDI OUT (1080i)	SD (480i/576i)	HD SDI	○	90H 遅れ	○
	VIDEO OUT		COMPOSITE	90H 進み	○	○
720P	SDI OUT (720P)	720P	HD SDI	○	120H 遅れ	×
	VIDEO OUT		COMPOSITE	120H 進み	○	×
	SDI OUT (720P)	SD (480i/576i)	HD SDI	○	120H 遅れ	○
	VIDEO OUT		COMPOSITE	120H 進み	○	○
480i/576i	SDI OUT (480i/576i) VIDEO OUT	SD (480i/576i)	無効	なし	○	○

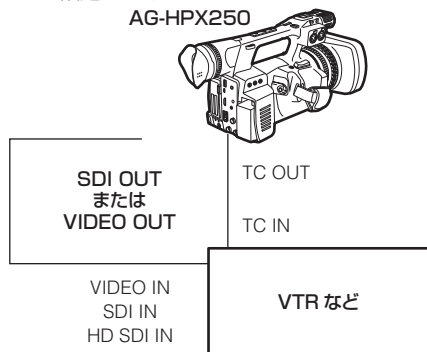
タイムデータを利用する（つづき）

タイムコードを外部に供給する

本機からカメラ映像、または再生映像に合わせて TC OUT を VTR などの記録機器に供給する場合は、設定メニュー OUTPUT SEL 画面の TC VIDEO SYNC 項目を VIDEO OUT に設定してください。

また、設定メニュー OTHER FUNCTIONS 画面の GL PHASE 項目を供給する映像出力に合わせて HD SDI、または COMPOSITE に設定し、OUTPUT SEL 画面の TC OUT 項目を TCG/TCR に設定してください。

AG-HPX250



TC VIDEO SYNC 項目を VIDEO OUT に設定すると、映像出力の遅延に合わせたタイムコードが TC IN/OUT 端子から出力されます。

タイムコード、およびユーザーズビットの記録と出力

SYSTEM MODEが 1080-59.94i、720-59.94P、480-59.94i のとき

システム設定状態					記録 TC		出力 TC		表示 TC	記録 UB		出力 UB		
SYSTEM MODE	REC SIGNAL	REC FORMAT	CAMERA MODE	FRAME RATE	LTC	VITC	TC OUT	HD SDI の LTC、VITC	TC tc (24/30変換)	LTC UB	VITC UB	TC IN/OUT 端子の UB ^{*1}	HD SDI の LTC UB ^{*1}	HD SDI の VITC UB
1080-59.94i	CAMERA	DVCPROHD/60i	60i, 30P	—	R-RUN/F-RUN ^{*3} DF/NDF 30 フレーム	LTCと同値	LTCを出力	LTCを出力	TC: 30 フレーム tc: 24 フレーム	UB MODE に従う ・EXT では TC IN/OUT 端子の UB をスレープ	フレームレート情報	LTC UB を出力	LTC UB を出力	フレームレート情報
			(60i)	1-30 FRAME										
			24P, 24PA	—	R-RUN/F-RUN ^{*3} NDF 固定 30 フレーム									
		AVC-1100/60i AVC-150/60i	—	—	R-RUN/F-RUN ^{*3} DF/NDF 30 フレーム		LTCを出力	LTCを出力						
			—	1-30 FRAME	—		LTCを出力	LTCを出力						
			—	30FRAME	R-RUN/F-RUN ^{*3} DF/NDF 30 フレーム		LTCを出力	LTCを出力						
		AVC-1100/30PN AVC-150/30PN	—	—	R-RUN/F-RUN ^{*3} DF/NDF 30 フレーム		記録の先頭で記録 TC に一致。30 フレーム/秒	記録の先頭で記録 TC に一致。30 フレーム/秒						
			—	30FRAME 以外	R-RUN 固定 DF/NDF 有効フレーム毎 30 フレーム									
			—	24FRAME	R-RUN/F-RUN ^{*3} NDF 固定 24 フレーム									
		AVC-1100/24PN AVC-150/24PN	—	—	R-RUN 固定 NDF 固定 有効フレーム毎 24 フレーム		記録の先頭で記録 TC に一致。30 フレーム/秒	記録の先頭で記録 TC に一致。30 フレーム/秒						
—	24FRAME 以外		R-RUN 固定 NDF 固定 有効フレーム毎 24 フレーム	LTCを元に30 フレームに変換	LTCを元に30 フレームに変換	再生 TC: 24 フレーム tc: 30 フレーム								
—	24FRAME		R-RUN 固定 NDF 固定 有効フレーム毎 24 フレーム											
1394	DVCPROHD/60i	—	—	R-RUN/F-RUN ^{*3} DF/NDF 30 フレーム	常に1394 入力 の VAUX TC を記録 ^{*6}	LTCを出力	LTCを出力	TC: 30 フレーム tc: 24 フレーム	UB MODE に従う ・EXT では 1394 入力 の LTC UB をスレープ	1394 入力 の VITC UB を 記録	LTC UB を出力	LTC UB を出力	VITC UB を出力する	

- *1 : UB MODE が FRM. RATE の場合、Native クリップの再生は VITC UB から読み出したブルダウンフレームレート情報となります。
- *2 : フリーランでは DVCPRO/DV 端子に入力された値にスレープします。TC IN/OUT 端子の TC にはスレープしません。
- *3 : フリーランでは TC IN/OUT 端子の入力 TC にスレープします。
- *5 : フリーランでは TC IN/OUT 端子の入力 TC がノンドロップフレームの場合に、スレープします。ただし REC 中はスレープできません。
- *6 : VAUX TC は DVC フォーマットでビデオ AUX 領域に記録された TC のことです。
- *7 : フリーランでは、TC IN/OUT 端子の入力 TC が 30 フレームのノンドロップフレームの場合に、24 フレームに変換した値にスレープします。ただし、REC 中はスレープできません。

タイムデータを利用する (つづき)

システム設定状態					記録 TC		出力 TC		表示 TC	記録 UB		出力 UB		
SYSTEM MODE	REC SIGNAL	REC FORMAT	CAMERA MODE	FRAME RATE	LTC	VITC	TC OUT	HD SDI の LTC、VITC	TC tc (24/30 変換)	LTC UB	VITC UB	TC IN/OUT 端子の UB*	HD SDI の LTC UB†	HD SDI の VITC UB
720 59.94P	CAMERA	DVCPRHD/60P AVC-1100/60P AVC-150/60P	—	24FRAME 以外	R-RUN/F-RUN ³ DF/NDF 30 フレーム	LTCと同値	LTCを出力	LTCを出力	TC: 30 フレーム tc: 24 フレーム	UB MODE に 従う ・EXT では TC IN/OUT 端 子の UB を スレーブ	フレームレート 情報	LTC UB を 出力	LTC UB を 出力	フレーム レート情報
			—	24FRAME	R-RUN/F-RUN ⁵ NDF 固定 30 フレーム									
		DVCPRHD/30PN AVC-1100/30PN AVC-150/30PN	—	30FRAME	R-RUN/F-RUN ⁴ DF/NDF 有効フレーム毎 30 フレーム									
			—	30FRAME 以外	R-RUN 固定 DF/NDF 有効フレーム毎 30 フレーム									
		DVCPRHD/24PN AVC-1100/24PN AVC-150/24PN	—	24FRAME	R-RUN/F-RUN ⁷ NDF 固定 有効フレーム毎 24 フレーム									
			—	24FRAME 以外	R-RUN 固定 NDF 固定 有効フレーム毎 24 フレーム									
1394	DVCPRHD/60P	—	—	R-RUN/F-RUN ² DF/NDF 30 フレーム	常に 1394 入力の VAUX TC を記録 *6	LTCを出力	LTCを出力	TC: 30 フレーム tc: 24 フレーム	UB MODE に 従う ・EXT では 1394 入力の VITC UB を 記録 スレーブ	1394 入力の VITC UB を 記録	LTC UB を 出力	LTC UB を 出力	VITC UB を 出力する	
480 59.94i	CAMERA	DVCPR050/60i DVCPR0/60i DV/60i	60i、30P	—	R-RUN/F-RUN ³ DF/NDF 30 フレーム	LTCと同値 (ただし DV 時はなし)	LTCを出力	なし	TC: 30 フレーム tc: 24 フレーム	UB MODE に 従う ・EXT では TC IN/OUT 端 子の UB を スレーブ	フレームレート 情報	LTC UB を 出力	なし	なし
			24P、 24PA	—	R-RUN/F-RUN ⁵ NDF 固定 30 フレーム	常に 1394 入力の VAUX TC を記録 (DV は なし) *6	LTCを出力	なし	TC: 30 フレーム tc: 24 フレーム	UB MODE に 従う ・EXT では 1394 入力の VITC UB を 記録 スレーブ	1394 入力の VITC UB を 記録	LTC UB を 出力	なし	なし
	1394	—	—	R-RUN/F-RUN ² DF/NDF 30 フレーム	常に 1394 入力の VAUX TC を記録 (DV は なし) *6	LTCを出力	なし	TC: 30 フレーム tc: 24 フレーム	UB MODE に 従う ・EXT では 1394 入力の VITC UB を 記録 スレーブ	1394 入力の VITC UB を 記録	LTC UB を 出力	なし	なし	

*1 : UB MODE が FRM. RATE の場合、Native クリップの再生は VITC UB から読み出したブルダウンフレームレート情報となります。

*2 : フリーランでは DVCPR/DV 端子に入力された値にスレーブします。TC IN/OUT 端子の TC にはスレーブしません。

*3 : フリーランでは TC IN/OUT 端子の入力 TC にスレーブします。

*4 : フリーランでは TC IN/OUT 端子の入力 TC にスレーブします。ただし REC 中はスレーブできません。

*5 : フリーランでは TC IN/OUT 端子の入力 TC がノンドロップフレームの場合に、スレーブします。ただし REC 中はスレーブできません。

*6 : VAUX TC は DVC フォーマットでビデオ AUX 領域に記録された TC のことです。

*7 : フリーランでは、TC IN/OUT 端子の入力 TC が 30 フレームのノンドロップフレームの場合に、24 フレームに変換した値にスレーブします。ただし、REC 中はスレーブできません。

SYSTEM MODEが 1080-50i、720-50P、576-50i のとき

システム設定状態					記録 TC		出力 TC		表示 TC	記録 UB		出力 UB		
SYSTEM MODE	REC SIGNAL	REC FORMAT	CAMERA MODE	FRAME RATE	LTC	VITC	TC OUT	HD SDI の LTC、VITC	TC tc (24/30 変換)	LTC UB	VITC UB	TC IN/OUT 端子の UB ¹	HD SDI の LTC UB ¹	HD SDI の VITC UB
1080 50i	CAMERA	DVCPROHD/50i	50i、25P (50i)	— 1~25FRAME	R-RUN/F-RUN ³ 25 フレーム	LTCと同値	LTCを出力	LTCを出力	TC: 25 フレーム	UB MODEに 従う ・EXT では TC IN/OUT 端 子の UB を スレーブ	フレームレート 情報	LTC UBを 出力	LTC UBを 出力	フレーム レート情報
		AVC-1100/50i AVC-150/50i	—	1~25FRAME										
		AVC-1100/25PN AVC-150/25PN	—	—	R-RUN/F-RUN ³ 25 フレーム									
				25FRAME 以外	R-RUN 固定 有効フレーム毎 25 フレーム	記録の先頭で 記録 TC に 一致。 25 フレーム /秒	記録の先頭で 記録 TC に 一致。 25 フレーム /秒							
1394	DVCPROHD/50i	—	—	R-RUN/F-RUN ² 25 フレーム	常に 1394 入力の VAUX TC を記録 ⁶	LTCを出力	LTCを出力	TC: 25 フレーム	UB MODEに 従う ・EXT では 1394 入力の LTC UB を スレーブ	1394 入力の VITC UB を 記録	LTC UBを 出力	LTC UBを 出力	VITC UB を 出力する	
720 50P	CAMERA	DVCPROHD/50P AVC-1100/50P AVC-150/50P	—	150 FRAME	R-RUN/F-RUN ³ 25 フレーム	LTCと同値	LTCを出力	LTCを出力	TC: 25 フレーム	UB MODEに 従う ・EXT では TC IN/OUT 端 子の UB を スレーブ	フレームレート 情報	LTC UBを 出力	LTC UBを 出力	フレーム レート情報
		DVCPRHD/25PN AVC-1100/25PN AVC-150/25PN	—	25FRAME	R-RUN/F-RUN ⁴ 有効フレーム毎 25 フレーム									
				—	25FRAME 以外	R-RUN 固定 有効フレーム毎 25 フレーム	記録の先頭で 記録 TC に 一致。 25 フレーム /秒	記録の先頭で 記録 TC に 一致。 25 フレーム /秒						
	1394	DVCPROHD/50P	—	—	R-RUN/F-RUN ² 25 フレーム	常に 1394 入力の VAUX TC を記録 ⁶	LTCを出力	LTCを出力						
576 50i	CAMERA	DVCPRO50i DVCPRO/50i DV/50i	50i、25P	—	R-RUN/F-RUN ³ 25 フレーム	LTCと同値 (ただし DV 時はなし)	LTCを出力	なし	TC: 25 フレーム	UB MODEに 従う ・EXT では TC IN/OUT 端 子の UB を スレーブ	フレームレート 情報	LTC UBを 出力	なし	なし
		1394	—	—	R-RUN/F-RUN ² 25 フレーム	常に 1394 入力の VAUX TC を記録 (DV は なし) ⁶	LTCを出力	なし	TC: 25 フレーム	UB MODEに 従う ・EXT では 1394 入力の LTC UB を スレーブ	1394 入力の VITC UB を 記録	LTC UBを 出力	なし	なし

*1 : UB MODE が FRM. RATE の場合、Native クリップの再生は VITC UB から読み出したプルダウンフレームレート情報となります。

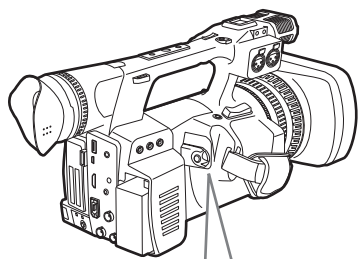
*2 : フリーランでは DVCPRO/DV 端子に入力された値にスレーブします。TC IN/OUT 端子の TC にはスレーブしません。

*3 : フリーランでは TC IN/OUT 端子の入力 TC にスレーブします。

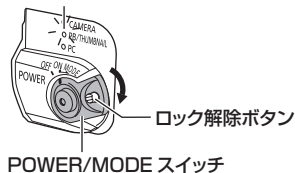
*4 : フリーランでは TC IN/OUT 端子の入力 TC にスレーブします。ただし REC 中はスレーブできません。

*6 : VAUX TC は DVC フォーマットでビデオ AUX 領域に記録された TC のことです。

再生の基本操作



動作ランプ (PB/THUMBNAIL)



- 1 POWER/MODE スイッチを ON にする。
ロック解除ボタンを押しながら POWER/MODE スイッチを ON の位置まで下方に押し込みます。
- 2 POWER/MODE スイッチを回して、動作ランプの PB/THUMBNAIL を点灯させる。
本機が PB /THUMBNAIL モードになります。
 - 回すたびに、以下のように切り替わります。
PB /THUMBNAIL ⇄ CAMERA
PB /THUMBNAIL モードになった後に POWER/MODE スイッチを下方に 2 秒間回すと、PC (パーソナルコンピュータ接続) モードになります。(→ 109 ページ)

サムネールを使ったクリップの再生について詳しくは、(→ 75 ページ) をご参照ください。

本機の OPERATION レバー	リモコン
 <p>再生する (▶) 停止中に操作すると、選択されたクリップを再生します。 再生中に操作すると、可変速サーチモード(→ 99 ページ)になり、×1 倍速で再生します。</p>	
 <p>早送り再生をする (▶▶) 再生中に操作すると、選択中のクリップ内で早送り再生します。(×4 倍速) 押したままにすると、速度が速くなります。(×32 倍速) 一時停止中に操作すると、クリップを 1 つ進めます。</p>	
 <p>早戻し再生をする (◀◀) 再生中に操作すると、選択中のクリップ内で早戻し再生します。(×4 倍速) 押したままにすると、速度が速くなります。(×32 倍速) 一時停止中に操作すると、クリップを 1 つ戻します。</p>	
 <p>停止する (■) 再生中 / 一時停止中に押すと、動作を停止してサムネール一覧に戻ります。</p>	
 <p>一時停止する () 再度押すと、再生に戻ります。</p>	

サムネール操作

クリップとは、一回の撮影によって生成される画像、音声、およびテキストメモ・メタデータなどの付加情報を含む、ひとかたまりのデータのことです。

本機では、PB/THUMBNAIL モードに切り替えることで、液晶モニター画面に各クリップがサムネール表示されます。

サムネール画面上で OPERATION レバーを使って以下の操作を行うことができます。

- クリップの再生、削除、コピー、および修復
- クリップのサムネールにテキストメモ、ショットマークを付加、および消去する
- テキストメモを使用してクリップを部分コピーする
- テキストメモを使用してサムネール画像を変更する
- P2 カード、SD メモリーカードのフォーマット
- クリップメタデータの SD メモリーカードからのアップロードおよび編集

サムネール操作（つづき）

サムネール操作の概要

サムネール画面は以下のような構成になっています。



THUMBNAIL

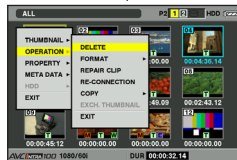


- ALL CLIP
- SAME FORMAT CLIPS
- SELECTED CLIPS
- MARKED CLIPS
- TEXT MEMO CLIPS
- SLOT CLIPS
- SETUP
- EXIT



- SLOT CLIPS
- SET UP
- EXIT

OPERATION



- DELETE
- FORMAT
- REPAIR CLIP
- RE-CONNECTION
- COPY
- EXCH. THUMBNAIL
- EXIT

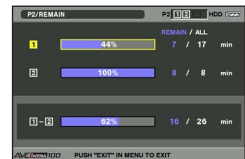
PROPERTY



CLIP PROPERTY



CARD STATUS



- DEVICES
- PROPERTY SETUP
- EXIT

META DATA

- LOAD
- RECORD
- USER CLIP NAME
- INITIALIZE
- PROPERTY
- LANGUAGE
- EXIT

HDD

- EXPORT
- EXPLORE
- SETUP
- EXIT

サムネール画面

POWER/MODE スイッチを回して、PB/THUMBNAIL モードに切り替えると、液晶モニターにサムネール画面を表示します。

再度、POWER/MODE スイッチを回すと、CAMERA モードに戻ります。

なお、CAMERA モードからサムネール画面に変わった時は、すべてのクリップをサムネール画面に表示します。

また、サムネール画面から MENU ボタンを押すと、サムネールのメニュー操作が可能になります。



サムネール画面



クリップアイコン

1. 表示状態

画面に表示するサムネールの種類や、その他の情報画面の種類を表示します。

ALL:

すべてのクリップを表示しています。

SAME FORMAT:

システムフォーマット（SYSTEM MODE 項目 / REC FORMAT 項目）と同じフォーマットのクリップを表示しています。

- 各項目については、(➔ 134ページ)をご参照ください。

SELECT:

SET ボタンで選択したクリップを表示しています。

MARKER:

ショットマークが付加されたクリップを表示しています。


TEXT MEMO:

テキストメモデータがあるクリップを表示しています。

SLOT n:

(n: スロット番号の [1], [2] が入ります)
特定の P2 カード内のクリップを表示しています。

UPDATING.:

画面更新などの処理中に表示しています。また更新中は回転するアイコン  を表示します。

- 「サムネール表示の切り替え」(➔ 80 ページ)

(次ページにつづく)

2. スロット番号・HDD 状態

ポインターが合わされているクリップが、どの P2 カードに記録されているかを表示します。クリップが記録された P2 カードのスロット番号を、黄色く表示します。クリップが複数の P2 カードにまたがって記録されている場合は、そのクリップが記録された P2 カードのスロット番号のすべてを表示します。また、P2 カードが挿入されているスロット番号を白く表示します。

以下のような P2 カードが挿入された場合、スロット番号を桃色で表示します。

- RUN DOWN CARD
(書き換え回数が規定回数を超えた P2 カード)
- DIR ENTRY NG CARD
(ディレクトリ配置が不正規な P2 カード)

USB HDD の表示は以下のようになります。

- USB ホストモード以外 : 「灰色」
- USB ホストモードで非接続の場合 : 「灰色」
- USB ホストモードで HDD が接続され使用可能な場合 : 「白色」
- USB ホストモードで HDD が接続されサムネール表示している場合 : 「黄色」
- USB ホストモードで HDD が接続されているが、使用可能な状態でない場合 : 「赤色」

3. 時間表示

設定により、クリップの記録開始時点のタイムコード (TC) / クリップの記録開始時点のユーザーズビット (UB) / 撮影時刻 (TIME) / 撮影日 (DATE) / 撮影日時 (DATE TIME) / クリップ名 (CLIP NAME) / ユーザークリップ名 (USER CLIP NAME) のいずれかを表示します。

- 「サムネールの表示設定」 (→ 93 ページ)

4. 記録モード

ポインターの位置のクリップの記録モードを表示します。

5. システムフォーマット

ポインターの位置のクリップのフォーマットを表示します。

6. デュレーション

ポインターの位置のクリップのデュレーションを表示します。

7. USB ホストモードインジケーター

USB ホストモードに切り替わっている場合に表示します。

8. クリップ番号

P2 カードに正しく認識されているすべてのクリップに、本機が設定した番号です。番号は、撮影日時が早い順に割り振られます。

記録フォーマットが異なるクリップなど、再生できないクリップは赤色で表示されます。


9. 不良クリップインジケーター・

不明クリップインジケーター

記録中に電源が切れるなどの原因で、記録に不具合のあるクリップに表示します。

黄色い不良クリップインジケーターが表示されたクリップは、修復が可能な場合があります。

- 「クリップの修復」 (→ 85 ページ)
- 赤い不良クリップインジケーターが表示されたクリップは、修復できませんので削除してください。削除できない場合は、P2 カードをフォーマットしてください。

P2 規格のフォーマットなどが異なるクリップの場合、 を表示します。

10. 不完全クリップインジケーター

複数の P2 カードにまたがって記録されているにもかかわらず、その内のいずれかの P2 カードが P2 カードスロットに挿入されていない場合、表示します。

11. ショットマークインジケーター

サムネールにショットマークが付加されたクリップに表示します。

- 「ショットマーク」 (→ 82 ページ)

12. プロキシ付きクリップインジケーター

AJ-HPX3100 などのプロキシ対応の P2 カメラレコーダーで記録したプロキシが付加記録されているクリップに表示します。

13. テキストメモインジケーター

テキストメモデータがあるクリップに表示します。

14. エディットコピークリップインジケーター

AJ-HPM200 など、エディットコピー対応機種でエディットコピーを行ったクリップに表示します。エディットコピーについて、詳しくは、エディットコピー対応機種取扱説明書をご参照ください。

15. ワイドインジケーター

16:9 の画角で記録されたクリップに表示します。ただし HD のフォーマットのクリップでは表示しません。

16. サムネールスクロールバー

現在表示しているサムネールがサムネール全体のどの辺りかを示します。

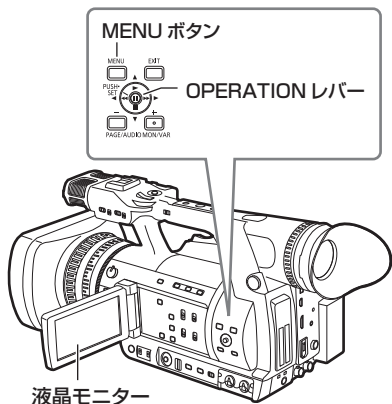
サムネールの選択

サムネール画面では、複数のサムネールを任意に選択できます。

- OPERATION レバーを ◀ ▶ 方向に倒して、選択したいクリップに合わせ、SET を押す。選択されたクリップのサムネールには青色の枠を表示します。再度 OPERATION レバーの SET を押すと、選択は解除されます。
- さらに選択したいクリップがある場合は、1 の操作を繰り返す。

選択したクリップのみをサムネール画面に表示し、再生することが可能です。

- 「サムネール表示の切り替え」(→ 80 ページ)



クリップの再生

- POWER/MODE スイッチを回して、PB/THUMBNAIL モードに切り替える。液晶モニターにサムネール画面が表示されます。
- OPERATION レバーを ◀ ▶ 方向に倒して、ポインターを再生したいクリップに合わせる。
- OPERATION レバーを ▲ 方向 (▶ 再生) に倒す。
 - ポインターが合わされたクリップが、液晶モニター上で再生されます。
 - カーソルが合わされたクリップの再生が終わると、それ以降の再生可能なクリップがサムネール画面に表示されている順に再生され、最後のクリップの再生が終わった時点でサムネール画面に戻ります。

- クリップを再生する際は、クリップを選択する (サムネールに青色の枠を表示した状態にする) 必要はありません。
- クリップ番号が赤色に表示されたクリップは、再生できません。

- 再生中に OPERATION レバーやリモコンを操作することで、早送り、早戻し、一時停止などの動作をさせることができます。詳しくは、(→ 74 ページ) をご参照ください。
- クリップの再生中に OPERATION レバーを ▼ 方向 (STOP) に倒すと、再生を停止してサムネール画面に戻ります。

- 再生を停止時、ポインターは再生開始時の位置にかかわらず、再生していたクリップの位置に移動します。
- 再度 OPERATION レバーを ▲ 方向 (▶ 再生) に倒すと、ポインターが合わされたクリップの先頭から再生を開始します。直前の停止位置から続けて再生したい場合は、「サムネールの表示設定」(→ 93 ページ) の PLAYBACK RESUME 設定を ON にしてください。

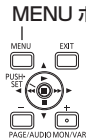
サムネイル操作 (つづき)

サムネイル表示の切り替え

サムネイル画面に表示するクリップを、特定の条件に当てはまるクリップのみに切り替えることができます。

1 POWER/MODE スイッチを回して、PB/THUMBNAIL モードに切り替える。
液晶モニターにサムネイル画面が表示されます。

2 MENU ボタンを押す。
サムネイルメニューが開きます。



3 サムネイルメニューより THUMBNAIL を選択する。
それぞれの項目を選択して、サムネイル表示を切り替えることができます。



ALL CLIP:
すべてのクリップを表示します。

SAME FORMAT CLIPS:
同じシステムフォーマットのクリップを表示します。

SELECTED CLIPS:
任意に選択したクリップを表示します。サムネイルの並び順は、選択した順番となります。

MARKED CLIPS:
ショットマークが付加されたクリップを表示します。

TEXT MEMO CLIPS:
テキストメモデータがあるクリップを表示します。

SLOT CLIPS:
特定のスロットに挿入された P2 カードに記録されたクリップを表示します。この項目を選択すると、さらにサブメニューとして SLOT1 から SLOT2 を表示しますので、表示したいスロットを選択します。

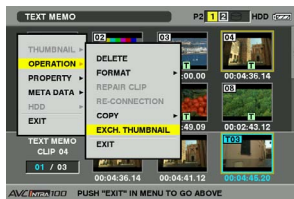
SETUP:
この項目については、「サムネイルの表示設定」(→ 93 ページ) をご参照ください。

EXIT:
サブメニューを閉じます。

サムネールの変更

サムネール映像を、あらかじめ記録中や再生中にテキストメモをつけたポイントの映像に置き換えることができます。

- 1 変更したい映像にテキストメモを付加する。
テキストメモを付加する方法については、「テキストメモ記録」(→ 42ページ)をご参照ください。
- 2 サムネールメニュー THUMBNAIL → TEXT MEMO CLIPS を選択し、テキストメモの付いたクリップのサムネール表示にする。
- 3 サムネールを変更したいクリップにポインターを合わせて OPERATION レバーの SET を押し、ポインターを下段のテキストメモ表示に移動させる。
- 4 置き換えたいサムネールをテキストメモの中から選び、ポインターを合わせてサムネールメニューの OPERATION → EXCH. THUMBNAIL を選択する。



- 5 OPERATION レバーの SET を押すと、YES/NO 確認画面が表示されるので、OPERATION レバーで YES を選択する。メニューが閉じて、クリップのサムネールが置き換わります。



サムネールメニュー PROPERTY → CLIP PROPERTY でクリップ プロパティを表示させ、THUMBNAIL 項目でサムネールの位置 (クリップ先頭からのフレーム数)を確認することができます。通常のサムネールはクリップの先頭ですので、0 が表示されます。

サムネール操作 (つづき)

ショットマーク

本機は、他のクリップと区別するために、クリップのサムネールにショットマークを付加することができます。

- 1 POWER/MODE スイッチを回して、PB/THUMBNAIL モードに切り替える。
液晶モニターにサムネール画面が表示されま
す。
- 2 OPERATION レバーを ◀ ▶ 方向に倒して、
ポインターをショットマークを付加したいクリ
ップに合わせる。
- 3 ショットマーク機能を割り当てた USER ボタ
ンを押す。
 - ポインターが合わされたクリップのサムネール
に、ショットマークが付加されます。
 - ショットマークを削除するには、もう一度ポイ
ンターを合わせてショットマーク機能を割り当
てた USER ボタンを押します。
 - 「USER ボタンの活用」(➡ 39 ページ)

-
- ショットマークは記録中にも付加することができ
ます。
 - 記録停止後にショットマークを付加すると、直前
に記録したクリップにショットマークをつけるこ
とができます。
 - 「ショットマーク機能」(➡ 41 ページ)
 - 複数の P2 カードにまたがるクリップに、ショッ
トマークを付加 / 削除する場合、そのクリップ
が記録されたすべての P2 カードを挿入した状
態で行ってください。
-

テキストメモ

記録 / 再生中にテキストメモを付加することができま
す。またテキストメモを使うことにより、クリップ途
中からの再生やクリップの分割コピーが可能になりま
す。

テキストメモを付加する

テキストメモを付加するには、以下の二つの方法が
あります。

- 記録 / 再生中にテキストメモ機能を割り当てた
USER ボタンを押します。
ボタンを押したときの位置にテキストメモを付加し
ます。(➡ 42 ページ)
- サムネール画面を表示中にテキストメモ機能を割
り当てた USER ボタンを押すと、現在ポインター
が合ったクリップの先頭にテキストメモを付加しま
す。
- 「USER ボタンの活用」(➡ 39 ページ)

テキストメモは 1 つのクリップにつき、ボイスメ
モと合わせて 100 個まで記録できます。ただし、
本機ではボイスメモを記録・再生できません。

テキストメモ位置からの再生

- POWER/MODE スイッチを回して、PB/THUMBNAIL モードに切り替える。
液晶モニターにサムネイル画面が表示されます。
- MENU ボタンを押し、サムネイルメニューより THUMBNAIL → TEXT MEMO CLIPS を選択する。
液晶モニター上段には、テキストメモが付加されたクリップのサムネイルを表示します。液晶モニター下段には、ポインターで選択されているクリップのテキストメモに関する情報を表示します。




- ポインターを、再生したいテキストメモのあるクリップに合わせ、OPERATIONレバーのSETを押す。
ポインターが液晶モニター下段に移ります。



ポインターが移動します

- ポインターが下段にある状態のまま、OPERATIONレバーを◀▶方向に倒して、ポインターを再生したいテキストメモ番号に合わせ、OPERATIONレバーを▲方向(▶再生)に倒す。
 - ポインターが合わされたテキストメモのタイムコード位置から再生します。
再生中にOPERATIONレバーを▼方向(STOP)に倒して止めたり、クリップの終端で再生が終了すると、サムネイル画面に戻り、再生を開始したテキストメモのサムネイルにポインターは戻ります。
 - MENU ボタンを押し、サムネイルメニューよりEXITを選択するか、EXIT ボタンを押すと、ポインターがサムネイル画面の上段に戻ります。

- テキストメモの画面を表示中にSTART/STOP ボタンを押しても撮影を開始することはできません。
- 再生できない AVC-Intra フォーマットのクリップの場合、テキストメモサムネイルは表示されず、 のマークアイコンになる場合があります。

テキストメモの削除

- 「テキストメモ位置からの再生」(→ 左記)の1~3の操作を行い、クリップ内のテキストメモを選択する。
- 削除したいテキストメモにポインターを合わせ、OPERATIONレバーのSETを押す。
- MENU ボタンを押し、サムネイルメニューより OPERATION → DELETE と選択する。
本当に削除するか、YES/NO で確認してきますので、OPERATIONレバーでYESを選択すると、テキストメモが消去されます。

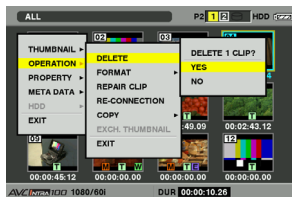
テキストメモによるクリップ分割コピー

- 1 「テキストメモ位置からの再生」(⇒ 83ページ)の1～3の操作を行い、クリップ内のテキストメモを選択する。
- 2 コピーしたいテキストメモにポインターを合わせ、OPERATIONレバーのSETを押す。
テキストメモは複数選択できます。
- 3 MENU ボタンを押し、OPERATION → COPYと選択する。
- 4 OPERATIONレバーでコピー先のスロットを選択し、YESを選択する。
 - コピーを実行します。
 - 選択したテキストメモと、その次にあるテキストメモの区間をコピーします。選択したテキストメモの後にテキストメモがない場合は、クリップの終端までをコピーします。
 - 複数選択している場合は、それぞれ選択している区間のコピーを行います。
 - コピー中は、コピーの進捗状況とキャンセルの表示を行います。コピーを途中で中断する場合は、OPERATIONレバーのSETを押します。YES/NOの確認画面が表示されますので、OPERATIONレバーでYESを選択します。

テキストメモによるクリップ分割コピーは、クリップの記録方式に応じてコピー区間が自動的に補正され、コピーされることがあります。

クリップの削除

- 1 POWER/MODEスイッチを回して、PB/THUMBNAILモードに切り替える。
液晶モニターにサムネール画面が表示されます。
- 2 OPERATIONレバーを◀▶方向に倒して、削除したいクリップに合わせ、OPERATIONレバーのSETを押して、クリップを選択する。
複数のクリップを選択することができます。
- 3 MENUボタンを押し、サムネールメニューからOPERATION → DELETEと選択する。
- 4 下の画面が表示されるので、OPERATIONレバーでYESを選択する。



クリップが削除されます。このとき選択された(青色の枠で囲まれた)クリップはすべて削除されます。

途中で削除を中止するには、OPERATIONレバーのSETを押してキャンセルしてください。途中で削除されたクリップはキャンセルしても戻りません。

クリップの修復

記録中、急に電源が切れる、またはアクセス中の P2 カードを取り出したなどの原因で発生した、不具合のあるクリップを修復します。

修復が可能なのは、黄色い不良クリップインジケーターがついたクリップのみです。赤い不良クリップインジケーターがついたクリップは、修復できませんので削除してください。削除できない場合は P2 カードをフォーマットしてください。ただし修復中に、不良クリップインジケーターが黄色から赤色になり、修復ができない場合があります。

- 1 POWER/MODE スイッチを回して、PB/THUMBNAIL モードに切り替える。
液晶モニターにサムネール画面が表示されます。
- 2 OPERATIONレバーを ◀ ▶ 方向に倒して、修復したいクリップ（修復可能な黄色い不良クリップインジケーターの付いたクリップが表示されています）に合わせ、OPERATIONレバーの SET を押して、クリップを選択する。
- 3 MENU ボタンを押し、サムネールメニューから OPERATION → REPAIR CL IP と選択する。
本当に修復を行うか YES / NO で確認してきますので、OPERATIONレバーで YES を選択すると、クリップが修復されます。

不完全クリップの連結

複数の P2 カードにまたがって記録されているクリップ（連結したクリップ）がカードごとに別々にコピーされるなどで、それぞれが不完全クリップになることがあります。このとき連結機能を使って、1 つのクリップ（元の連結したクリップ）にすることができます。

- 1 POWER/MODE スイッチを回して、PB/THUMBNAIL モードに切り替える。
液晶モニターにサムネール画面が表示されます。
- 2 OPERATIONレバーで、連結する不完全クリップを選択する。
通常、不完全クリップ（■表示のついたクリップ）のサムネールは並んで表示されています。
- 3 MENU ボタンを押し、サムネールメニューから OPERATION → RE-CONNECTION と選択する。
本当に連結を行うか YES/NO で確認してきますので、OPERATIONレバーで YES を選択すると、不完全クリップが連結されます。

一部のクリップだけ連結しても、元の連結したクリップを構成するすべてのクリップがそろわない場合は、不完全クリップを示す表示がそのままになります。

サムネール操作 (つづき)

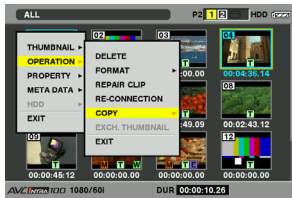
クリップのコピー

クリップを選択し、任意のスロットの P2 カードや SD メモリーカードにコピーすることができます。

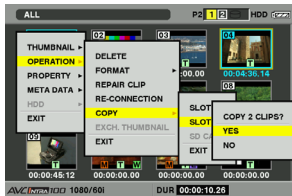
- 1 POWER/MODE スイッチを回して、PB/THUMBNAIL モードに切り替える。
液晶モニターにサムネール画面が表示されます。
- 2 ポインターを OPERATION レバーで動かして、コピーしたいクリップに合わせ、OPERATION レバーの SET を押してクリップを選択する。

ワンクリップレックで前のクリップに連結して記録可能な状態のとき(「1*CLIP」と表示されているとき)は、クリップのコピー操作はできません。一度 CAMERA モードに切り替えた後、OPERATION レバーの ▼ 方向 (STOP) に約 2 秒間倒してクリップ連結を終了させてから、再度操作してください。

- 3 MENU ボタンを押し、サムネールメニューから OPERATION → COPY と選択する。



- コピー先としてスロット 1、2、または SD メモリーカードを選択します。
- 本当にコピーを行うか YES / NO で確認してきますので、OPERATION レバーで YES を選択すると、クリップがコピーされます。



- P2 カードの故障の原因になりますので、コピー中に電源を OFF にしたり、カードの抜き差しをしたりしないでください。誤って前記のような操作を行った場合、不良クリップが作成されますので、削除してから、再度コピーを行ってください。
- P2 カードへのコピーは、クリップの情報がすべてコピーされますが、SD メモリーカード* へのコピーは映像・音声情報はコピーされず、サムネール、クリップメタデータ、アイコン、ボイスメモ、プロキシ、リアルタイムメタデータのためのコピーとなります。
- コピー先の記録容量が不足している場合、「LACK OF CAPACITY!」と表示され、コピーは行われません。コピーするクリップに不良クリップが含まれている場合は「CANNOT COPY!」と表示され、コピーは行われません。同一カードへクリップをコピーしようとした場合は、「NO COPY TO SAME CARD!」と表示され、コピーは行われません。
- 途中でコピーを中止する場合は、OPERATION レバーの SET を押してください。コピー先でコピー中だったクリップは削除されます。
- コピー先に同一のクリップが存在するときは「OVERWRITE?」と表示されます。重ね書きを行う場合は YES を、行わない場合は NO を選択してください。

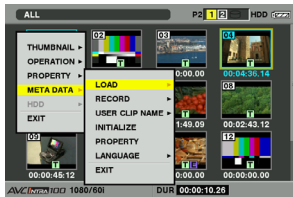
* 使用する SD メモリーカードについては、<SD メモリーカード使用上の注意>(➡ 161 ページ)をご参照ください。

クリップメタデータの設定

操作撮影者名やレポーター名、撮影場所、テキストメモなどの情報をSDメモリーカードから読み込んで、クリップメタデータとして記録することができます。

クリップメタデータの読み込み (メタデータアップロード)

- 1 クリップメタデータを記述したファイル(メタデータアップロードファイル)が入ったSDメモリーカードを本機に挿入する。
- 2 POWER/MODEスイッチを回して、PB/THUMBNAILモードに切り替える。
液晶モニターにサムネール画面が表示されます。
サムネール画面を表示している状態で、DISP/MODE CHK ボタンを押しながらMENUボタンを押すと、手順4へ移ります。
- 3 MENUボタンを押し、サムネールメニューからMETA DATA → LOADと選択し、OPERATIONレバーのSETを押す。



- 4 SDメモリーカードにあるメタデータアップロードファイルのメタデータ名を表示する。OPERATIONレバーで読み込むファイルを選択してYESを選択する。
 - 読み込みが開始されます。
 - 読み込んだメタデータは電源をOFFにしても保持されます。
 - 読み込んだデータの確認は、「読み込んだメタデータの確認および修正」(→ 89ページ)をご参照ください。

- メタデータ名表示中にOPERATIONレバーを▶方向に倒すと、ファイル名の表示に切り替えることができます。OPERATIONレバーを◀方向に倒すと、メタデータ名の表示へ戻ります。
- 日本語設定の場合でも、ファイルの一覧表示のメタデータ名にASCII表示文字以外は表示されず、「*」で表示されます。ただしカーソルをファイルに合わせると、右側に日本語で表示されます。

サムネール操作 (つづき)

クリップメタデータ項目

クリップメタデータには下記の項目があります。下線の入った項目は、SDメモリーカード内のメタデータアップロードファイルを読み込むことで設定できます。その他の項目は、撮影時に自動的に設定されます。メタデータアップロードファイルは、パーソナルコンピューターでP2ビューアーを使用することで、SDメモリーカードに書き込むことができます。P2ビューアー最新版は、下記ウェブサイトのサポートデスクからパーソナルコンピューターにインストールしてください。

(日本語) <http://panasonic.biz/sav/>
(英語) <http://pro-av.panasonic.net/>

また、使用するSDメモリーカードについては、<SDメモリーカード使用上の注意>(➡ 161ページ)をご参照ください。

P2ビューアー以外で編集したファイルは、「UNKNOWN DATA!」と表示され、読み込めない場合があります。

GLOBAL CLIP ID:

クリップの撮影状態を示すグローバルクリップIDを表示します。

USER CLIP NAME:¹

ユーザーが設定したクリップの名称を表示します。

VIDEO:

[FRAME RATE (フレームレート)] (クリップのフレームレート)、[PULL DOWN (プルダウン)] (プルダウン方式)、[ASPECT RATIO (アスペクト比)] (アスペクト比) を表示します。

AUDIO:

[SAMPLING RATE (サンプリングレート)] (記録音声のサンプリング周波数)、[BITS PER SAMPLE (ビットレート)] (記録音声の量子化ビット数) を表示します。

ACCESS:

[CREATOR (作成者)] (クリップの収録者名)、[CREATION DATE (作成日)] (クリップの収録日)、[LAST UPDATE DATE (最終更新日)] (クリップの最終更新日)、[LAST UPDATE PERSON (最終更新者)] (クリップの最終更新者) を表示します。

DEVICE:

[MANUFACTURER (機材メーカー名)] (収録した機材のメーカー名)、[SERIAL NO. (シリアル番号)] (収録した機材のシリアルナンバー)、[MODEL NAME (モデル名)] (収録した機材のモデル名) を表示します。

SHOOT:²

[SHOOTER (撮影者)] (撮影者名)、[START DATE (撮影開始日)] (撮影開始日)、[END DATE (撮影終了日)] (撮影終了日)、[LOCATION (撮影地情報)] ALTITUDE (高度) / LONGITUDE (経度) / LATITUDE (緯度) / SOURCE (撮影地情報源) / PLACE NAME (撮影地) (撮影地の高度 / 経度 / 緯度 / それらを得た情報源 / 場所の名前) を表示します。

SCENARIO:

[PROGRAM NAME (プログラム名)] (番組名)、[SCENE NO. (シーン番号)] (シーンナンバー)、[TAKE NO. (テイク番号)] (テイクナンバー) を表示します。

NEWS:

[REPORTER (リポーター)] (リポーター名)、[PURPOSE (取材目的)] (取材目的)、[OBJECT (取材対象)] (取材対象) を表示します。

MEMO:³

[NO.] (テキストメモの番号)、[OFFSET (記録位置)] (テキストメモが付加されるクリップ先頭からのフレーム位置)、[PERSON (メモ入力者)] (クリップに付加されたテキストメモの記録者)、[TEXT (テキスト情報)] (テキストメモの内容) を表示します。

THUMBNAİL:

サムネールの元となる画像のフレーム位置 (フレームオフセット) や、サイズ (高さ、幅) を表示します。

PROXY:

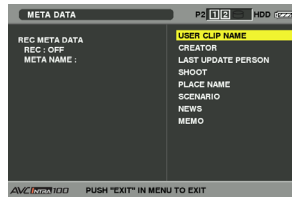
プロキシが付加記録されている場合に、そのフォーマットなどの情報を表示します。この項目は、CLIP PROPERTY 画面で表示されます。

- *1: USER CLIP NAME の記録方法を選択することが可能です。詳しくは、「USER CLIP NAME の記録方法の選択」(→ 90 ページ)をご参照ください。
- *2: SHOOT の ALTITUDE/LATITUDE/ LONGITUDE は、本機で撮影時自動的に設定されません。記録したクリップのプロパティで設定することは可能です。
- *3: MEMO を入力するときは TEXT を必ず入力してください。PERSON (メモ入力者)、OFFSET (記録位置) のみの記録はできません。

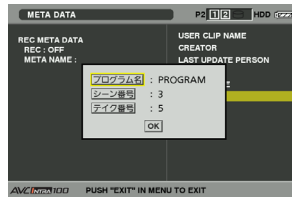
読み込んだメタデータの確認および修正

SD メモリーカードから読み込んだメタデータの内容を確認できます。

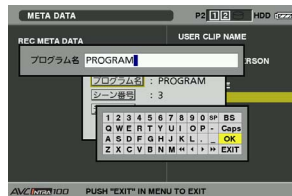
- 1 POWER/MODE スイッチを回して、PB/THUMBNAIL モードに切り替える。液晶モニターにサムネール画面が表示されます。
- 2 MENU ボタンを押し、サムネールメニューから META DATA → PROPERTY と選択する。下の画面が表示されます。



- 3 OPERATIONレバーでポインターを動かし、確認したい項目に合わせて OPERATION レバーの SET を押す。読み込んだメタデータの各設定内容を確認できます。



- 4 またメタデータの各設定内容を確認中に、OPERATION レバーでポインターを動かし、設定内容を変更したい項目に合わせて OPERATION レバーの SET を押す。
 - ソフトウェアキーボード画面が表示され、設定内容を変更することができます。



サムネール操作 (つづき)

読み込んだメタデータの記録する / しないを設定

サムネールメニューから META DATA → RECORD 項目で ON/OFF を設定します。工場出荷時は OFF に設定されています。

USER CLIP NAME の記録方法の選択

サムネールメニューから META DATA → USER CLIP NAME 項目で、USER CLIP NAME の記録方法を、TYPE1 と TYPE2 の二通りから選択することができます。

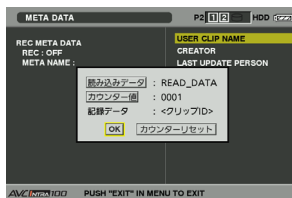
• TYPE1 (工場出荷時の設定)

	記録される USER CLIP NAME
クリップメタデータを読み込んでいる場合	アップロードされたデータ
クリップメタデータを読み込んでいない、または読み込んだクリップメタデータを記録しない設定の場合	GLOBAL CLIP ID と同じ (UMID データ)

• TYPE2

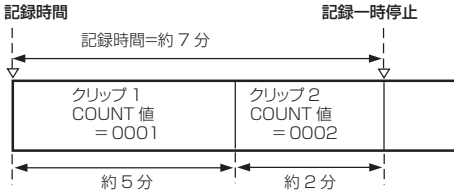
	記録される USER CLIP NAME
クリップメタデータを読み込んでいる場合	アップロードされたデータ + COUNT 値*
クリップメタデータを読み込んでいない、または読み込んだクリップメタデータを記録しない設定の場合	CLIP NAME と同じ

- * COUNT 値は、4 桁の数字で表示されます。
COUNT 値は、クリップメタデータが読み込まれ、かつ記録方法を TYPE2 に設定した状態のとき、撮影を行って新しいクリップを生成することに、1 ずつ増えます。
また COUNT 値は、以下の方法でリセットできます。サムネールメニューから META DATA → PROPERTY と選択し、さらに USER CLIP NAME 項目を選択すると、下記の画面が表示されます。
「カウンターリセット (COUNT RESET)」にカーソルを合わせ、OPERATION レバーの SET を押し、COUNT 値が 1 にリセットされます。

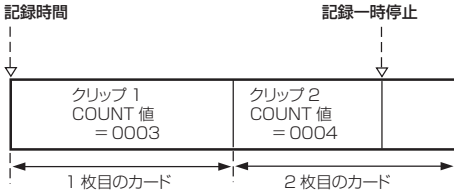


本機で 8 GB 以上の P2 カードを使用し、1 回の連続記録時間が一定時間 (DVCPRO HD、および AVC-Intra 100 時: 約 5 分 / DVCPRO50、および AVC-Intra 50: 約 10 分 / DVCPRO または DV: 約 20 分) を超える場合、また 1 回の記録が複数の P2 カードにまたがって行われた場合、自動的に別のクリップとして記録されます。このとき、COUNT 値はそれぞれのクリップにつけられます。

P2 カード1枚での記録 (DVCPRO HD) の例



P2 カード2枚にまたがって記録する例



なお、P2 機器で上記例のようなクリップのサムネール表示、およびプロパティ表示を行った場合、クリップ1のサムネールおよびCOUNT 値を表示します。

読み込んだメタデータのクリア

サムネールメニューから META DATA → INITIALIZE と選択し、OPERATIONレバーの SET を押します。
本当に初期化を行うか YES/NO で確認してきますので、OPERATIONレバーで YES を選択すると、META DATA の初期化を行い、読み込んだデータはクリアされます。

メタデータの表示言語設定

メタデータを表示する時の表示言語を設定することができます。サムネールメニューから META DATA → LANGUAGE と選択し、表示言語を選択してからOPERATIONレバーの SET を押します。

言語は

ENGLISH: 英語

JAPANESE: 日本語

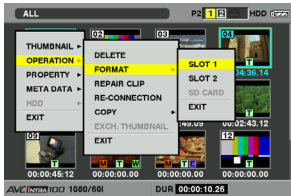
から選択します。

- 日本語を英語で表示した場合や、英語の非表示文字などがある場合は正しく表示されず、「*」で表示します。
- 本機で入力できる文字は英数字のみです。日本語は入力できません。

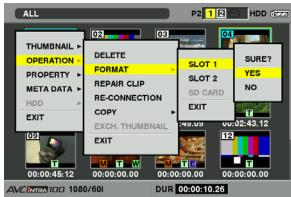
サムネイル操作 (つづき)

P2 カードのフォーマット

- 1 POWER/MODE スイッチを回して、PB/THUMBNAIL モードに切り替える。
液晶モニターにサムネイル画面が表示されます。
- 2 MENU ボタンを押し、サムネイルメニューから OPERATION → FORMAT と選択する。
 - 下記の画面が表示されますので、フォーマットしたい P2 カードが挿入されたスロット番号を選び、OPERATION レバーの SET を押しします。
 - フォーマットしない場合は、EXIT を選択してください。



- 3 下記の画面が表示されるので、OPERATION レバーで YES を選択する。



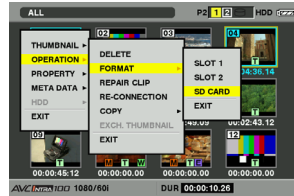
選択した P2 カードがフォーマットされます。

フォーマットにより消去されたデータは、復元することができませんので、必ずデータを確認した後に実行してください。

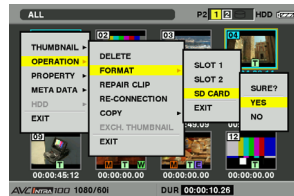
SD メモリーカードのフォーマット

サムネイル画面から、SD メモリーカードをフォーマットすることもできます。本機に SD メモリーカードを挿入した状態で、以下の作業を行ってください。

- 1 POWER/MODE スイッチを回して、PB/THUMBNAIL モードに切り替える。
液晶モニターにサムネイル画面が表示されません。
- 2 MENU ボタンを押し、サムネイルメニューから OPERATION → FORMAT と選択する。
 - 下記の画面が表示されますので、「SD CARD」を選び、OPERATION レバーの SET を押しします。
 - フォーマットしない場合は、EXIT を選択してください。



- 3 下記の画面が表示されるので、OPERATION レバーで YES を選択する。



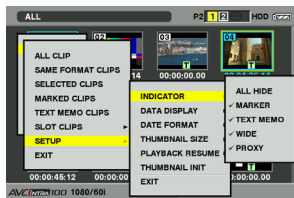
SD メモリーカードがフォーマットされます。

- SD メモリーカードは、メニュー画面からフォーマットすることもできます。(→ 149 ページ)
- フォーマットにより消去されたデータは、復元することができませんので、必ずデータを確認した後に実行してください。

サムネールの表示設定

用途に合わせ、サムネールの表示方法をカスタマイズすることができます。

- 1 POWER/MODE スイッチを回して、PB/THUMBNAIL モードに切り替える。液晶モニターにサムネール画面が表示されます。
- 2 MENU ボタンを押し、サムネールメニューから THUMBNAIL → SETUP と選択する。下記の画面が表示されます。



INDICATOR:

サムネール上に表示される各種インジケータの表示 / 非表示状態を選択します。

ALL HIDE:

ON: すべてのインジケータ (MARKER、TEXT MEMO、WIDE、PROXY) を非表示にします。

OFF: 以下のメニューにしたがって表示 / 非表示が設定されます。工場出荷時はこちらに設定されています。

MARKER:

ショットマークインジケータの表示 / 非表示 (ON/OFF) を切り替えます。工場出荷時は表示に設定されています。

TEXT MEMO:

テキストメモインジケータの表示 / 非表示 (ON/OFF) を切り替えます。工場出荷時は表示に設定されています。

WIDE:

ワイドインジケータの表示 / 非表示 (ON/OFF) を切り替えます。工場出荷時は表示に設定されています。

PROXY:

プロキシインジケータの表示・非表示 (ON/OFF) を切り替えます。工場出荷時は表示に設定されています。

DATA DISPLAY:

クリップの時間表示の部分を、タイムコード (TC) / ユーザーズピット (UB) / 撮影時刻 (TIME) / 撮影日 (DATE) / 撮影日および時刻 (DATE TIME) / クリップ名 (CLIP NAME) / ユーザークリップ名 (USER CLIP NAME) のいずれかから選択できます。工場出荷時はタイムコードに設定されています。

DATE FORMAT:

記録日時の表示順を、年月日 (Y-M-D) / 日月年 (M-D-Y) / 日月年 (D-M-Y) のいずれかから選択できます。工場出荷時は年月日に設定されています。

この設定は、クリップのプロパティで表示される記録日、および DATA DISPLAY で DATE を選択したときに表示される記録日時に反映します。

THUMBNAIL SIZE:

1 画面に表示されるサムネールを、LARGE (サムネールを 3 × 2 で表示) / NORMAL (サムネールを 4 × 3 で表示) のいずれかから選択できます。工場出荷時は NORMAL に設定されています。

PLAYBACK RESUME:

サムネール画面からの再生を OPERATION レバーを ▼ 方向 (STOP) に倒して停止させた後、再度再生を開始したときの再生位置を選択します。

ON: 停止位置から再生します。

OFF: ポインターが合わされたクリップの先頭から再生します。

なお、停止後にポインターを移動させると、この項目の設定にかかわらずポインターが合わされたクリップの先頭から再生します。また、すべての再生できるクリップの最後の位置で再び再生を行おうとすると、画面が一瞬フラッシュして再生できるクリップがないことを知らせます。

THUMBNAIL INIT:

上記サムネールの表示設定を、工場出荷状態にします。カーソルをこの項目にあわせ、OPERATION レバーの SET を押します。

本当に工場出荷状態にするか YES/NO で確認できますので、OPERATION レバーで YES を選択すると、工場出荷状態に戻ります。

EXIT:

1 つ前のメニューに戻ります。

サムネール操作 (つづき)

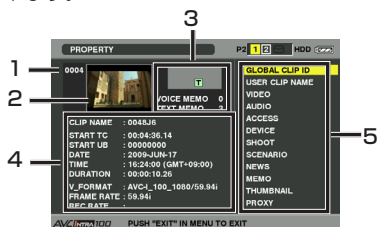
プロパティ

クリップのプロパティ、P2カードの状態を表示します。

またクリップのプロパティを表示中に、記録されたクリップメタデータを編集し、書き換えることができます。

クリップのプロパティ

サムネールメニューから PROPERTY → CLIP PROPERTY を選択します。下記の画面が表示されます。




1. クリップ番号

2. サムネール

3. クリップ情報

クリップに付加された各種インジケーター、付加されているテキストメモやボイスメモの数を表示します。

また、クリップが記録されたP2カードに、ライトプロテクトがかかけられているとき、マークが表示されます。

- 本機ではボイスメモの記録 / 再生は行えません。
- OPERATIONレバーを ◀ ▶ 方向に倒すと、前後のクリップのプロパティが表示されます。

4. クリップ情報

クリップに関するさまざまな情報を表示します。

CLIP NAME:

クリップ名を表示します。

START TC:

記録開始時のタイムコードの値を表示します。

START UB:

記録開始時のユーザーズビットの値を表示します。

DATE:

記録した日付を表示します。

TIME:

記録開始時の時刻を表示します。

DURATION:

クリップの長さを表示します。

V_FORMAT:

クリップの記録フォーマットを表示します。

FRAME RATE:

再生フレームレートを表示します。

REC RATE:

記録フレームレートを表示します。(VFR機能を使ってNative記録したクリップにのみ表示します)

5. クリップメタデータ

クリップに関する、より詳しいデータを表示します。

OPERATIONレバーで動かし、SETを押して詳しい内容を確認できます。

- 「クリップメタデータ項目」(→ 88 ページ)

記録されたクリップメタデータの修正

1 クリップのプロパティ画面で、修正したいクリップメタデータの詳細画面を表示する。

2 修正したい項目に OPERATION レバーでカーソルを合わせる。

変更可能なメタデータ項目は、下図の「CREATOR（作成者）」などのように表示しています。



3 OPERATION レバーの SET を押す。

- メタデータ修正の入力画面（ソフトキーボード）が表示されます。
- キーボードから文字を入力し、メタデータを修正します。



キーボードの操作については、「読み込んだメタデータの確認および修正」(➡ 89 ページ)と同様です。

4 キーボードの「OK」ボタンを押す。

修正されたメタデータがクリップに書き込まれ、メタデータの詳細画面に戻ります。

- SHOOT の LOCATION（撮影地情報）の各項目を削除する場合、単独では削除できません。ALTITUDE（高度）項目を空白に設定することで、他の LONGITUDE（緯度）/ LATITUDE（経度）項目も一括して削除されます。
- 不完全クリップインジケーターが付いたクリップは、メタデータを修正できません。複数枚の P2 カードにまたがったクリップは、全ての P2 カードが挿入された状態でメタデータの修正を行ってください。
- MEMO 項目は 101 文字以上付加されている場合、修正できません。

サムネール操作 (つづき)

P2 カードの状態表示設定

サムネールメニューから PROPERTY → CARD STATUS と選択することで表示する P2 カードの状態表示を、P2 カードの記録残量で表示するか使用容量で表示するか選択できます。

- 1 POWER/MODE スイッチを回して、PB/THUMBNAIL モードに切り替える。
液晶モニターにサムネール画面が表示されます。
- 2 サムネールメニューより PROPERTY → PROPERTY SETUP → P2 CARD CAP と選択する。
下記の画面が表示されますので、P2 CARD CAP 項目より、P2 カードの状態表示の設定を選択します。



REMAIN:

P2 カードの状態表示を、P2 カードの記録残量で表示します。(工場出荷時はこちらに設定されています)

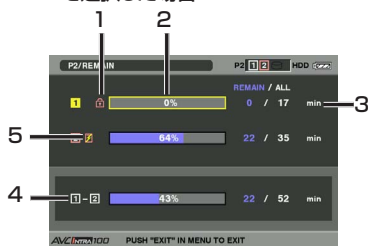
USED:

P2 カードの状態表示を、P2 カードの使用容量で表示します。


P2 カードの状態表示設定内容

サムネールメニューから PROPERTY → CARD STATUS と選択します。下記のような画面が表示されます。

REMAIN を選択した場合:



1. 書き込み禁止マーク

P2 カードに、ライトプロテクトがかかっているとき、 マークを表示します。

2. P2 カード状態 (記録残量)

P2 カードの記録残量を、メーターとパーセントで表示します。記録残量が減るとともに、メーターが左に減っていきます。
またカードの状態によって、以下のような表示になります。

FORMAT ERROR:

フォーマットされていない P2 カードが挿入されています。

NOT SUPPORTED:

本機に対応していないカードが挿入されています。

NO CARD:

P2 カードが挿入されていません。

また、OPERATION レバーを ▲ ▼ 方向に倒して、データを見たい P2 カードを選び、OPERATION レバーの SET を押すと、P2 カード詳細情報が表示され、シリアル番号やユーザー ID などの固有情報を確認できます。

3. P2 カード残量 / 総容量

P2 カードの記録残量 / 総容量を表示します。単位は分です。分以下は切り捨て表示のため、P2 カードごとの記録残量の合計と総容量が一致しないことがあります。
Native 記録で VFR 動作時は、フレームレートによって変化します。


4. スロット記録残量合計

2つのスロットの記録残量を総合計した数値を表示します。

ただし、ライトプロテクトがかかっているP2カードの空き容量は、空き容量の合計に含まれません。

REC FUNCTION項目をLOOPに設定しているとき、スロット合計はループレック時の標準的な記録時間を示します。ただし、PROPERTY SETUP → USEDを選択している時は、スロット合計の使用量は、実際より多くなり、PROPERTY SETUP → REMAINを選択している時は、スロット合計の残量は実際より少なくなります。

5. 警告カードマーク

P2カードが以下である場合に  マークを表示します。

RUN DOWN CARD:

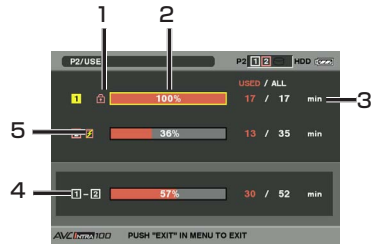
P2カードの規定の書き換え回数を超えています。

DIR ENTRY NG CARD:


P2カードのディレクトリの配置が不正規になっています。

警告内容は、「2. P2カード状態（記録残量）」（→ 96ページ）のP2カード詳細情報表示で確認できます。

USEDを選択した場合：



1. 書き込み禁止マーク

P2カードに、ライトプロテクトがかかっているとき、 マークを表示します。

2. P2カード状態（使用容量）

P2カードの使用容量を、メーターとパーセントで表示します。使用容量が増えるとともに、メーターが右に増えていきます。またカードの状態によって、以下のような表示になります。

FORMAT ERROR:

フォーマットされていないP2カードが挿入されています。

NOT SUPPORTED:

本機に対応していないカードが挿入されています。

NO CARD:

P2カードが挿入されていません。

また、OPERATIONレバーを▲▼方向に倒して、データを見たいP2カードを選び、OPERATIONレバーのSETを押すと、P2カード詳細情報が表示され、シリアル番号やユーザーIDなどの固有情報を確認できます。

3. P2カード使用容量 / 総容量

P2カードの使用容量 / 総容量を表示します。単位は分です。分以下は切り捨て表示のため、P2カードごとの使用容量の合計と総容量が一致しないことがあります。

また、ライトプロテクトがかかっているP2カードの使用容量は、100%使用したものとして表示します。

Native記録でVFR動作時は、フレームレートによって変化します。

(次ページにつづく)

サムネール操作（つづき）


4. スロット使用容量合計

2つのスロットの使用容量を総合計した数値を表示します。

ただし、ライトプロテクトがかかっているP2カードの空き容量は、空き容量の合計に含まれません。

REC FUNCTION項目をLOOPに設定しているとき、スロット合計はループレック時の標準的な記録時間を示します。ただし、PROPERTY SETUP → USEDを選択している時は、スロット合計の使用量は、実際より多くなり、PROPERTY SETUP → REMAINを選択している時は、スロット合計の残量は実際より少なくなります。

5. 警告カードマーク

P2カードが以下である場合に  マークを表示します。

RUN DOWN CARD:

P2カードの規定の書き換え回数を超えています。

DIR ENTRY NG CARD:

P2カードのディレクトリの配置が不正規になっています。

警告内容は、「2.P2カード状態（使用容量）」（→ 97ページ）のP2カード詳細情報表示で確認できます。

SDメモリーカードの状態表示

SDメモリーカードのフォーマットの状態や、空き容量などを確認できます。

サムネールメニューからPROPERTY → DEVICES → SD CARDを選択します。

SD STANDARD:

SDメモリーカードがSD/SDHC準拠でフォーマットしているか表示します。

SUPPORTED : SD/SDHC 準拠

NOT SUPPORTED : SD/SDHC 非準拠

USED:

使用済み容量 [バイト]

BLANK:

空き容量 [バイト]

TOTAL:

全容量 [バイト]

NUMBER OF CLIP:

SDメモリーカードへクリップコピーを行ったときに、SDメモリーカードに入っているクリップ数

PROTECT:

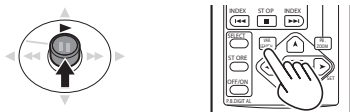
書込み禁止状態

再生に便利な機能

可変速サーチ

再生速度を変えて、場面を探すことができます。

- 1 再生中に、OPERATIONレバーを▶方向（再生）に倒す。
リモコンの場合は、VAR. SEARCH ボタンを押してください。

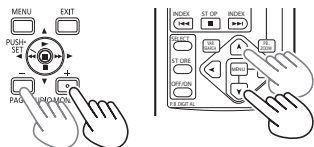


本体 または リモコン

ビューファインダーや液晶モニターに [1×] が表示され、×1倍速で再生します。

- 2 PAGE/AUDIO MON/VAR ボタンを押して、再生速度を切り替える。

- 速度は、一時停止および正逆の1/5倍速、1倍速、2倍速、4倍速、12倍速、24倍速が可能です。現在の速度から+ボタンで正方向に、-ボタンで逆方向に段階的に変化します。
- リモコンでは、MENU ボタンの [▲] と [▼] で速度を変化させます。
- 12倍速と24倍速では、音声は再生されません。

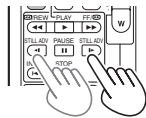


本体 または リモコン

通常の再生に戻すには、OPERATIONレバーを▲方向（▶再生）に倒す、またはリモコンのVAR. SEARCH ボタンを押します。

スロー再生

再生中に、リモコンのSTILL ADV ボタン（◀または▶）を押す。



通常の再生に戻すには、PLAY ボタン（▶）を押します。

早送り / 早戻し再生

再生中に、OPERATIONレバーを◀◀（早戻し）または▶▶（早送り）に倒す。
×4倍速で早送り / 早戻し再生します。
倒したままにすると、速度が早くなります。（×32倍速）



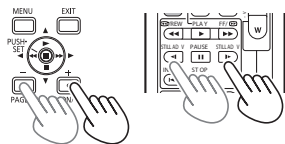
本体 または リモコン

リモコンの場合は、REW（◀◀）またはFF（▶▶）ボタンを使用します。

通常の再生に戻すには、OPERATIONレバーを▶方向（再生）に倒します。またはリモコンのPLAY ボタン（▶）を押します。

コマ送り再生

- 1 再生中に、II（一時停止）を押して、一時停止状態にする。
- 2 PAGE/AUDIO MON/VAR ボタンを押す。
リモコンの場合は、STILL ADV ボタン（◀または▶）を押します。
• 押し続けると、連続してコマ送ります。



本体 または リモコン

再生に便利な機能（つづき）

クリップ送り / 戻し

- 1 再生中に、**II**（一時停止）を押して、一時停止状態にする。
- 2 OPERATIONレバーを **◀◀**（早戻し）または **▶▶**（早送り）に倒す。



本体 または リモコン

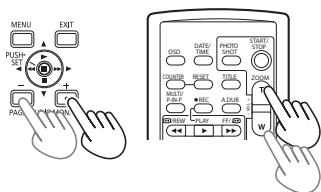
リモコンの場合、REW（◀◀）またはFF（▶▶）ボタンを使用します。

設定メニュー OTHER FUNCTIONS 画面の SEEK SELECT 項目を CLIP&T に設定しておく、クリップの先頭とテキストメモが付加された位置とを順に頭出しできます。（→ 151 ページ）

音量を調整する

PAGE/AUDIO MON/VAR ボタンで、内蔵スピーカーとヘッドホンジャックから出力される音量を調整する。

リモコンの場合、ZOOM/VOL ボタンを押します。



本体 または リモコン

テレビ / モニターに接続して見る

BNC ケーブル（別売）、AV コード（別売）、または HDMI ケーブル（別売）を接続すると、テレビやモニターで再生映像を見ることができます。

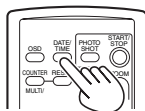
- 1 本機とテレビ / モニターを接続する。
（→ 104 ページ）
- 2 本機を再生する。
 - ビューファインダーや液晶モニターに表示されている情報を AV コードで接続したテレビ / モニターに表示する時は、リモコンの OSD ボタンを押します。再度、OSD ボタンを押すと、表示が消えます。ただし SDI OUT と HDMI OUT から出力される映像への情報表示は、OSD ボタンではなく、設定メニュー OUTPUT SEL 画面の SDI & HDMI CHAR 項目で設定します。



撮影日時を確認する

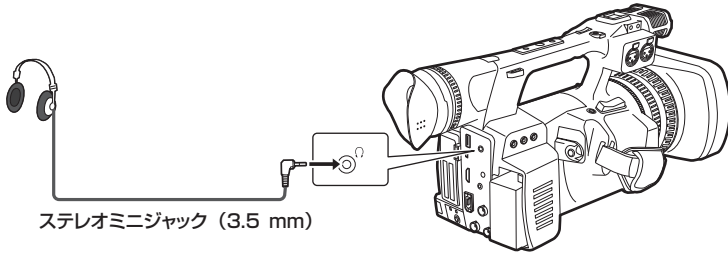
リモコンの DATE/TIME ボタンを押すと、撮影した年月日と時刻がビューファインダーや液晶モニターに表示されます。このボタンを押すごとに、下記の表示に切り替わります。

時刻の表示
↓
日付の表示
↓
時刻と日付の表示
↓
表示なし



外部機器を接続する

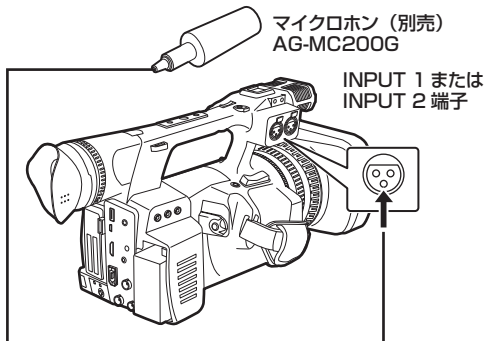
ヘッドホン



ステレオミニジャック (3.5 mm)

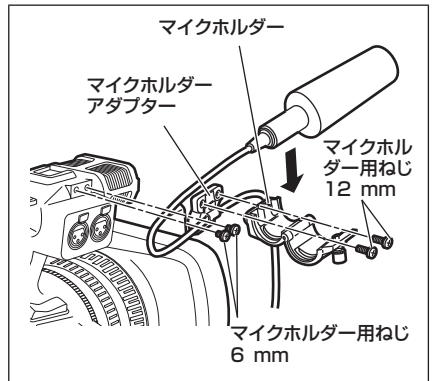
- ヘッドホン（別売）を接続するとスピーカーから音声は出力されません。

外部マイク



マイクロホン（別売）
AG-MC200G

INPUT 1 または
INPUT 2 端子

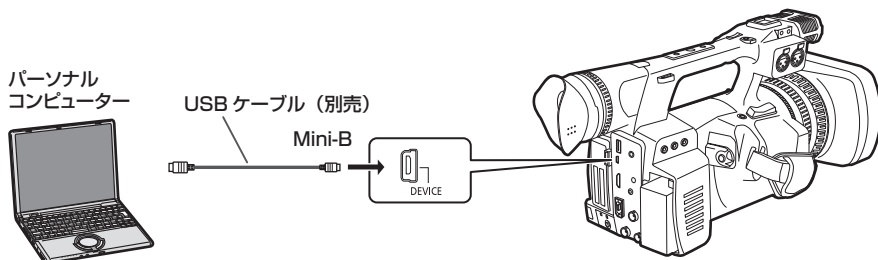


- 外部マイクを本機のマイクロホンシューに取り付ける場合は、付属のマイクホルダーとマイクホルダーアダプターを使用してください。
- マイクホルダーおよびマイクホルダーアダプターをねじで取り付ける際、ゴムとの摩擦音がしますが、しっかりと締め付けてください。
- マイクケーブルの配線処理には、マイクホルダーアダプターのケーブルクランパーを使用してください。

外部機器を接続する（つづき）

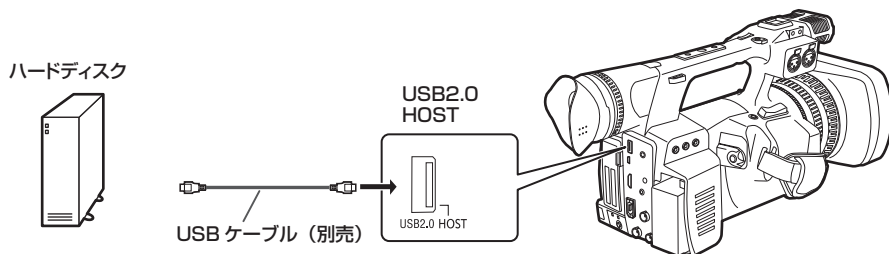
パーソナルコンピュータ（ノンリニア編集 / ファイル転送）

ファイル転送 / ノンリニア編集

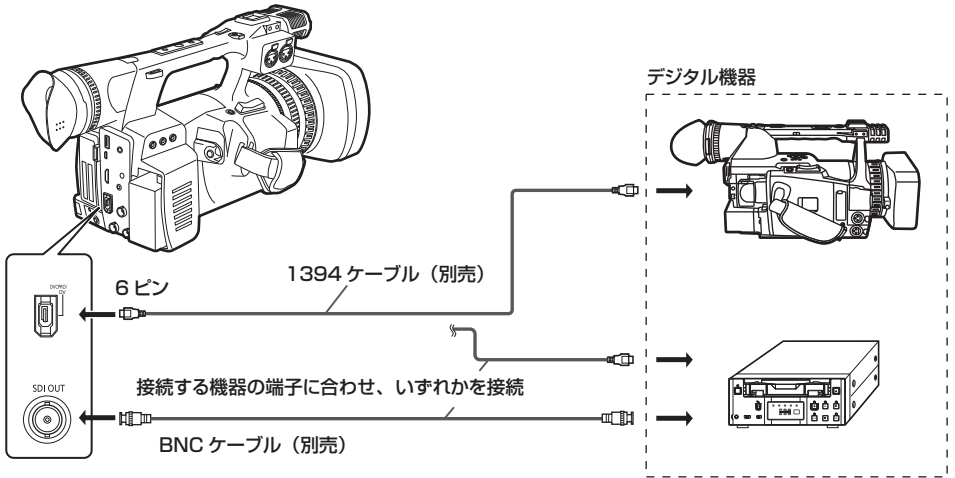


- 「パーソナルコンピュータとの接続手順」（→ 109 ページ）
- 本機に USB2.0 ケーブルは同梱されていません。市販の USB2.0 ケーブル（ノイズ対策のための二重シールド処理が施されているもの）をご使用ください。

ハードディスク（データコピー）



- 「USB ホストモードへの切り替え方」（→ 111 ページ）
- 本機に USB2.0 ケーブルは同梱されていません。市販の USB2.0 ケーブル（ノイズ対策のための二重シールド処理が施されているもの）をご使用ください。



- 「1394 接続して外部機器を制御する」 (→ 106 ページ)
- 「DVCPRO/DV 端子に入力された信号を記録する」 (→ 105 ページ)
- IEEE1394 ケーブルは、二重シールドケーブルをご使用ください。

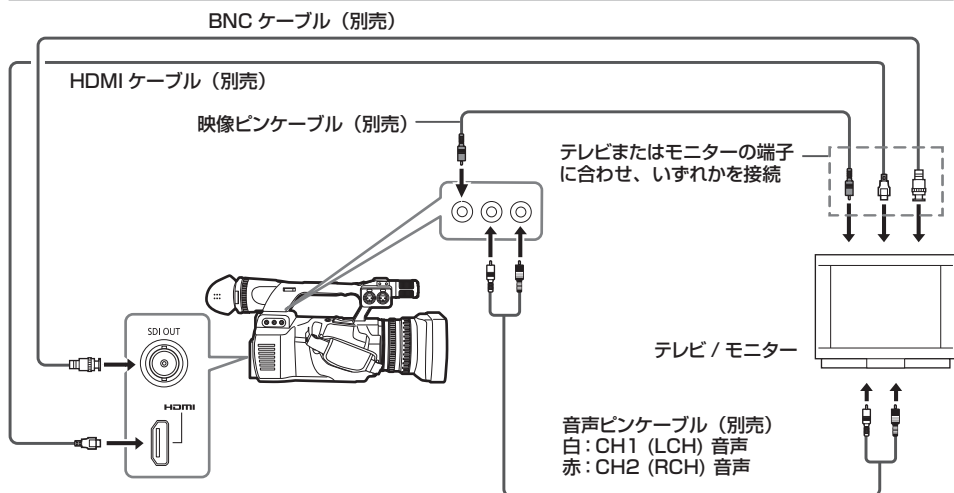
AUTO REC 機能

本機の REC START/STOP 時に、SDI (HD) 出力より REC START/STOP 情報を出力し、外部機器を制御することが出来ます。

※外部機器が対応している場合のみ有効です。

外部機器を接続する（つづき）

テレビ / モニター（再生 / ダビング）



- 本機は、ピエラリンクに対応していません。ピエラリンク対応機器と HDMI ケーブルで接続すると、他の機器のピエラリンクが正しく動作しないことがありますのでお気をつけください。
- SD 信号 (480i、576i) は、HDMI OUT 端子からはプログレッシブ信号 (480P、576P) に変換して出力されます。
- SDI OUT 端子から映像を出力しているときは、液晶モニターとビューファインダーは、同時に表示できません。
同時に表示する場合は、設定メニュー OUTPUT SEL 画面の SDI OUT 項目を OFF に設定し、DISPLAY SETUP 画面の EVF MODE 項目を ON に設定してください。
- SDI OUT 端子に接続する BNC ケーブル (別売) は、5C-FB 相当の二重シールドのものをご使用ください。
- HDMI ケーブル (別売) は、二重シールドケーブルをご使用ください。
- HDMI ケーブルは、当社製 HDMI ケーブルのご使用をお勧めします。

DVCPRO/DV 端子での接続

DVCPRO/DV 端子に入力された信号を記録する

- 1 1394 ケーブル (DV ケーブル) を接続する。
 - ・「1394 接続時のご注意」(→ 108 ページ)
 - ・接続先の機器と本機の信号フォーマットが同じであることを確認してください。
- 2 IEEE1394 インターフェースから入力する場合、設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の REC SIGNAL 項目を 1394 にする。
 - ・HD (1080i、720P) の場合、SYSTEM SETUP 画面の REC FORMAT 項目で DVCPROHD/60i または DVCPROHD/60P を選択してください。AVC-Intra フォーマットや DVCPRO HD の Native 記録では IEEE1394 インターフェースから入力することはできません。
- 3 IEEE 1394 インターフェースからの映像がビューファインダーや液晶モニターに表示されていることを確認し、START/STOP ボタンを押し記録を開始する。
- 4 再度 START/STOP ボタンを押し、記録を終了する。

- ・設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の SYSTEM MODE 項目と REC FORMAT 項目で設定したフォーマットと同じ信号を、IEEE1394 インターフェースから入力してください。フォーマットが異なる場合、正しく P2 カードに記録されません。通常の 1 倍速再生以外の再生信号を入力したときは、記録される映像や音声、または EE 系の画像と音声は保証されません。
 - ・「エラーと警告表示」(→ 126 ページ)
- ・オーディオ信号の入力は、DVCPRO/DV 端子からの入力信号になります。
- ・IEEE1394 インターフェースから入力されるオーディオ信号が 32 kHz/4CH (12 bit) の場合、48 kHz/4CH (16 bit) として P2 カードに記録されます。
- ・GENLOCK IN 端子を使って、外部の基準信号に同期させることはできません。
- ・VIDEO OUT 端子、または AUDIO OUT 端子から出力される信号は、実際の入力信号と異なります。モニター用として使用してください。
- ・下記の機能は動作しません。
 - ・プリレック機能
 - ・ループレック機能
 - ・インターバル記録、ワンショット記録機能
 - ・ワンクリップレック機能
- ・設定メニューで青色に表示された項目以外にも、設定値を変更できない項目がありますが、本機能には無関係な項目であり、故障ではありません。

タイムコードとユーザーズビット

- ・IEEE1394 インターフェースからの入力を選択している場合、TC IN/OUT 端子から入力されるタイムコードやユーザーズビットを P2 カードに記録することはできません。
- ・IEEE1394 インターフェースからの入力を選択している場合、TC IN/OUT 端子から出力されるタイムコードは、VIDEO OUT 端子から出力される映像信号と同期していません。

サブコード領域のタイムコードとユーザーズビット

- ・IEEE1394 インターフェースからの入力を選択している場合とタイムコードをフリーランにしている場合、DVCPRO/DV 端子から入力されているサブコード領域のタイムコードを P2 カードに記録することができます。
- ・DVCPRO/DV 端子から入力されているユーザーズビットを P2 カードに記録する場合は、設定メニュー RECORDING SETUP 画面の UB MODE 項目を EXT に設定してください。

VAUX 領域のタイムコードとユーザーズビット

IEEE 1394 インターフェースからの入力を選択している場合、本機の設定メニューやスイッチの位置に関わらず、常に DVCPRO/DV 端子から入力されている VAUX 領域のタイムコードとユーザーズビットを P2 カードに記録します。

UMID (Unique Material Identifier) 情報の記録

IEEE 1394 インターフェースからの入力を選択している場合、DVCPRO/DV 端子から入力されている UMID 情報を P2 カードに記録します。UMID 情報が存在しない場合は、本機で生成して記録します。また、本機が DV モードで動作しているときは、UMID 情報が記録されません。

1394 接続して外部機器を制御する

DVCPRO/DV 端子に、バックアップ記録用の外部機器を接続して、記録開始 / 停止の制御を行うことができます。

- 1 1394 ケーブル (DV ケーブル) を接続する。**
 - 「1394 接続時のご注意」(→ 108 ページ)
 - 設定メニュー OTHER FUNCTIONS 画面の 1394 CONTROL 項目を BOTH に設定します。
- 2 設定メニュー OTHER FUNCTIONS 画面の 1394 CMD SEL 項目で外部機器が受け取る記録停止コマンドの種類を設定する。**
 - メニュー操作については、「設定メニューの基本操作」(→ Vol. 1 の 27 ページ)をご参照ください。
- 3 本機の START/STOP ボタンを押し、本機と外部機器の両方に対し、記録開始、停止を行います。**

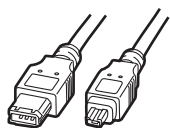
バックアップ記録を行う場合は、次のことにお気を付けください。

- メニュー項目の設定は、電源を OFF にしても記憶されているため、バックアップ記録を行った設定のまま本機を使用すると、接続機器のメディアに映像を上書きしてしまうことがあります。バックアップ記録を行った後は、メニュー項目の設定を確認してから本機を操作してください。
- バックアップ記録を行う外部機器として、もう 1 台の AG-HPX250 を使用する場合、外部機器側の 1394 CONTROL 項目を OFF に設定し、設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の REC SIGNAL 項目を「1394」に設定して使用してください。
- バックアップ記録を行う場合、2 台以上の外部機器を接続すると正しく動作しないことがあります。
- 接続する時の 1394 ケーブルの長さは、4.5 m までにしてください。
- バックアップ記録を行う時は、外部機器で 1394 信号を記録できる状態にしておいてください。
- 設定メニュー OTHER FUNCTIONS 画面の 1394 CONTROL 項目(→ 150 ページ)で「CHAIN」を設定してバックアップ記録を行うと、撮影中に本機のメディアが終端付近になった時に、記録待機状態にしているバックアップ用の機器で、自動的に記録を開始します。
- REC CHECK を行うと、その映像も記録されてしまいますのでお気を付けください。

-
-
- AVC-Intra フォーマットや DVCPRO HD の Native 記録モード選択時は、1394 接続での外部機器の制御はできません。
 - 特殊記録モードのうち、インターバル記録、ワンショット記録、ループレック中はバックアップ記録は働きません。(→ 44 ~ 46 ページ)
 - 本機のタイムコードを REC RUN 設定にした状態で、外部機器を接続してバックアップ記録を行っている場合、本機に挿入した P2 カードの容量がなくなったまま記録を継続すると、DVCPRO/DV 端子から出力されるタイムコードの歩進が停止したままになりますのでお気をつけください。
 - 記録開始→停止→記録開始の操作を素早く行うと、外部機器側にてバックアップ記録されないことがあります。
-
-

1394 接続時のご注意

- 本機から電源は、供給されません。
- 1394 ケーブルを接続する場合は、下記のことを必ずお守りください。
 - ほかの機器とは、1 対 1 で接続してください。
 - DVCPRO/DV 端子に 1394 ケーブルを接続したときに、外部から強い負荷を加えないでください。端子が破損することがあります。
 - エラー (1394INITIAL ERROR) が表示される場合は、1394 ケーブルを差し直すか、本機の電源を一度電源 OFF にしたあと、再度 ON にしてください。
 - 本機ならびに接続するすべての機器は接地 (アース) した状態 (または共通の GND に接続した状態) でご使用ください。接地できない場合は、まず接続されたすべての機器の電源 OFF にしてから、1394 ケーブルの抜き差しを行ってください。
 - 4 ピン型の端子を持つ機器と本機を接続する場合は、本機の端子 (6 ピン型) を先に接続してください。
 - 6 ピン型の端子の付いたパーソナルコンピュータと接続する場合は、1394 ケーブルを DVCPRO/DV 端子の形状通りに接続してください。プラグを逆に差し込むと、本機の破損につながりますのでお気をつけください。
- パーソナルコンピュータ等のアプリケーションソフトウェア (編集ソフト) で本機を制御する場合、下記のことにお気をつけください。
 - クリップの任意の位置につなぎ撮りを行うことはできません。常に、最新のクリップの後ろに連続してつなぎ撮りが行われます。
 - DVCPRO/DV 端子からの信号を入力記録するときは、本機の CAMERA モードで設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の REC SIGNAL 項目を 1394 に設定してください。
- 特殊再生時には、IEEE 1394 インターフェース出力として未処理のビデオ、オーディオ信号が出力されます。これらのビデオ、オーディオ信号をほかの機器でモニターすると、本機で再生したビデオ、オーディオ信号と異なる場合があります。
- 出力データのフォーマットが、DV または DVCPRO の場合は、IEEE 1394 インターフェースから出力されるオーディオチャンネル CH1/CH2 または CH3/CH4 を設定メニュー AUDIO SETUP 画面の 1394 AUDIO OUT 項目で選択できます。
- 外部機器から信号を記録している時は、外部機器側で出力を停止したり、ケーブルを抜かないでください。再度記録を行う時に認識できないことがあります。
- 外部機器から信号を記録している時は、外部機器側で出力される信号のフォーマットを変更しないでください。正しい記録を行うことができません。
- DVD 機器での自動録画機能は正常に動作しないことがあります。その場合、手動で録画してください。



6ピンタイプ 4ピンタイプ

- 接続された機器の電源 ON/OFF、および I/F ケーブルの抜き差しなどで、AV 信号が乱れることがあります。
- 入力信号の切り替え時やモード移行のときに、システムが安定するまで数秒かかることがあります。システムが安定したあとに、記録動作を行ってください。
- IEEE 1394 インターフェース入力選択で記録する場合、AUDIO LEVEL つまみ (CH1、CH2) は動作しません。

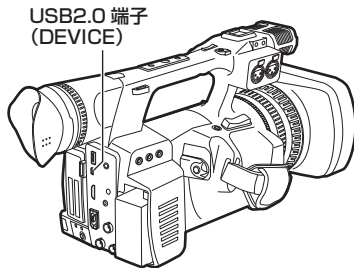
P2 カードのノンリニア編集をする (PC モード: USB デバイス)

外部パーソナルコンピューターなどと USB2.0 で接続することにより、本機に挿入された P2 カードをマストレージとして扱うことができます。

パーソナルコンピューターとの接続手順

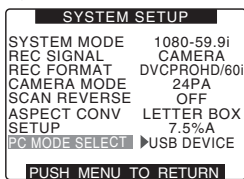
1 USB2.0 端子に USB ケーブルを接続する。

本機に USB2.0 ケーブルは同梱されていません。市販の USB2.0 対応ケーブル (ノイズ対策のためのシールド処理などが施されているもの) をご用意ください。(→ 102 ページ)



2 設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の PC MODE SELECT 項目で USB DEVICE を選び、OPERATION レバーの SET を押す。

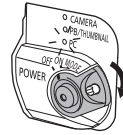
- メニュー操作については、「設定メニューの基本操作」(→ Vol. 1 の 27 ページ) をご参照ください。



3 MENU ボタンを 2 度押して、メニューモードを解除する。



4 POWER/MODE スイッチを MODE 位置まで回して、PB/THUMBNAIL ランプを点灯させた後、もう一度スイッチを MODE 位置まで下方に 2 秒間回しつづける。



- PC ランプが点灯し、PC モードになり映像・音声出力は停止します。
- PC モードには、CAMERA モードから直接移行することはできません。PB / THUMBNAIL モードのサムネール画面から移行します。

USB 接続を初めて行うときには、本機付属の CD-ROM から P2 ソフトウェアをパーソナルコンピューターにインストールしてください。USB ドライバーは「AG-HPX250」を選択してください。USB ドライバーは Windows のみ対応しています。詳しくは、インストールマニュアルをご参照ください。

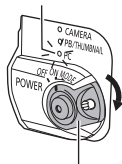
- パーソナルコンピューターには USB 専用ドライバーをインストールする必要があります。
- 本機は、USB2.0 にのみ対応しています。USB2.0 対応のパーソナルコンピューターをご使用ください。
- パーソナルコンピューターと USB 接続する場合は本機 1 台のみにしてください。
- USB を接続して使用するときは、P2 カードを抜かないでください。
- USB 接続中、P2 カードアクセスランプは、アクセス中以外は消灯します。
- USB デバイスで動作中は、記録・再生動作やクリップのサムネール操作はできません。
- USB デバイスで動作中は、P2 カードの残量や状態は表示されません。また、映像・音声は出力・表示ともできません。

(次ページにつづく)

P2 カードのノンリニア編集をする (PC モード: USB デバイス) (つづき)

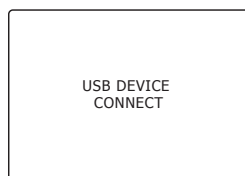
- USB 接続状態中は、動作ランプのPCが点灯します。また、ビューファインダーや液晶モニター画面の中央に「USB DEVICE CONNECT」と表示されます。正常に接続できていない場合、表示は「DISCONNECT」になります。

動作ランプ (PC)



POWER/MODE スイッチ

(ビューファインダーの画面表示)



5 USB デバイスモードを終了する。

- 本機の POWER/MODE スイッチを OFF にして電源をオフにしてください。
- USB デバイスモードから CAMERA モード、PB/THUMBNAIL モードに戻すことはできません。

ハードディスクドライブを使用する (PC モード: USB ホスト)

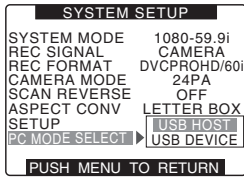
USB2.0 対応のハードディスクドライブ (HDD) 1 台と接続して、カードデータの保存 (EXPORT) 「ハードディスクドライブへの書き込み」(→ 115 ページ) や、保存したクリップのサムネイル閲覧 (EXPLORE) 「ハードディスクドライブ情報の表示」(→ 112 ページ)、P2 カードへの書き戻し (IMPORT) 「P2 カードへの書き戻し方」(→ 116 ページ) を行うことができます。



USB HOST 表示

USB ホストモードへの切り替え方

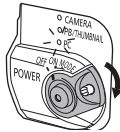
- 1 設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の PC MODE SELECT 項目で USB HOST を選び、OPERATION レバーの SET を押す。
 - メニュー操作については、「設定メニューの基本操作」(→ Vol. 1 の 27 ページ) をご参照ください。



- 2 MENU ボタンを 2 度押して、メニューモードを解除する。



- 3 POWER/MODE スイッチを MODE 位置まで回して、PB/THUMBNAIL ランプを点灯させた後、もう一度スイッチを MODE 位置まで下方に 2 秒間回しつづける。



- PC ランプが点灯し、PC モードになりサムネイル画面に移行します。
- ハードディスクドライブが接続されている場合には右上の HDD マークが点灯します。ただし赤く点灯している場合は使用可能な状態ではないハードディスクドライブを示します。ハードディスクドライブの種類 / 状態などを確認してください。

- USB HOST モードでは、P2 カードの再生はできません。またハードディスクに書き込まれたクリップは、P2 カードに書き戻さなければ再生できません。
 - 「P2 カードへの書き戻し方」(→ 116 ページ)
- USB HOST モードから通常モードに戻すことはできません。いったん電源をオフしてから再度電源オンしてください。

ハードディスクドライブを使用する（PC モード：USB ホスト）（つづき）

USB ホストモードの使い方

使用できるハードディスクドライブ

- USB2.0 で接続できるハードディスクドライブ
- 弊社製 USB I/F を持つストレージユニット
対応するユニットについては、下記のウェブサイトのサポートサイトをご参照ください。

(日本語) <http://panasonic.biz/sav/>
(英語) <http://pro-av.panasonic.net/>

- USB バスパワー（5 V、0.5 A）にも対応していますが、ハードディスクドライブによっては起動できないものもあります。その場合はハードディスクドライブへ別途電力を供給してください。
- 電源が入っていないハードディスクドライブであっても、ハブなどを介した複数の接続は行わないでください。またハードディスクドライブ以外の機器でも、ハブなどを介してハードディスクドライブと一緒に接続しないでください。
- 2 TB（2048 GB）以上のハードディスクドライブには対応していません。
- ハードディスク接続中は、コピーやフォーマットなどに支障がないよう、充分に充電されたバッテリーまたは外部 DC 電源を、本機に接続してください。
- P2 STORE（AJ-PCS060G）は Ver 2.** 以降のバージョンで本機の USB ホストモードに対応しています。
Ver 1.** の場合は接続できません。バージョンアップ後ご使用ください。

ハードディスクドライブ情報の表示

USB 接続したハードディスクドライブの情報を、以下の方法で見ることができます。

- 1 USB HOST モードへ切り替える。
 - 「USB ホストモードへの切り替え方」(→ 111 ページ)
 - サムネール画面を表示します。
(右下に USB HOST と表示しています)
- 2 ハードディスクドライブを USB 接続する。
- 3 MENU ボタンを押し、サムネールメニューより HDD → EXPLORE を選択する。
画面がハードディスクドライブの情報表示画面に切り替わります。

TYPE S または P2 STORE の場合

NO.	MODEL	DATE	TIME
1	AJ-P2C016RG	2011/JUN/20	02:00
2	AJ-P2C008HD	2011/JUN/20	02:06
3	AJ-P2C008HG	2011/JUN/20	02:06
4	AJ-P2C016RG	2011/JUN/20	02:08
5	AJ-P2C008HG	2011/JUN/20	02:08
6	AJ-P2C008HG	2011/JUN/20	02:09
7	AJ-P2C016RG	2011/JUN/20	02:10
8	AJ-P2C008HG	2011/JUN/20	02:11
9	AJ-P2C008HG	2011/JUN/20	02:11
10	AJ-P2C008HG	2011/JUN/20	02:11

EXIT ボタンを押す ↑ ↓ SET ボタンを押す

ALL(HDD) P2 [1] [2] [3] [4] HDD [5]

01	02	03	04
05	06	07	08
09	10	11	12

SERIAL: PZP50K0051 DATE: 2011/JUN/20 PARTITION: TYPE S
MODEL: AJ-P2C016RG TIME: 02:04 SIZE: 232.8 [GB]
VERIFY: OFF USED: 85.51 [GB]
NAME: PART1 FREE CAP.: 147.2 [GB]

FAT の場合

NO.	MODEL	DATE	TIME
1	FAT32		

PARTITION: FAT
SIZE: 111.6 [GB]
USED: 0 [GB]
FREE CAP.: 103.4 [GB]

EXIT ボタンを押す ↑ ↓ SET ボタンを押す

ALL(HDD) P2 [1] [2] [3] [4] HDD [5]

01	02	03	04
05	06	07	08
09	10	11	12

PARTITION: FAT
SIZE: 111.6 [GB]
FREE CAP.: 103.4 [GB]

1. PARTITION

ハードディスクドライブの種類を表示します。ハードディスクドライブのタイプによって、操作できる機能が異なります。

HDD タイプ	特徴	操作できる機能
TYPE S	カード単位で高速に書き込み / 書き戻しするための特殊形式です。本機で FORMAT を行うと、この形式になります。	サムネール表示、カード単位での書き込み / 書き戻し、クリップ単位での書き戻し、フォーマット
P2 STORE	P2 STORE (AJ-PCSO60G) のことです。書き込みはできません。	サムネール表示、カード単位での書き戻し、クリップ単位での書き戻し
FAT	パーソナルコンピュータなどで先頭の基本パーティションが FAT16、または FAT32 になっており、そのパーティションのルートに CONTENTS ディレクトリが必要な HDD です。	サムネール表示、クリップ単位での読み込み、フォーマット ※ フォーマット後は、TYPE S の HDD として扱えます。
OTHER	上記以外の HDD です。 ※ ルートに「CONTENTS」ディレクトリがない場合や NTFS などの FAT16、FAT32 以外のファイルシステムの場合です。	フォーマット ※ フォーマット後は、「TYPE S」の HDD として扱えます。

2. VENDOR

ハードディスクドライブのベンダー名を表示します。

3. MODEL

ハードディスクドライブのモデル名を表示します。

4. SIZE

ハードディスクドライブの総容量を表示します。

5. USED

ハードディスクドライブの使用量を容量 (単位 : GB) と使用 P2 カード領域 (単位 : 枚数) で表示します。

6. FREE CAP.

ハードディスクドライブの残量を容量 (単位 : GB) で表示します。

7. パーティション番号

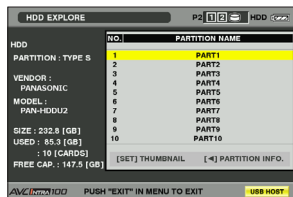
ハードディスクドライブ内のパーティション (P2 カード一枚分の単位) 番号を表示します。

画面の表示は 10 個まで表示されます。パーティションが 11 個以上ある場合、OPERATIONレバーを ▼ 方向に倒し、下にスクロールして表示してください。

8. MODEL

パーティション内のデータがもともと記録されていた 2 カードのモデル名を表示します。

OPERATIONレバーを ► 方向に倒すと、PARTITION NAME に切り替えることができます。OPERATIONレバーを ◀ 方向に倒すと、元のモデル名表示に戻ります。



9. DATE/TIME

パーティション内のデータが記録された日時を表示します。

10. SERIAL

パーティション内のデータがもともと記録されていた P2 カードのシリアル番号を表示します。

(次ページにつづく)

ハードディスクドライブを使用する (PC モード: USB ホスト) (つづき)

11. VERIFY

パーティション内のデータを記録したときのベリファイの設定とベリファイ結果を表示します。

ON:FINISHED :

ベリファイを実施し、ベリファイ結果が一致しています。

ON:FAILED :

ベリファイを実施していますが、ベリファイ結果が一致していません。

OFF :

ベリファイを実施していません。

--- :

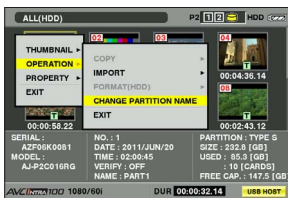
ベリファイの情報がありません。

- FAT タイプのハードディスクドライブであっても、1001 個目以降のクリップは表示されません。
- FAT でフォーマットされたハードディスクドライブの場合、最初の 1 パーティションのみ、情報が表示されます。
- P2 STORE (AJ-PCS060G) に無効なパーティションがあるときは、パーティション情報がグレーで表示されます。

12. NAME

PARTITION NAME を表示します。

PARTITION NAME はハードディスクドライブのサムネール表示中に OPERATION メニューの CHANGE PARTITION NAME を選択し、ソフトウェアキーボードから入力することができます。(最大 20 文字)



ハードディスクドライブのフォーマット

1 USB HOST モードへ切り替える。

- 「USB ホストモードへの切り替え方」(→ 111 ページ)
- サムネール画面を表示します。(右下に USB HOST と表示しています)

2 ハードディスクドライブを USB 接続する。

3 MENU ボタンを押し、サムネールメニューより HDD → EXPLORE を選択する。

画面がハードディスクドライブの情報表示画面に切り替わります。

4 サムネールメニューから OPERATION → FORMAT(HDD) を選択し、OPERATION レバーで YES を選択すると、本当にフォーマットを行うか YES/NO で確認してきますので、YES を選択してください。

ハードディスクドライブのフォーマットが行われます。フォーマット後は、TYPE S のハードディスクドライブとして扱えます。

- ハードディスクドライブのフォーマットを行うとハードディスクドライブの内容はすべて消去されます。なお、一部のパーティションだけを選択して消去することはできません。
- 本機でフォーマットしたハードディスクドライブを、他のパーソナルコンピューターなどで書き換えた場合、以後の本機での動作、およびハードディスクドライブのデータは保証できません。
- フォーマットにより消去されたデータは、復元することができませんので、必ずデータを確認した後に実行してください。

ハードディスクドライブへの書き込み

- 1 USB HOST モードへ切り替える。
 - 「USB ホストモードへの切り替え方」(→ 111 ページ)
 - サムネール画面を表示します。(右下に USB HOST と表示しています)

- 2 ハードディスクドライブを USB 接続する。

ハードディスクドライブを本機でフォーマットしていない場合は、「ハードディスクドライブのフォーマット」(→ 114 ページ)に従って、ハードディスクドライブをフォーマットしてください。

- 3 P2 カードを挿入する。

- 4 MENU ボタンを押し、サムネールメニューより HDD → EXPORT を選択する。

ハードディスクドライブへ書き込みたいデータが記録された P2 カードのスロットを指定します。

- 5 YES を選択する。
 - 書き込みを開始します。
 - 書き込み中は進捗バーが表示されます。書き込みを中断したい場合は、OPERATION レバーの SET を押し、CANCEL の確認に対して YES を選択すると処理を中断します。
 - 書き込みが完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されます。

- 書き込み時のペリファイをやめる場合は、サムネールメニューより HDD → SETUP で VERIFY を OFF に設定します。書き込み完了までの時間が早くなりますがデータの書き込み確認は行いません。
- ALL SLOT を選択すると、本機に挿入されている全ての P2 カードを一括してハードディスクドライブに書き込みます。このとき、P2 カード単位でパーティションが作成されます。

- ハードディスクドライブタイプが TYPE S である場合、カード単位で書き込みを行うことができます。最大 23 枚の P2 カードをハードディスクドライブへ保存することができます。また、ハードディスクドライブに記録された P2 カードのデータは、パーソナルコンピューターなどでは、それぞれ別のドライブとして認識されません。
- 不良クリップを含む P2 カードをハードディスクドライブに書き込むときは、書き込む前に不良クリップを修復または削除することをお勧めします。
- ペリファイ中に処理を中断しても、その P2 カードからハードディスクドライブへの書き込みは終了しています。

ハードディスクドライブを使用する（PC モード：USB ホスト）（つづき）

P2 カードへの書き戻し方

クリップ単位で書き戻す

ハードディスクドライブからクリップを選択して書き戻しが行えます。

- 1 USB HOST モードへ切り替える。
 - 「USB ホストモードへの切り替え方」(→ 111 ページ)
 - サムネール画面を表示します。
(右下に USB HOST と表示しています)
- 2 ハードディスクドライブを USB 接続する。
- 3 書き戻す P2 カードをスロットへ挿入する。
- 4 MENU ボタンを押し、サムネールメニューより HDD → EXPLORE を選択して、読み出すデータが入ったパーティションに移動し、OPERATION レバーの SET を押して、選択する。
- 5 ハードディスクドライブから P2 カードへ書き戻すクリップをサムネールから選択する。
- 6 MENU ボタンを押し、サムネールメニューより OPERATION → COPY と選択し、書き戻す P2 カードのスロットを選択する。
- 7 YES を選択する。
 - P2 カードへの書き戻しを開始します。
 - 書き込みが完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されます。

-
- クリップを選択して書き戻す場合はベリファイは実施しません。
 - 異なる品番の P2 カードへパーティション単位でのインポートはできません。クリップ単位でコピーを実施してください。
-

カード単位で書き戻す

ハードディスクドライブタイプが TYPE S か P2 STORE である場合、同一品番の P2 カードへカード単位で書き戻しを行うこともできます。書き戻し先の P2 カードはあらかじめフォーマットしておいてください。

- 1 USB HOST モードへ切り替える。
 - 「USB ホストモードへの切り替え方」(→ 111 ページ)
 - サムネール画面を表示します。
(右下に USB HOST と表示しています)
- 2 ハードディスクドライブを USB 接続する。
- 3 書き戻す P2 カードをスロットへ挿入する。
- 4 MENU ボタンを押し、サムネールメニューより HDD → EXPLORE を選択して、読み出すデータが入ったパーティションに移動し、OPERATION レバーの SET を押して、選択する。
- 5 サムネールメニューより OPERATION → IMPORT と選択し、書き戻しを行う空の P2 カードが挿入されたスロットを選択する。
- 6 YES を選択する。
 - カードへの書き戻しを開始します。
 - 書き込みが完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されます。

< 参考 >

書き戻し時のベリファイをやめる場合は、サムネールメニューより HDD → SETUP で VERIFY を OFF に設定します。書き戻し完了までの時間が早くなりますがデータの書き戻し確認は行いません。

-
- クリップを、そのクリップが元々記録されていた P2 カードではない別の P2 カードに書き戻したとき、書き戻したクリップが不完全クリップになることがあります。この場合はクリップの連結を行ってください。
 - 「不完全クリップの連結」(→ 85 ページ)
 - 異なる品番の P2 カードへパーティション単位でのインポートはできません。クリップ単位のコピーを実施してください。
-

ハードディスクドライブ使用時のご注意

- ハードディスクドライブ (P2 STORE (AJ-PCS060G)含む)は以下の条件でご使用ください。
 - ハードディスクドライブの動作補償範囲内 (温度など) で使用する。
 - ハードディスクドライブを振動する場所や不安定な場所に置かない。
- ハードディスクドライブやケーブルによっては正しく動作しないことがあります。
- USB 変換ケーブルで接続された SATA (シリアル ATA) や PATA (パラレル ATA) インターフェースのハードディスクドライブは認識できない場合があります。
- コピーには十分な容量のハードディスクドライブをご使用ください。
- フォーマットやコピー中にケーブルを抜いたり、対象の P2 カードを取り出したり、あるいは、本機やハードディスクドライブの電源を切ったりすると、データ破損、カードや本体の故障の原因になりますので、ご注意ください。
なお、本機の電源には十分に充電されたバッテリーまたは外部 DC 電源をご使用ください。
- ハードディスクドライブは非常に精密な機器ですので、使用状況によってはデータの読み書きができなくなるおそれも十分にあります。
- ハードディスクドライブの故障あるいは何らかの不具合によるデータの損失、ならびにこれらに関するその他の直接・間接の損害につきましては、当社では責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- 本機からのコピーで使用したハードディスクドライブを他のパーソナルコンピューターなどで中身を置き換えた場合、以後の本機での動作、およびハードディスクドライブのデータは保証できません。
- 下記 URL で配布しているドライバマウントコンバーターを使用すると、ハードディスクドライブを接続したとき、指定したフォルダーへマウントすることができます。

(日本語) <http://panasonic.biz/sav/>

(英語) <http://pro-av.panasonic.net/>

サムネール操作および USB ホストモードでの警告 / エラー表示

■ サムネール


メッセージ

内容と対応

CANNOT ACCESS!

コンテンツ不良などによりデータへアクセスできません。
メディア、クリップを正常な状態としてからご使用ください。

CANNOT CHANGE!

AVC-Intra100 または AVC-Intra50 で、サムネールが生成できず  のマークアイコンが表示されたクリップは、テキストメモ位置のサムネール変更はできません。
SYSTEM MODE 項目をクリップに合わせて設定してください。SYSTEM MODE 項目は、設定メニューの SYSTEM SETUP 画面から選択できます。(→ 134 ページ)

CANNOT COPY!

コピーができません。
コピーの条件を確認してください。

CANNOT DELETE!

コンテンツバージョンが不整合のため削除できません。
機器とコンテンツのバージョンをあわせてください。

CANNOT FORMAT!

P2 カードなどの問題でフォーマットができません。
P2 カードを確認してください。

CANNOT RECONNECT!

複数枚の P2 カードにまたがって記録したクリップではないコンテンツを選んでいるなどでクリップの再結合ができません。
選択しているコンテンツを確認してください。

CANNOT REPAIR!

修復できないコンテンツを選んでいるなどで修復ができません。
選択しているコンテンツを確認してください。

LACK OF CAPACITY!

カードの記録容量が不足しています。
記録容量の十分あるカードを挿入してください。

ハードディスクドライブを使用する (PC モード: USB ホスト) (つづき)

MISSING CLIP!

複数枚の P2 カードにまたがって記録されたクリップに、すべての P2 カードが挿入されていない状態でショットマークをつけようとしている。またがって記録されたすべての P2 カードを挿入し、クリップの ■ 不完全クリップインジケータを表示しなくなるのを確認してからショットマークをつけてください。

NO CARD!

P2、SD カードが入っていません。対応メディアを挿入してください。

NO COPY TO SAME CARD!

コピー元とコピー先が同じカードのためコピーできません。選択しているクリップが入っていないカードへコピーをしてください。

NO FILE!

指定されたファイルが存在していません。ファイルを確認してください。

SAME CLIP IS SELECTED!

既にコピーしたクリップと元のクリップを選択しているため、コピーできません。選択したクリップを確認し、コピー元のクリップか、コピーされたクリップのいずれかを選択から外してからコピーを実行してください。

TOO MANY CLIPS!

コピー先カードのクリップ数が 1000 クリップを超えます。選択しているクリップ数を減らしてください。

UNKNOWN CONTENTS FORMAT!

コンテンツバージョンが不整合のときの警告です。機器とコンテンツのバージョンをあわせてください。

UNKNOWN DATA!

メタデータの文字コードが不正規です。メタデータの文字コードは UTF-8 となっています。ビューアーなどで正しい文字を入力してください。

USER CLIP NAME MODIFIED!

クリップ名にカウンター値を付加するときに文字削除が必要となりました。カウンター付加の設定でユーザークリップ名とカウンターは合わせて 100 バイトまでしか保存できませんので、文字を自動的に削除します。

WRITE PROTECTED!

P2、SD カードがライトプロテクトされています。書き込み可能なメディアを挿入してください。

■ ソフトキーボード

メッセージ

内容と対応

CANNOT CHANGE!

テキストメモがない状態で「PERSON (メモ入力者)」項目を入力しようとしている。「TEXT (テキスト情報)」項目を先に入力してください。

CANNOT SET!

INVALID VALUE!

入力された値が異常です。入力値を変更してください。

■ HDD (USB ホストモード)

メッセージ

内容と対応

CANNOT ACCESS CARD!

P2 カードのアクセス中にエラーが発生しました。P2 カードを確認してください。

CANNOT ACCESS TARGET!

接続先のターゲットのアクセス中にエラーが発生しました。HDD の状態や接続を確認してください。

CANNOT FORMAT!

初期化できません。接続している HDD を変更してください。

CANNOT RECOGNIZE HDD!

接続先のターゲットが正しく認識できません。HDD の電源を入れ直すか、接続する HDD を変更してください。

CARD IS EMPTY!

CANNOT COPY!

コピーする P2 カードが空です。空のカードはコピーする必要がないためコピーを行いません。

FORMAT P2 CARD!

HDD → P2 へのインポート時に、P2 カードが記録済のためコピーできない警告です。コピー先の P2 カードが空でないため、コピーできません。P2 機器でフォーマットした後に再度コピーを行ってください。

LACK OF CAPACITY!

HDD の空き容量が足りません。接続先のターゲットの残容量が足りないため、新しい HDD またはフォーマットした HDD を使用してください。

HDD DISCONNECTED!

HDD との接続が切断されました。USB を付け直してください。またその後正常に動作しないときは、一度電源を OFF にして、再び電源を ON にしてください。

MISMATCH COMPONENT!

コピー元とコピー先の P2 カードの品番が不一致のため、コピーできません。同一品番の P2 カードを使用するか、クリップ単位でコピーしてください。

TOO MANY PARTITIONS!

パーティションが多すぎます。HDD の最大パーティション数は 23 です。新しい HDD またはフォーマットした HDD を使用してください。

TOO MANY TARGETS!

複数の機器が接続しています。接続を解除後、一度電源を OFF にして、再び電源を ON にしてください。

UNKNOWN DEVICE CONNECTED!

未対応の DVD ドライブなどが接続されています。接続を解除後、一度電源を OFF にして、再び電源を ON にしてください。

VERIFICATION FAILED!

コピー後のコンペアが不一致でした。再度コピーを行ってください。

- なお、「画面の表示」のエラーについては、「エラーと警告表示」(➔ 126 ページ)をご参照ください。

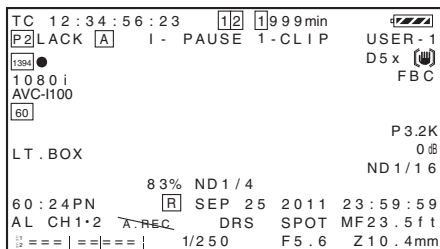
画面の表示

ビューファインダーの状態表示

ビューファインダーおよび液晶モニター画面では、映像のほかに本機の設定や動作の状態を示すメッセージ、センターマーカー、セーフティーゾーンマーカー、ゼブラパターンなどが表示されます。

ビューファインダー画面の状態表示の構成

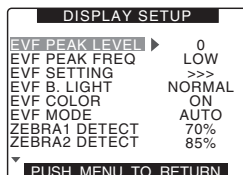
表示できる項目（モードチェック (MODE CHK) を除く）は、下の図のように配置されています。

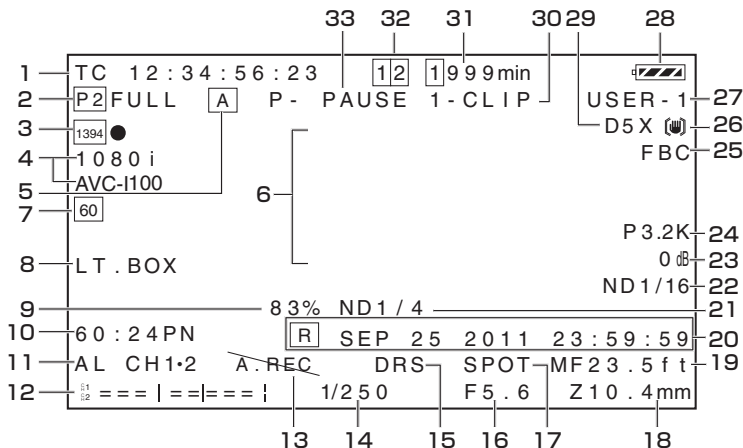


ビューファインダー画面の表示項目の選択

ビューファインダー画面に表示項目の選択は、設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の各項目で表示の ON/OFF、または種類を切り替えます。

- メニュー操作については、「設定メニューの基本操作」(→ Vol. 1 の 27 ページ) をご参照ください。





1 タイムコード表示

COUNTER ボタンを押すごとに、下記のデータ（または表示なし）に切り替わります。

(表示なし)

カウンター：

カウンター値（記録モードのみ）

CLIP：

クリップカウンター値（記録モードのみ）

撮影ごとの CLIP のカウンター値

設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の REC COUNTER 項目で CLIP を選択した場合に表示されます。

TC：

タイムコード値

タイムコード値が DVCPRO/DV 端子から正しく読みとれなかったときには、TC * を表示します。

ドロップフレームモード運用しているときは、秒とフレームの間の「:」（コロン）が「.」（ドット）になります。

tc：

タイムコード値（フレーム桁を 24 フレーム変換して表示）

タイムコード値が DVCPRO/DV 端子から正しく読みとれなかったときには、tc * を表示します。

ドロップフレームモード運用しているときは、秒とフレームの間の「:」（コロン）が「.」（ドット）になります。

UB：

ユーザースピット値

ユーザースピット値が DVCPRO/DV 端子から正しく読みとれなかったときには、UB * を表示します。

FR：

撮影するフレームレート情報

FR60i -: 60i インターレースモード
(60 フィールド / 秒)

FR60P -: 60P プログレッシブモード
(60 フレーム / 秒)

FR30P -: 30P プログレッシブモード
(30 フレーム / 秒)

FR24P *: 24P プログレッシブモード
(24 フレーム / 秒)

FR24PA *: 24P アドバンスモード
(24 フレーム / 秒)

FR50i: 50i インターレースモード
(50 フィールド / 秒)

FR50P: 50P プログレッシブモード
(50 フレーム / 秒)

FR25P: 25P プログレッシブモード
(25 フレーム / 秒)

*: FR24P と FR24PA のモードのときは、最終けたにフレーム変換のシーケンス情報を表示します。

TC、tc、UB は、TC IN 入力にロックしている場合、白抜き文字 **TC** → **TC** になります。

(次ページにつづく)

2 ワーニング情報表示

REMOTE :

ワイヤレスリモコンの機器設定が違う場合、点滅します。

:

P2 カードが挿入されていないときや記録禁止状態のときに点滅します。

FULL :

P2 カードの残量がないときに点滅します。

LACK :

ループレックモードで P2 カードの残量が不足しているときに点滅します。

:

内蔵時計用の内蔵電池が消耗しているときに点灯します。

- 「内蔵電池の充電」(→ Vol. 1 の 26 ページ)


3 バックアップ用機器の状態表示

DVCPRO/DV 端子に接続されている、バックアップ機器の状態を表示します。

設定メニュー OTHER FUNCTIONS 画面の 1394 CONTROL 項目を OFF に設定している则表示されません。

1394 ● : 記録

1394 II : 記録待機

1394  : バックアップ機器が制御できない状態

1394 : バックアップ機器が未接続

1394 --- : バックアップ機器は接続されていますが、記録や記録待機状態になっていない

4 記録フォーマット、およびシステムモード表示

• システムモード

1080i

720P

480i

576i

• 記録フォーマット

• システムモードが 1080i、720P のとき

AVC-I 100 : AVC-Intra 100 フォーマット

AVC-I 50 : AVC-Intra 50 フォーマット

DVCPROHD : DVCPRO HD フォーマット

• システムモードが 480i (576i) のとき

DVCPRO50 フォーマット、

DVCPRO フォーマット、DV フォーマット

5 AUTO/MANUAL スイッチ動作表示

AUTO/MANUAL スイッチを AUTO にしたとき、表示します。


6 情報表示

状況に応じて、下記の情報を表示します。

- オートホワイトバランスやオートブラックバランスの動作状態を表示
- 警告表示、エラー表示
- 各スイッチやボタン操作の情報
- 「中央部の情報表示」(→ 125 ページ)

7 システム周波数表示

 : 59.94 Hz モードのとき

 : 50 Hz モードのとき

8 レターボックス記録表示

記録フォーマットが 480i/576i のとき、設定メニュー SYSTEM SETUP 画面の ASPECT CONV 項目で LETTER BOX を選択してレターボックス記録を行っているときに表示します。

9 Y GET の輝度表示

Y GET のとき、画面中央付近に表示される枠内の映像レベルを 0% ~ 109% で表示します。

10 撮影 / 記録・再生フレームレート表示

Native 記録のとき、撮影フレーム数と、記録・再生のフレーム数を表示します。

例) 60:24PN (60P 撮影のバリアブルフレームレート 24PN 記録)

再生では、2:3 プルダウンで 24P over 60P となり、24/60 倍速スロー再生であることを示します。

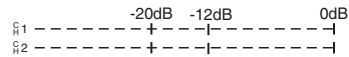
通常記録のときは撮影フレームレートのみを表示します。

例) 24PA (24PA での 2:3:3:2 プルダウン over60i 記録)

11 オーディオリミッタ表示

CH1、CH2 または CH3、CH4 にリミッタが働く設定になっているときに表示します。

12 オーディオレベルメーター表示



USER ボタンに MAG A. LVL (レベルメーターの拡大表示) を割り当てることにより、拡大表示に切り替えることができます。

- 「オーディオ拡大表示」(→ 55 ページ)

また、LVL METER を割り当てた USER ボタンを押すと、押している間レベルメーター表示と音声出力 (1394 を除く) の CH1/2 と CH3/4 とを切り替えることができます。

- 「USER ボタンの活用」(→ 39 ページ)

13 オーディオ記録不可表示

VFR (バリアブルフレームレート) モードの Native 記録時、またはインターバル記録、ワンショット記録時、オーディオを記録できない場合に表示します。

14 シャッタースピード表示

シャッタースピードを表示します。シンクロスキャンのときは、設定メニュー SCENE FILE 画面の SYNC SCAN TYPE 項目で設定されている表示 (時間 (分数) 表示、または開角度のイメージでの表示) となります。

15 DRS 表示

ダイナミックレンジストレッチャー機能が動作しているときに表示します。

16 アイリス表示

F 値を表示します。

17 オートアイリス制御表示

STD: 標準オートアイリス制御
SPOT: スポットライト用のオートアイリス制御
BACK: 逆光補正用のオートアイリス制御

18 ズームポジション表示

Z00 (広角最大) ~ Z99 (望遠最大) でズームポジションを表示します。設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の ZOOM・FOCUS 項目で単位を mm に切り替えられます。

19 フォーカス制御情報表示

99 ~ 00 でフォーカス制御情報を表示します。オートフォーカスの時は AF、マニュアルフォーカスの時は MF と表示されます。また、設定メニュー SW MODE 画面の MF ASSIST 項目が ON の時のマニュアルフォーカス時は MA と表示されます。マクロ制御に設定している時は、AF、MF または MA が白黒反転表示になります。

95 (被写体までの距離: 無限遠)

:

00 (被写体までの距離: 約 5 cm)
 ズームポジションにより、マクロ範囲にならないことがあります。

また、ズームポジションにより、マクロ範囲の下限值が異なることがあります。設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の ZOOM・FOCUS 項目で、単位を feet または m に切り替えられます。

20 日付と時刻表示

月:
 JAN (1月)、FEB (2月)、MAR (3月)、
 APR (4月)、MAY (5月)、JUN (6月)、
 JUL (7月)、AUG (8月)、SEP (9月)、
 OCT (10月)、NOV (11月)、DEC (12月)

日
 年: 2000...2037
 時
 分
 秒

[R] mmm dd yyyy hh:mm:ss
 タイムスタンプ記録を表示

21 推奨 ND フィルター表示

現在の撮影条件下で、推奨する ND フィルターを表示します。

22 ND フィルター表示

選択している ND フィルターを表示します。

23 ゲイン表示

設定されている映像アンプのゲイン値を表示します。

24 WHITE BAL スイッチポジション表示

現在選ばれているポジションを表示します。また、AWB がプリセット時のホワイトバランスの動作を表示します。また、ATW (自動追尾方式のオートホワイトバランス) モードのときは ATW と表示し、ATW の LOCK 状態のときは、LOCK と表示します。

25 FBC 表示

FBC 機能が動作しているときに、表示します。

26 手ぶれ補正表示

OIS ボタンを押し、手ぶれ補正モードが設定されているとき表示します。

27 シーンファイル名表示

SCENE FILE (F1 ~ F6) のシーンファイル名を表示します。

(次ページにつづく)

28 バッテリー残量表示

バッテリーの残量が少なくなるにつれ、と変わります。容量がなくなると、 () が点滅します。

(AC アダプター使用時に 以外が表示される場合がありますが、問題ありません)

- 低温、高温になるところや、長時間ご使用にならなかった場合は、バッテリー残量表示が正しく表示されないことがあります。バッテリー残量を正しく表示させるには、バッテリーを満充電してから使い切り、再度充電してください。(この操作を行っても、低温、高温になるところで長時間使用したバッテリーや、何度も充電を繰り返したバッテリーでは、バッテリー残量表示を正しく表示できないことがあります)
- 使用状況によってバッテリー残量表示の時間は変わりますので、目安にしてください。

29 デジタルズーム表示

デジタルズーム倍率を表示します。

- D2 × : 2 倍
- D5 × : 5 倍
- D10 × : 10 倍

30 ワンクリップレックモードの状態表示

1 - CLIP :

ワンクリップレックで、新たなクリップがこれから記録される状態

1 * CLIP :

ワンクリップレックで、前のクリップに連結して記録が可能な状態

31 メディア残量表示

- 設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の P2CARD REMAIN 項目を ONE-CARD に設定すると、現在記録対象の P2 カード 1 枚の残量の左側にスロット番号を表示します。TOTAL に設定すると 2 枚の残量合計を表示します。
- なお、モードチェック (MODE CHK) では ONE-CARD と TOTAL が入れ替わって表示されます。
- 残量の計算中、および USB デバイスモードでは無表示になります。ループレック中は、LOOP と表示されます。
- ループレック中のモードチェック (MODE CHK) では、ループレックで記録できる標準的な記録時間を表示します。
- 残量は、0 ~ 999 分の 1 分単位表示です。999 分以上は 999 分と表示されます。
- 残量が 2 分以下になると表示が点滅します。

32 メディア情報表示

P2 カードが挿入されているカードスロット、および基本情報を表示します。

1 点灯 : 記録可能な P2 カード

1 緑色点灯 : 記録対象の P2 カード

1 点滅 : カード認識中

□ : カード未挿入

P : ライトプロテクトがかかっている

F : 残量なし

X : 認識不可

E : 不正なフォーマットの P2 カード (フォーマットすれば、正常になります)

33 記録・再生の動作状態表示

REC : 記録

PAUSE : 記録待機

|| : 再生一時停止

▶ : 再生

◀▶ (<◀) : スロー再生 (逆方向スロー再生)

◀▶▶ (<◀◀) : コマ送り再生 (逆方向コマ送り再生)

▶▶ (<<▶) :

早送り / 早送り再生 (早戻し / 早戻し再生)

×▶ / **×▶▶** (**×◀** / **×◀◀**) :

可変速サーチ (逆方向可変速サーチ)

CLIP ||▶ (**CLIP ◀||**) :

クリップ送り (クリップ戻し)、クリップ単位での頭出し

CLIP & T ||▶ (**CLIP & T ◀||**) :

クリップとテキストメモ単位の送り (戻し) での頭出し (メニュー OTHER FUNCTIONS 画面の SEEK SELECT 項目を CLIP&T に設定しているとき)

START:

ワンクリップレックで、新たなクリップを記録開始したときに表示します。

END:

ワンクリップレックで、クリップの連結を終了したときに表示します。

DISPLAY OFF の状態では、REC、START、END 表示のみ右上に表示されます。また、プリレック、ループレック、インターバル記録、ワンショット記録が設定されている場合も右上に表示されます。

特殊記録状態表示

設定メニュー RECORDING SETUP 画面の REC FUNCTION 項目を INTERVAL、ONE SHOT、LOOP に設定しているとき、または PREREC MODE 項目を ON に設定しているときに表示します。

L-：LOOP（ループレック）

I-：INTERVAL（インターバル記録）、ONE SHOT（ワンショット記録）

P-：PRE REC（プリレック）

中央部の情報表示

情報表示(→ 122ページ)には以下のものがあります。

P2 カード記録・再生の情報表示

BOS

ストリームの最初です。これ以上、逆方向再生できません。

CANNOT PLAY

再生できないときに表示します。

CARD ERR (1) (2) (1/2)：

数字のスロットの P2 カード異常

UPDATING：カード情報読み取り中

CANNOT REC

START/STOP ボタンを押しても収録開始できないときに表示されます。

EOS

ストリームの終わりです。これ以上、正方向再生できません。

PRE REC ON (OFF) (INVALID)

プリレックを割り当てた USER ボタンを押した時表示されます。

SHOT MARK ON (OFF) (INVALID)

SHOT MARK を割り当てた USER ボタンを押したときに表示されます。

SLOT SEL (INVALID)

SLOT SEL を割り当てた USER ボタンを押したとき表示されます。

TEXTMEMO (INVALID)

TEXTMEMO を割り当てた USER ボタンを押したときに表示されます。

VFR ON NO AUDIO RECORDING

バリアブルフレームレート撮影で、音声信号が記録されないとき、表示されます。

エラーと警告表示

本機や P2 カードなどに異常が発生した場合には表示します。一度電源 OFF にしても直らない場合は、表示の内容に従ってカードを交換するか、もしくはお買い上げの販売店へご相談ください。

1394

1394 接続や信号に異常が発生したときに表示します。

1394 INITIAL ERROR : 接続異常

1394 INPUT ERROR : 入力異常

1394 INPUT ERROR (OTHER FORMAT) :
(入カフォーマット違い)

COPY INHIBITED :

DVCPRO/DV 端子から DV フォーマットで入力しているとき、コピーガードされた信号が入力されている。

CLIP DISCONTINUED

ワンクリップレックで、連続クリップとしての整合性がとれず、次のクリップ記録時にクリップの連結ができない場合に表示します。

DIR ENTRY NG CARD

P2 カードのディレクトリー配置が不正規となっているため、動作は継続しますが、正常に記録できないことがあります。速やかにカードのバックアップを取り、フォーマット後ご使用ください。

EXTERNAL 1394 DISCONNECT

設定メニュー OTHER FUNCTIONS 画面の 1394 CONTROL 項目を EXT に設定して、DVCPRO/DV 端子に外部機器を接続しないで撮影を行ったときに表示します。

FAN STOPPED

ファンが停止しています。

すみやかに電源を切って使用を中止し、販売店にご相談ください。

FAN STOPPED HIGH TEMPERATURE

ファンの停止により、内部が高温になっています。

電源が自動的に切れます。

使用を中止し、販売店にご相談ください。

FORMAT ERR !

P2 規格に準拠していないカードです。

INCOMPATIBLE CARD

規格が違うカードなので、使用することができません。

LOW BATTERY

バッテリー残量がなくなったときに表示します。

PULL DOWN ERROR :

24P などのとき、映像ブルダウンシーケンスの異常

REC WARNING

記録時に異常が生じたときに表示します。再度記録してください。それでも警告が出る場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

CARD ERR (1) (2) (1/2) :

数字のスロットの P2 カード異常

- 警告が続く場合は電源 OFF にしてください。
- 再度記録しても警告が出る場合は、別のカードに取り替えてください。

ERROR : その他

OVER MAX# CLIPS :

1 枚の P2 カードに記録できるクリップ数の最大値 (1000 個) に達したため記録を停止した。

REC RAM OVERFLOW :

記録用メモリーのオーバーフロー

RUN DOWN CARD

P2 カードの規定の書き換え回数を超えているため、動作は継続しますが、正常に記録または再生されないことがあります。

P2 カードの交換をお勧めします。

SYSTEM ERROR

システムに異常が発生したときに表示します。一度電源 OFF にしたあと、再度 ON にしてください。

CAM LENS ERROR : カメラレンズの異常

CAM MICON ERROR :

カメラマイコン応答なし

P2 CONTROL ERROR : P2 制御異常

P2 MICON ERROR : P2 マイコン応答なし

TEMPORARY PAUSE

IRREGULAR FRM SIG :

GENLOCK 入力などの基準信号が乱れ、記録を一時中断しているときに表示します。

GENLOCK IN 端子の入力信号を確認してください。

TURN POWER OFF

カードをアクセス中に抜いて異常が発生したときやシステムモードを切り替えたあとなどに表示します。

電源を入れ直してください。

カメラ系状態表示 (ABC アルファベット順)

ABB

ABB 動作表示

ATW ACTIVE

ATW 動作中に AWB ボタンを押したときに表示します。

ATW (ATW LOCK)

WHITE BAL スイッチを B に切り替えたとき、ATW が割り当てられている場合に表示します。

AWB

AWB 動作表示

AWB P3.2K/AWB P5.6K

WHITE BAL スイッチを PRST の位置にしたとき、PRST に割り当てた色温度を表示します。また、PRST 位置で AWB を実行しようとしたとき表示します。

BACK LIGHT

アイリス制御に BACK LIGHT を割り当てた USER ボタンを押して、状態を切り替えたときに表示されます。

DIAL : FRAME RATE (SHUTTER/SYNCHRO SCAN/LOCK)

DIAL SEL ボタンで SHTR/F.RATE ダイアルを切り替えたときに表示します。

DRS ON (OFF)

DRS の動作を切り替えたことを表示します。

D.ZOOM 10x (2x/5x/OFF/INVALID)

デジタルズーム動作を切り替えたときに表示します。

FBC ON (OFF)

FBC の動作を切り替えたときに表示します。

GAIN ** dB

GAIN を切り替えたとき表示します。

IRIS : MANUAL (AUTO)

アイリスの動作を切り替えたときに表示します。

OIS ON (OFF)

手ぶれ補正機能を切り替えたことを表示します。

SCENE *****

SCENE FILE ダイアルを回してシーンファイルを切り替えたときそのシーンファイル名を表示します。

SHUTTER 1/ **** (OFF)

シャッター速度を切り替えたときに表示します。

SPOT LIGHT

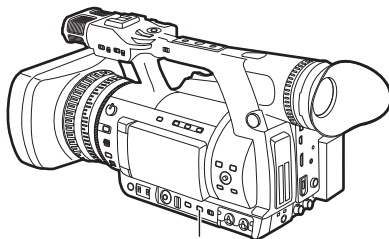
アイリス制御に SPOT LIGHT を割り当てた USER ボタンを押して、状態を切り替えたときに表示されます。

VFR ON (OFF)

VFR の動作を切り替えたときに表示します。

撮影状態の確認と表示

- 記録待機、または記録中に DISP/MODE CHK ボタンを押したままにすると、各種撮影機能の設定状態、USER ボタンに割り当てた機能の一覧など、すべての情報が表示されます。ボタンから手を離すと通常の表示に戻ります。
- 記録待機、または記録中に DISP/MODE CHK ボタンを押すと、すべての表示が OFF になります。もう一度押すと通常の表示に戻ります。
- 電源 OFF にする、またはメディアや動作モードを切り替えても維持されます。
- ビューファインダー / 液晶モニターに表示する次の項目は、DISP/MODE CHK ボタンを押したときや、設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の OTHER DISPLAY 項目の設定により表示します。



DISP/MODE CHK ボタン

画面の表示 (つづき)

No	表示項目の名称	モードチェック (MODE CHK) で表示される項目に○	DISPLAY OFFで 消える項目に ○	OTHER DISPLAY 項目の設定での表示、非表示 —:影響されない、○:表示される、×:消える			その他のメニュー項目 によって個別に 非表示にできる —:影響されない
				ALL	PARTIAL	OFF	
1	タイムコード表示	○	消えない	—	—	—	—
2	ワーニング情報表示	○	消えない	—	—	—	CARD&BATTERY 項目 ¹⁾
3	バックアップ用 機器の状態表示	○	消えない	—	—	—	—
4	記録フォーマット、 およびシステムモード表示	○	○	○	×	×	—
5	AUTO/MANUAL スイッチ動作表示	○	○	○	○	×	—
6	情報表示	×	消えない	—	—	—	—
7	システム周波数表示	○	○	○	×	×	—
8	レターボックス記録表示	○	○	—	—	—	—
9	Y GET の輝度表示	○	消えない	—	—	—	—
10	撮影 / 記録・再生 フレームレート表示	○	○	○	○	×	—
11	オーディオリミッタ表示	○	○	○	×	×	—
12	オーディオレベルメーター 表示	○	○	—	—	—	LEVEL METER 項目
13	オーディオ記録不可表示	○	○	—	—	—	—
14	シャッタースピード表示	○	○	○	○	×	—
15	DRS 表示	○	○	○	○	×	—
16	アイリス表示	○	○	○	○	×	—
17	オートアイリス制御表示	○	○	○	○	×	—
18	ズームポジション表示	○	○	—	—	—	ZOOM・FOCUS 項目
19	フォーカス制御情報表示	○	○	—	—	—	ZOOM・FOCUS 項目
20	日付と時刻表示	○	○ ^{*2}	—	—	—	DATE/TIME 項目
21	推奨 ND フィルター表示	○	○	○	○	×	—
22	ND フィルター表示	○	○	○	×	×	—
23	ゲイン表示	○	○	○	○ 0 dB は表示しない	×	—
24	WHITE BAL スイッチポジション表示	○	○	○	○ ATW、LOCK、 P3.2K、P5.6K のみ表示	×	—
25	FBC 表示	○	○	○	○	×	—
26	手ぶれ補正表示	○	○	○	○	×	—
27	シーンファイル名表示	○	○	○	×	×	—
28	バッテリー残量表示	○	○ 残量が少なくなると 表示	—	—	—	CARD&BATTERY 項目
29	デジタルズーム表示	○	○	—	—	—	—
30	ワンクリップブレイクモードの 状態表示	○	○	○	○	×	新たなクリップの記 録開始と終了時には 表示

No	表示項目の名称	モードチェック (MODE CHK) で表示される項目に○	DISPLAY OFF で消える項目に○	OTHER DISPLAY 項目の設定での表示、非表示 —：影響されない、○：表示される、×：消える			その他のメニュー項目によって個別に非表示にできない —：影響されない
				ALL	PARTIAL	OFF	
31	メディア残量表示	○	○ 残量が少なくなると表示	—	—	—	CARD&BATTERY 項目
32	メディア情報表示	○	○ SLOT SEL 実行では点灯	—	—	—	CARD&BATTERY 項目
33	記録・再生の動作状態表示	○	○ 記録中と特殊記録モード時のみ右上に表示	○	○	× 記録中と特殊記録モード時のみ右上に表示	—

- ：表示する
×：表示しない
—：他の設定により表示を行います。

*1：P2 カード未挿入時の警告のみ非表示

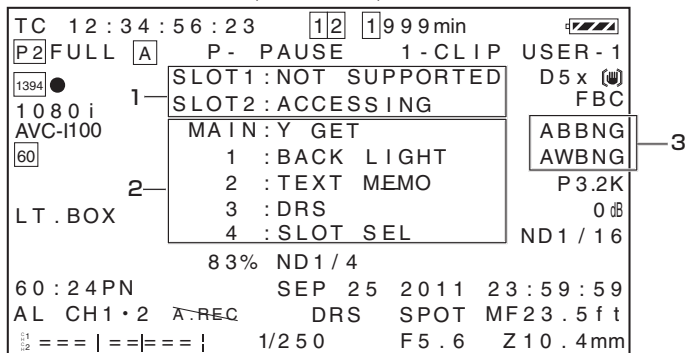
*2：タイムスタンプ表示 **[R]** が表示されているときは DISP/MODE CHK ボタンを押しても消えません。

画面の表示 (つづき)

モードチェック (MODE CHK) での表示

モードチェック (MODE CHK) ではほとんどの情報が表示されます。

下記の 1～3 については、モードチェック (MODE CHK) 時のみ表示されます。



1 P2 カードスロット状態表示

P2 カードスロット 1/2 の各状態を表示します。

ACTIVE :

READ/WRITE 可能なカード (記録対象含む)

ACCESSING :

現在 READ/WRITE 中のカード

INFO READING :

カードを認識中

FULL : 記録残容量がない P2 カード

PROTECTED :

ライトプロテクト状態の P2 カード

NOT SUPPORTED :

使用できないカード、認識できないカード

FORMAT ERROR :

正規のフォーマットがされていない P2 カード

NO CARD :

カードが挿入されていない

表示なし : USB DEVICE モード中

2 USER ボタンの割り当て情報表示

各 USER ボタンに割り当てられている機能の情報を表示します。

- 「USER ボタンの活用」 (➔ 39 ページ)

3 AWB、ABB 異常表示

AWB および ABB が正しく動作しなかったとき、モードチェック (MODE CHK) でその状態を表示します。

メニューの一覧

SCENE FILE 画面

項目	設定内容	備考
LOAD/SAVE/ INIT	現在のシーンダイヤル位置 (F1 ~ F6 のうちのひとつ) に割り付けられたシーンファイルの設定値を、読み出し、保存、初期化します。 LOAD: 本機内メモリーに保存したデータを読み出します。 SAVE: 本機内のメモリーに現在の値を保存します。 INITIAL: 工場出荷値に戻します。	<ul style="list-style-type: none"> 設定を変更しても、現在のシーンダイヤル位置以外のシーンファイルには影響はありません。 REC SIGNAL 項目が 1394 のときは、設定できません。 ワンクリップロックのクリップ連結継続中は、設定できません。
VFR	1080i および 720P でバリアブルフレームレート (VFR) モードの許可、禁止を設定します。 ON: VFR が動作します。 OFF: *1 VFR は動作しません。	<ul style="list-style-type: none"> システムモードが 480i/576i では表示されません。 REC SIGNAL 項目が 1394 のときは、設定できません。 1080i で DVCPRO HD 記録のときは CAMERA MODE が 60i、50i 以外の時は設定できません。
FRAME RATE	1080i および 720P で VFR 項目が ON のとき、撮影の間隔および露光時間を切り替えます。 <ul style="list-style-type: none"> 1080-59.94i: 1、2、4、6、9、12、15、18、20、21、22、24、25、26、27、28、<u>30</u> FRAME 1080-50i: 1、2、4、6、9、12、15、18、20、21、22、23、24、<u>25</u> FRAME 720-59.94P: 1、2、4、6、9、12、15、18、20、21、22、24、25、26、27、28、30、32、34、36、40、44、48、54、<u>60</u> FRAME 720-50P: 1、2、4、6、9、12、15、18、20、21、22、23、24、25、26、27、28、30、32、34、37、42、45、48、<u>50</u> FRAME 	<ul style="list-style-type: none"> VFR 項目が ON のときのみ設定できます。 REC SIGNAL 項目が 1394 のときは、設定できません。 24 フレームに切り替えたとき、画面が一瞬乱れる場合があります。
SYNC SCAN TYPE	シンクロスキャンシャッターの表示を選択します。 sec: シャッタースピードを分数で表示します。 deg: シャッターの開角度の目安を表示します。	<ul style="list-style-type: none"> 設定を切り替えたとき、明るさが変わる場合があります。
(SYNCHRO SCAN)	テレビ画面を撮影するときなどに使用するシンクロスキャンシャッターのスピードを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ここでは表示のみ行います。設定は、SHTR/F.RATE ダイヤルで行ってください。 設定された値 (表示される値) は、現在のシーンファイルに割り当てられ LOAD/SAVE/INIT 項目の対象となります。 [SYNCHRO SCAN の設定の仕方] (→ 50 ページ) 1/60.0	<ul style="list-style-type: none"> シンクロスキャンモードに設定されていない場合は、青色で表示されます。また、SHTR/F.RATE ダイヤルでの設定もできません。
DETAIL LEVEL	画像の輪郭補正 (水平垂直の両方向) の強弱の調整を行います。 -7 ...Q*1... +7	
V DETAIL LEVEL	画像垂直方向の輪郭補正の強弱の調整を行います。 -7 ...Q*1... +7	

*1: SENCE FILE ダイヤルが F1 の場合の工場出荷値です。
 ____ は工場出荷値です。

メニューの一覧 (つづき)

SCENE FILE 画面 (つづき)

項目	設定内容	備考
DETAIL CORING	ディテール信号のノイズを除去するレベルを調整します。 -7 ... 0 *1... +7 ・ -方向にすると鮮明な画像になりますが、ノイズも多少増えます。 ・ +方向にするとノイズが少なくなります。	
CHROMA LEVEL	クロマレベルの調整を行います。 -7 ... 0 *1... +7	
CHROMA PHASE	クロマ位相の微調整を行います。 -7 ... 0 *1... +7	
COLOR TEMP Ach	色温度の微調整 (ホワイトバランス Ach の調整を行った後の微調整) を行います。 -7 ... 0 *1... +7	
COLOR TEMP Bch	色温度の微調整 (ホワイトバランス Bch の調整を行った後の微調整) を行います。 -7 ... 0 *1... +7	
MASTER PED	映像の基準とする黒のマスターペダスタルの調整を行います。 - 100 ... +15 *1... +100	・ OPERATION レバーを ▲ ▼ 方向に倒した状態を続けると、値が早く変化します。
A. IRIS LEVEL	AUTO IRIS 目標値の設定を行います。 - 10 ... 0 *1... +10	
DRS	DRS (ダイナミックレンジストレッチャー) 機能を、動作させるかどうかを設定します。 ON, OFF*1	・ 1080i でご使用の場合、24P、30P、25P、および VFR (パルアップフレームレート) で撮影しているときは、設定できません。
DRS EFFECT	DRS (ダイナミックレンジストレッチャー) 機能の高輝度部の圧縮レベルを設定します。 通常の撮影では白飛びする高輝度な部分の映像信号レベルを圧縮することにより、ダイナミックレンジを拡大することができます。 1、2、3*1 ・ 数値が大きいくほど、高輝度部の圧縮レベルが大きくなり、暗部のノイズも大きくなります。	
GAMMA	ガンマカーブを選択します。 HD NORM:*1 HD 撮影に適したガンマ設定です。 LOW: 低輝度部の傾きがゆるやかなガンマカーブを使用して、落ち着きのある映像にします。 SD NORM: DVX100 シリーズを継承した通常の映像設定です。 HIGH: 低輝度部の傾きが急なガンマカーブを使用して、暗い部分の階調を広げて明るい感覚の映像にします。コントラストはソフトになります。 B.PRESS: LOW よりコントラストをよりシャープにします。 CINELIKE D: 映画感覚の映像に仕上げるガンマカーブを使用します。 CINELIKE V: コントラスト重視の映画感覚の映像に仕上げるガンマカーブを使用します。 ・ CINE-LIKE ガンマを選択したときは、その特徴を十分に活かすために、レンズ絞りは通常の映像レベルより低く (約 1/2) することをお勧めします。	・ DRS が動作中は、設定を変更しても映像は変化しません。

*1: SENCE FILE ダイアルが F1 の場合の工場出荷値です。

____ は工場出荷値です。

SCENE FILE 画面 (つづき)

項目	設定内容	備考
KNEE	白飛びを抑えるために、MOS センサーが受光した高輝度の映像信号を圧縮するレベル(ニーポイント)を設定します。 AUTO: *1 受光した信号に応じて自動で設定します。 HIGH: 高めの設定(約 100 % から圧縮を開始) MID: 中間の設定(約 90 % から圧縮を開始) LOW: 低めの設定(約 80 % から圧縮を開始)	• DRS が動作中は、設定を変更しても映像は変化しません。
MATRIX	マトリックステーブルを選択して、撮影時の色を表現します。 NORM 1: *1 屋外やハロゲンランプの光源で撮影を行うときに適した色を表現します。 NORM 2: NORM1 より鮮やかな色を表現します。 FLUO: 蛍光灯下の屋内で撮影を行うときに適した色を表現します。 CINE-LIKE: 映画感覚の撮影を行うときに適した色を表現します。	
SKIN TONE DTL	肌色ディテールの ON/OFF を切り替えます。 ON にすると、肌色部分のディテールが減少し、肌のざらざら感を少なくします。 ON *1、 OFF	
V DETAIL FREQ	垂直方向のディテールを設定します。 THIN: *1 ディテールを細くします。 MID: ディテールを少し太くします。 THICK: ディテールを太くします。 • THIN や MID に設定してプログレッシブモードで撮影した映像を、通常のモニターテレビ(60i(50i):インターレース)で再生した場合、水平の線や水平に近い斜めの線に、ちらつき感が生じます。プログレッシブの環境で再生する場合や、編集などの後処理を行う場合は、THIN や MID に設定することで、THICK に設定したときよりも高解像度の映像が得られます。	
NAME EDIT	SCENE FILE ダイアルで選択されているシーンファイルの名前を編集します。	

*1: SENCE FILE ダイアルが F1 の場合の工場出荷値です。
___ は工場出荷値です。

SYSTEM SETUP 画面

項目	設定内容	備考
SYSTEM MODE	<p>本機の信号フォーマットを設定します。</p> <p>1080-59.94i、1080-50i、720-59.94P、720-50P、480-59.94i、576-50i</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定を変更すると「TURN POWER OFF」と表示されます。一度本機の電源をOFFにし、再度電源をONにしてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ワンクリップレックのクリップ連結継続中は、設定できません。
REC SIGNAL	<p>DVCPRO フォーマット時に、入力信号を選択します。</p> <p>CAMERA : 本機のカメラ撮影信号を記録します。</p> <p>1394 : DVCPRO/DV 端子の入力信号を記録します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電源をONにしたときは、常にCAMERAに設定されます。 	<ul style="list-style-type: none"> REC FORMAT 項目が AVC-Intra や DVCPROHD の Native 記録のときは、設定できません。 ワンクリップレックのクリップ連結継続中は、設定できません。
REC FORMAT	<p>記録のコーデック、および撮影と記録のモードを選択します。</p> <p>■ SYSTEM MODE が 1080-59.94i の場合</p> <p>AVC-I100/60i、AVC-I100/30PN、AVC-I100/24PN : AVC-I 100 コーデックで記録します。撮影・記録はそれぞれ 60i、30PN (Native 記録)、24PN (Native 記録) となります。</p> <p>AVC-I 50/60i、AVC-I 50/30PN、AVC-I 50/24PN : AVC-I50 コーデックで記録します。撮影・記録はそれぞれ 60i、30PN (Native 記録)、24PN (Native 記録) となります。</p> <p>DVCPROHD/60i : DVCPRO HD コーデックで記録します。撮影モードは CAMERA MODE 項目で設定できます。記録は 60i 固定です。</p> <p>■ SYSTEM MODE が 1080-50i の場合</p> <p>AVC-I100/50i、AVC-I100/25PN : AVC-I 100 コーデックで記録します。撮影・記録はそれぞれ 50i、25PN (Native 記録) となります。</p> <p>AVC-I 50/50i、AVC-I 50/25PN : AVC-I50 コーデックで記録します。撮影・記録はそれぞれ 50i、25PN (Native 記録) となります。</p> <p>DVCPROHD/50i : DVCPRO HD コーデックで記録します。撮影モードは CAMERA MODE 項目で選択できます。記録は 50i 固定です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> SYSTEM MODE 項目が 1080i または 720P で、REC SIGNAL が 1394 のときは、設定できません。 ワンクリップレックのクリップ連結継続中は、設定できません。

___ は工場出荷値です。

SYSTEM SETUP 画面 (つづき)

項目	設定内容	備考
REC FORMAT (つづき)	<p>■ SYSTEM MODE が 720-59.94P の場合 AVC-I100/60P、AVC-I100/30PN、 AVC-I100/24PN: AVC-I 100 コーデックで記録します。撮影・記録はそれぞれ 60P、30PN (Native 記録)、24PN (Native 記録) となります。</p> <p>AVC-I 50/60P、AVC-I 50/30PN、 AVC-I 50/24PN: AVC-I50 コーデックで記録します。撮影・記録はそれぞれ 60P、30PN (Native 記録)、24PN (Native 記録) となります。</p> <p>DVCPROHD/60P、DVCPROHD/30PN、 DVCPROHD/24PN: DVCPRO HD コーデックで記録します。撮影・記録はそれぞれ 60P、30PN (Native 記録)、24PN (Native 記録) となります。</p> <p>■ SYSTEM MODE が 720-50P の場合 AVC-I100/50P、AVC-I100/25PN: AVC-I 100 コーデックで記録します。撮影・記録はそれぞれ 50P、25PN (Native 記録) となります。</p> <p>AVC-I 50/50P、AVC-I 50/25PN: AVC-I50 コーデックで記録します。撮影・記録はそれぞれ 50P、25PN (Native 記録) となります。</p> <p>DVCPROHD/50P、DVCPROHD/25PN: DVCPRO HD コーデックで記録します。撮影・記録はそれぞれ 50P、25PN (Native 記録) となります。</p> <p>■ SYSTEM MODE が 480-59.94i の場合 DVCPRO50/60i、DVCPRO/60i、DV/60i: それぞれ DVCPRO50、DVCPRO、DV の コーデックで記録します。撮影モードは CAMERA MODE 項目で選択できます。記録は 60i 固定です。</p> <p>■ SYSTEM MODE が 576-50i の場合 DVCPRO50/50i、DVCPRO/50i、DV/50i: それぞれ DVCPRO50、DVCPRO、DV の コーデックで記録します。撮影モードは CAMERA MODE 項目で選択できます。記録は 50i 固定です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> SYSTEM MODE 項目が 1080i または 720P で、REC SIGNAL が 1394 のときは、設定できません。 ワンクリップレックのクリップ連結継続中は、設定できません。
CAMERA MODE	<p>1080i の DVCPRO HD コーデックおよび SD モードのときのカメラ撮影モードを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1080-59.94i、480-59.94i のとき 60i、30P、24P、24PA 1080-50i、576-50i のとき 50i、25P 	<ul style="list-style-type: none"> SYSTEM MODE 項目が 720P に設定されているときは表示されません。 以下の場合は、設定できません。 <ul style="list-style-type: none"> REC SIGNAL 項目が 1394 に設定されているとき SYSTEM MODE 項目が 1080i で、REC FORMAT 項目が AVC-Intra コーデック または VFR 項目が ON のとき ワンクリップレックのクリップ連結継続中のとき
SCAN REVERSE	<p>画像の上下左右が反転するスキャンリバーズ撮影機能の ON/OFF を設定します。(→ 35 ページ) ON、OFF</p>	

____ は工場出荷値です。

メニューの一覧 (つづき)

SYSTEM SETUP 画面 (つづき)

項目	設定内容	備考
ASPECT CONV	480i、576i で記録する映像のアスペクト比を選択します。 SIDE CROP: サイドクロップ (左右両端をカットします) LETTER BOX: レターボックス (上下に黒い帯を追加します) SQUEEZE: スクイーズ (水平方向に圧縮します)	<ul style="list-style-type: none"> SYSTEM MODE 項目が 1080i、720P のときは、設定できません。 ワンクリップレックのクリップ連結継続中は、設定できません。
SETUP	480i 映像信号のセットアップレベルを設定します。 0%: 出力、記録信号ともセットアップ 0% になります。 7.5% A: 出力信号はセットアップ 7.5 %、記録信号はセットアップ 0 % になります。	<ul style="list-style-type: none"> 1080-50i、720-50P、576-50i では、表示されません。
PC MODE SELECT	外部機器を USB 接続したときの本機の PC MODE 動作を設定します。 USB HOST: 外部ハードディスクドライブを本機に USB2.0 で接続して使用するモードを選択します。(→ 111 ページ) USB DEVICE: パーソナルコンピューターなどに本機を USB2.0 で接続して、P2 カードをマストレージとして使用するモードを選択します。(→ 109 ページ)	

___ は工場出荷値です。

SW MODE 画面

項目	設定内容	備考
LOW GAIN	GAIN スイッチの L 位置に割り当てるゲイン値を設定します。 0dB、3dB、6dB、9dB、12dB、15dB、18dB	<ul style="list-style-type: none"> VFR 時、フレームレートを 4FRAME 以下に設定しているときは、0 dB 固定動作となります。
MID GAIN	GAIN スイッチの M 位置に割り当てるゲイン値を設定します。 0dB、3dB、6dB、9dB、12dB、15dB、18dB	<ul style="list-style-type: none"> VFR 時、フレームレートを 4FRAME 以下に設定しているときは、0 dB 固定動作となります。
HIGH GAIN	GAIN スイッチの H 位置に割り当てるゲイン値を設定します。 0dB、3dB、6dB、9dB、12dB、15dB、18dB	<ul style="list-style-type: none"> VFR 時、フレームレートを 4FRAME 以下に設定しているときは、0 dB 固定動作となります。
SUPER GAIN	USER ボタンに割り当てるスーパーゲインを設定します。 24dB、30dB BOTH: 押すたびに 24dB → 30dB → OFF のように切り替わりません。	<ul style="list-style-type: none"> VFR 時、フレームレートを 4FRAME 以下に設定しているときは、0 dB 固定動作となります。
ATW	ATW (自動追尾式ホワイトバランス) 機能を、WHITE BAL スイッチに割り当てることができます。(→ 33 ページ) Bch: WHITE BAL スイッチを B 位置にしたときに、ATW 機能を動作させます。 OFF: WHITE BAL スイッチには ATW 機能を割り付けません。	<ul style="list-style-type: none"> WHITE BAL スイッチを B 位置にしてこのメニューを Bch に設定しているとき、ATW を割り当てた USER ボタンを押しても、ATW 動作を OFF にすることはできません。 VFR 時、フレームレートを 4FRAME 以下に設定しているときは、ATW は動作しません。
HANDLE ZOOM	HANDLE ZOOM スイッチの各位置に割り当てる、ズームスピードを設定します。 L/OFF/H: 1/2/3 の各位置に、LOW (低速) /OFF/HIGH (高速) を設定します。(OFF は、ズーム動作を行いません。) L/M/H: 1/2/3 の各位置に、LOW (低速) /MID (中速) /HIGH (高速) を設定します。 L/OFF/M: 1/2/3 の各位置に、LOW (低速) /OFF/MID (中速) を設定します。(OFF は、ズーム動作を行いません。)	
W.BAL.PRESET	WHITE BAL スイッチの PRST 位置に割り当てる色温度を設定します。 3.2K、5.6K	

____ は工場出荷値です。

メニューの一覧 (つづき)

SW MODE 画面 (つづき)

項目	設定内容	備考
USER MAIN	USER MAIN ボタンに割り当てる機能を設定します。 SPOTLIGHT、BACKLIGHT、ATW、ATWLOCK、 S.GAIN、D.ZOOM、Y GET、DRS、TEXT MEMO、 SLOT SEL、SHOT MARK、MAG A. LVL、 LVL METER、PRE REC、WFM、LAST CLIP、 FBC、LCD B.L 「USER ボタンの活用」(→ 39 ページ)	
USER1	USER1 ボタンに割り当てる機能を設定します。 設定内容は USER MAIN 項目と同じです。 BACKLIGHT (工場出荷時の設定) 「USER ボタンの活用」(→ 39 ページ)	
USER2	USER2 ボタンに割り当てる機能を設定します。 設定内容は USER MAIN 項目と同じです。 TEXT MEMO (工場出荷時の設定) 「USER ボタンの活用」(→ 39 ページ)	
USER3	USER3 ボタンに割り当てる機能を設定します。 設定内容は USER MAIN 項目と同じです。 DRS (工場出荷時の設定) 「USER ボタンの活用」(→ 39 ページ)	
USER4	USER4 ボタンに割り当てる機能を設定します。 設定内容は USER MAIN 項目と同じです。 SLOT SEL 「USER ボタンの活用」(→ 39 ページ)	
MF ASSIST	マニュアルフォーカスモードの時、最後のフォーカスを自動で合わせます。 ON: 最後のフォーカスを自動で合わせます。 ・フォーカスのずれが大き場合は、フォーカスが合わないことがあります。 ・CAM REMOTE ジャックに接続されたリモコンの操作では動作しません。 OFF: フォーカスの自動動作を行いません。	
FOCUS ASSIST	FOCUS ASSIST ボタンに割り当てる機能を設定します。 IN RED: 映像の輪郭部分が赤色でふち取られます。 EXPAND: 液晶モニター画面中央部が拡大表示されます。	
WFM	WFM ボタンを押したときに、液晶モニターに表示するウェーブフォームの種類を選択します。 WAVE: 波形で表示します。 VECTOR: ベクトルで表示 WAVE/VECT: ボタンを押すごとに、OFF → WAVE(波形) → VECTOR(ベクトル) → OFF の順に切り替わります。	

___ は工場出荷値です。

AUTO SW 画面

項目	設定内容	備考
A.IRIS	<p>ON: オートモードの時に、オートアイリス制御の動作を行います。この時 IRIS ボタンは機能しません。</p> <p>OFF: オートモードの時に、オートアイリス制御の動作を行いません。IRIS ボタンで選択されているアイリス制御の動作を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • VFR 時、フレームレートを 4FRAME 以下に設定しているときは、オート動作はオフになります。
AGC	<p>A.IRIS 項目で ON が選択された時のオートゲイン制御の動作を設定します。</p> <p>6dB: オートモードの時に、最大 6 dB のオートゲイン制御を行います。</p> <p>12dB: オートモードの時に、最大 12 dB のオートゲイン制御を行います。</p> <p>18dB: オートモードの時に、最大 18 dB のオートゲイン制御を行います。</p> <p>OFF: オートモードの時に、オートゲイン制御を行いません。GAIN スイッチで選択されているゲイン制御の動作を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • A.IRIS 項目が OFF のときは設定できません。 • VFR 時、フレームレートを 4FRAME 以下に設定しているときは、オート動作はオフになります。 • S.GAIN を割り当てた USER ボタンを押して 24 dB または 30 dB に設定したときは、AGC は動作しません。
ATW	<p>ON: オートモードの時に、ATW(自動追尾式のホワイトバランス)機能が働きます。この時 WHITE BAL スイッチや USER ボタンでは、ATW 機能動作の ON/OFF を行うことができません。ただし、USER ボタンに ATWLOCK を割り当てている時は、USER ボタンでホワイトバランスの値を固定することができます。</p> <p>OFF: オートモードの時に、ATW 機能動作を行いません。WHITE BAL スイッチで選択されているホワイトバランス機能動作を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • VFR 時、フレームレートを 4FRAME 以下に設定しているときは、オート動作はオフになります。
AF	<p>ON: オートモードの時に、オートフォーカスの動作を行います。この時 FOCUS スイッチは機能しません。</p> <p>OFF: オートモードの時に、オートフォーカスの動作を行いません。FOCUS スイッチや PUSH AUTO ボタンで選択されているフォーカスの動作を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • VFR 時、フレームレートを 4FRAME 以下に設定しているときは、オート動作はオフになります。

____ は工場出荷値です。

RECORDING SETUP 画面

項目	設定内容	備考
REC FUNCTION	<p>特殊記録モードを設定します。</p> <p>NORMAL: 特殊記録を行いません。</p> <p>INTERVAL: インターバル記録を設定します。</p> <p>ONE SHOT: ワンショット記録を設定します。</p> <p>LOOP: ループレックを設定します。 「特殊な記録機能を使う」(→ 43 ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 電源を ON にした時は、常に NORMAL に設定されます。 	<ul style="list-style-type: none"> 以下の場合は、設定できません。 <ul style="list-style-type: none"> REC SIGNAL 項目が 1394 のとき REC FORMAT 項目で Native 記録を設定しているとき SYSTEM MODE 項目が 1080-59.94i または 480-59.94i で、CAMERA MODE 項目を 24P または 24PA に設定しているとき ワンクリップレックのクリップ連結継続中のとき VFR 項目が ON のとき
ONE SHOT TIME	<p>ワンショット記録の記録時間を設定します。</p> <p>1frm、2frm、4frm、8frm、16frm、1s</p> <p>「ワンショット記録 (ONE SHOT REC)」(→ 45 ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> REC FUNCTION 項目が ONE SHOT の場合のみ設定できます。
INTERVAL TIME	<p>インターバル記録を行うときのインターバル時間を設定します。</p> <p>2frm、4frm、8frm、16frm、1s、2s、5s、10s、30s、1min、5min、10min</p> <p>「インターバル記録 (INTERVAL REC)」(→ 44 ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> REC FUNCTION 項目が INTERVAL の場合のみ設定できます。
START DELAY	<p>インターバル記録、ワンショット記録での記録開始を約 1 秒遅延させます。</p> <p>ON、OFF</p>	<ul style="list-style-type: none"> REC FUNCTION 項目が INTERVAL または ONE SHOT の場合のみ設定できます。
PREREC MODE	<p>PRE REC を設定します。</p> <p>ON、OFF</p> <p>「プリレック (PRE REC)」(→ 44 ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 以下の場合は、設定できません。 <ul style="list-style-type: none"> REC SIGNAL 項目が 1394 のとき VFR 項目が ON のとき REC FORMAT 項目で Native 記録を設定しているとき SYSTEM MODE 項目が 1080-59.94i または 480-59.94i で、CAMERA MODE 項目を 24P または 24PA に設定しているとき REC FUNCTION 項目が NORMAL 以外のとき
TC MODE	<p>本機内蔵のタイムコードジェネレーターのカウンタ補正を設定します。</p> <p>DF: ドロップフレームモードでカウントします。</p> <p>NDF: ノンドロップフレームモードでカウントします。 「タイムコードの設定」(→ 66 ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1080-50i、720-50P、576-50i では、表示されません。 24P、24PA、24PN で動作しているときは、設定できません。常に NDF でカウントします。

___ は工場出荷値です。

RECORDING SETUP 画面 (つづき)

項目	設定内容	備考
TCG	内部タイムコードジェネレーターを歩進させる動作モードを設定します。 FREE RUN: 動作モードに関係なく歩進させます。 ・ Native 記録の VFR モードで、撮影と記録のフレーム数が異なる場合は、タイムコードは REC RUN 動作となります。 REC RUN: 記録中の時に歩進させます。	
TC PRESET	記録するタイムコードの初期値を設定します。 ・ 撮影記録を 24P、24PA、24PN に設定している時は、フレームの値を、0 または、5 の倍数に設定してください。他の値の場合、記録するタイムコードがずれます。	
UB MODE	本機のユーザズビットに記録する内容を設定します。 USER, TIME, DATE, EXT, TCG, FRM. RATE 「ユーザズビットの設定」(→ 62 ページ)	
UB PRESET	ユーザズビットを設定します。ただし、UB MODE 項目で USER を選択している必要があります。	
ONE CLIP REC	ワンクリップレックモードを設定します。 ON, OFF 「ワンクリップレック (ONE CLIP REC)」(→ 47 ページ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以下の場合は設定できません。 <ul style="list-style-type: none"> ・ REC FUNCTION 項目が NORMAL 以外のとき ・ REC SIGNAL 項目が 1394 のとき ・ VFR 項目が ON のとき
START TEXT MEMO	記録開始するたびに、自動的に記録開始位置にテキストメモを付加する機能を設定します。 ON, OFF	<ul style="list-style-type: none"> ・ REC FUNCTION 項目が NORMAL 以外のときは、設定できません。 ・ この項目を ON にして付加されるテキストメモは、記録開始位置を示すものです。テキストメモを文字情報として記録する場合は、「クリップメタデータの設定」(→ 87 ページ)をご参照ください。
TIME STAMP	撮影した映像に DATE/TIME 情報を重畳する機能を設定します。 ON: DATE/TIME 項目で設定されている情報を映像に重畳します。 OFF: DATE/TIME 項目で設定されている情報を映像に重畳しません。 <ノート> 設定メニュー DISPLAY SETUP 画面の DATE/TIME 項目が OFF に設定されている場合は、DATE/TIME 情報を重畳しません。	

____ は工場出荷値です。

メニューの一覧 (つづき)

AUDIO SETUP 画面

項目	設定内容	備考
LIMITER CH1	CH1 のリミッタを設定します。 ON 、 OFF	・ AUDIO AUTO/MANU CH1 スイッチが AUTO の場合は、自動調整モードになるため、この項目の設定には関係なくリミッタは、動作しません。
LIMITER CH2	CH2 のリミッタを設定します。 ON 、 OFF	・ AUDIO AUTO/MANU CH2 スイッチが AUTO の場合は、自動調整モードになるため、この項目の設定には関係なくリミッタは、動作しません。
LIMITER CH3	CH3 のリミッタを設定します。 ON 、 OFF	・ AUTO LEVEL CH3 項目が ON の場合は、自動調整モードになるため、この項目は無効となりリミッタは、動作しません。
LIMITER CH4	CH4 のリミッタを設定します。 ON 、 OFF	・ AUTO LEVEL CH4 項目が ON の場合は、自動調整モードになるため、この項目は無効となりリミッタは、動作しません。
AUTO LEVEL CH3	CH3 のレベル設定方法を選択します。 ON ： 自動調整モードになります。(リミッタは、動作しません) OFF ： レベルは固定になります。	
AUTO LEVEL CH4	CH4 のレベル設定方法を選択します。 設定内容は、AUTO LEVEL CH3 と同じです。 ON 、 OFF	
25M REC CH SEL	DVCPRO、および DV フォーマット時、記録するオーディオチャンネル数を選択します。 2CH ： CH1、CH2 のみを記録します。 4CH ： 4 チャンネルすべてを記録します。	・ 以下の場合は、設定できません。 ・ SYSTEM MODE 項目が 1080i-59.94i (50i) または 720-59.94P (50P) のとき ・ SYSTEM MODE 項目が 480-59.94i、576-50i で、REC FORMAT 項目が DVCPRO50 コーデックのとき ・ REC SIGNAL 項目が 1394 のとき (1394 の入力状態に従います。) ・ ワンクリップレックのクリップ連結継続中のとき
TEST TONE	テスト信号を選択します。 LEVEL1 ： カラーバー出力時に、1 kHz のテストトーンを出力します。 LEVEL2 ： 同上のテストトーンを LEVEL 1 より小さい音量で出力しません。 OFF ： テストトーンは出力しません。	
INT MIC	音声記録時の内蔵マイクの入力設定を切り替えます。 ON ： 内蔵マイクを使用します。 OFF ： 内蔵マイクを使用しません。	

___ は工場出荷値です。

AUDIO SETUP 画面 (つづき)

項目	設定内容	備考
MIC GAIN1	AUDIO INPUT1 端子に接続する外部マイクのレベルを設定します。 - 40dB、- 50dB、- 60dB	
MIC GAIN2	AUDIO INPUT2 端子に接続する外部マイクのレベルを設定します。 - 40dB、- 50dB、- 60dB	
1394 AUDIO OUT	DVCPRO または DV モードで 1394OUT に出力する AUDIO チャンネルを選択します。 CH1/CH2、CH3/CH4	<ul style="list-style-type: none"> • SYSTEM MODE 項目が 480-59.94i、576-50i で REC FORMAT 項目が DVCPRO または DV の場合のみ設定できます。
AUDIO OUT	P2 カードを再生した時に、AUDIO OUT 端子 (ピンジャック)、HDMI OUT 端子、ヘッドフォン端子、および内蔵スピーカーから出力する音声信号を設定します。 CH1/CH2: CH1 端子 =CH1 信号、CH2 端子 =CH2 信号 CH1: CH1 端子 =CH1 信号、CH2 端子 =CH1 信号 CH2: CH1 端子 =CH2 信号、CH2 端子 =CH2 信号 CH3/CH4: CH1 端子 =CH3 信号、CH2 端子 =CH4 信号 CH3: CH1 端子 =CH3 信号、CH2 端子 =CH3 信号 CH4: CH1 端子 =CH4 信号、CH2 端子 =CH4 信号	

____ は工場出荷値です。

メニューの一覧 (つづき)

OUTPUT SEL 画面

項目	設定内容	備考
SDI & HDMI SELECT	SDI OUT と HDMI OUT 端子から出力される信号フォーマットの種類を設定します。 1080i/720P : SYSTEM MODE 項目の 1080i、720P の設定に従います。 1080i*1 : SYSTEM MODE 項目の設定が 720P でも 1080i で出力します。 DOWNCON : SD 信号にダウンコンバートして出力します。	• SYSTEM MODE 項目が 480-59.94i、576-50i の場合は、設定できません。
SDI & HDMI CHAR	SDI OUT と HDMI OUT 端子の出力映像にキャラクタを重畳するかどうかを選択します。 ON、OFF	
SDI OUT	SDI OUT 端子からの映像出力を設定します。 ON : SDI OUT 端子から映像が出力されます。 OFF : SDI OUT 端子から映像が出力されません。	
SDI METADATA	SDI OUT のメタデータ重畳を設定します。 ON : UMID を重畳します。 OFF : メタデータを重畳しません。 EXPANDED : UMID とクリップメタデータなどを重畳します。	
SDI EDH	SDI OUT が SD 信号 (480i、576i) のとき、EDH の重畳を設定します。 ON : EDH を重畳します。 OFF : EDH を重畳しません。	
DOWNCON MODE	HD モード (1080i、720P) のとき、ダウンコンバート出力 (VIDEO OUT および SDI OUT の DOWNCON) のモードを設定します。 SIDE CROP、LETTER BOX、SQUEEZE	• SYSTEM MODE 項目が 480-59.94i、576-50i の場合は、設定できません。
VIDEO OUT CHAR	VIDEO OUT にキャラクターを重畳するかどうかを選択します。 ON : キャラクターを重畳します。 OFF : キャラクターを重畳しません。	
VIDEO OUT ZEBRA	VIDEO OUT にゼブラパターンを重畳するかどうかを選択します。 ON : VIDEO OUT 端子からの映像にもゼブラパターンを表示します。 OFF : VIDEO OUT 端子からの映像にはゼブラパターンは表示されません。	
TC IN/OUT SEL	TC IN/OUT 端子を入力 (TC IN)、出力 (TC OUT) のどちらで使用するかを選択します。 TC OUT、TC IN	

*1: SYSTEM MODE 項目が 720-59.94P (50P) で 1080i を選択した場合は、映像確認用としてご

使用ください。

___ は工場出荷値です。

OUTPUT SEL 画面 (つづき)

項目	設定内容	備考
TC OUT	<p>TC IN/OUT 端子を TC OUT として使用するとき、出力されるタイムコードの種類を設定します。</p> <p>TCG : 常に本機のタイムコードジェネレーターの値を出力します。</p> <p>TCG/TCR : カメラ映像出力時はタイムコードジェネレーター値を、再生映像出力時は、再生されたタイムコード値を出力します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> TC IN/OUT SEL 項目が TC IN のときは、設定できません。
TC VIDEO SYNC	<p>TC IN/OUT 端子を TC OUT として使用するとき、出力されるタイムコードの出力遅延を設定します。</p> <p>RECORDING : 本機の記録タイムコードを遅延なしに出力します。本機のタイムコードをマスターにして 2 台で同時撮りするとき 사용합니다。</p> <p>VIDEO OUT : VIDEO OUT 端子の出力映像の遅延に合わせて出力します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> TC IN/OUT SEL 項目が TC IN のときは、設定できません。

____ は工場出荷値です。

メニューの一覧 (つづき)

DISPLAY SETUP 画面

項目	設定内容	備考
EVF PEAK LEVEL	ビューファインダーおよび液晶モニターのピーキングレベルを調整します。 -7...0...+7	
EVF PEAK FREQ	ビューファインダーおよび液晶モニターのピーキング周波数を調整します。 HIGH 、 LOW	
EVF SETTING	ビューファインダーの輝度とコントラストをサブ画面で調整します。 (サブ画面) EVF BRIGHTNESS EVF CONTRAST	
EVF B. LIGHT	ビューファインダーのバックライトの明るさを調整します。 HIGH 、 NORMAL 、 LOW	
EVF COLOR	ビューファインダーの映像をカラーで表示するか、白黒で表示するかを選択します。 ON : カラーで表示します。 OFF : 白黒で表示します。	
EVF MODE	液晶モニターを開いているとき、ビューファインダーを自動的にオフにするかどうかを設定します。 AUTO : 自動的にオフになります。 ON : ビューファインダーは常に動作します。 ただし、SDI OUT 設定を「OFF」にしているときに限ります。 「SDI OUT」 (→ 144 ページ)	
ZEBRA 1 DETECT	右側に傾いたゼブラパターン 1 のレベルを設定します。 50% ... 70% ... 109%	
ZEBRA2 DETECT	左側に傾いたゼブラパターン 2 のレベルを設定します。 50% ... 85% ... 109%	
ZEBRA2	ZEBRA2 のタイプを選択します。(→ 35 ページ) ON 、 SPOT 、 OFF	
MARKER	ビューファインダーと液晶モニターに表示するセンターマーカーの ON/OFF を設定します。(→ 36 ページ) ON 、 OFF	
SAFETY ZONE	ビューファインダーと液晶モニターに表示するセーフティゾーンマーカーを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • HD (1080i、720P) のとき <ul style="list-style-type: none"> 90% : 16:9 の 90% 表示 4:3 : 4:3 の 100% 表示 14:9 : 14:9 の 100% 表示 (16:9 と 4:3 の中間サイズ) 1.85:1 : 1.85:1 の 100% 表示 (アメリカンビスタの範囲) 2:1 : 2:1 の 100% 表示 (スコープサイズの範囲) 2.35:1 : 2.35:1 の 100% 表示 (シネマスコープの範囲) 2.39:1 : 2.39:1 の 100% 表示 OFF : セーフティマーカーゾーンを表示しません。 • SD (480i、576i) のとき <ul style="list-style-type: none"> 90% : 16:9 の 90% 表示 4:3 : 4:3 の 100% 表示 13:9 : 13:9 の 100% 表示 14:9 : 14:9 の 100% 表示 OFF : セーフティマーカーゾーンを表示しません。 	<ul style="list-style-type: none"> • SYSTEM MODE 項目が 480-59.94i、576-50i で、ASPECT CONV 項目が SIDE CROP または LETTER BOX のときは、4:3、13:9、14:9 を選択してもセーフティゾーンマーカーは表示されません。

____ は工場出荷値です。

DISPLAY SETUP 画面 (つづき)

項目	設定内容	備考
FOCUS BAR	フォーカスの合っている度合いをバーの大きさで表示する機能を設定します。 ON: フォーカスバーを表示します。 OFF: フォーカスバーを表示しません。	• FOCUS ASSIST ボタンには連動しません。
LCD SETTING	液晶モニターに表示する映像のカラーレベル、輝度、コントラストをサブ画面で調整できます。 (サブ画面) LCD COLOR LEVEL LCD BRIGHTNESS LCD CONTRAST	
SELF SHOOT	対面撮影を行うときの液晶モニター画面の表示を設定します。 NORMAL: 左右を反転しません。 MIRROR: 左右を反転して表示します。 • MIRROR に設定したときは、対面撮影時液晶モニターの状態表示はされません。	
LCD BACKLIGHT	液晶モニターのバックライトの明るさを調整します。 +1、0、-1、-2、-3 +1: 通常よりも明るくなります。 -3: もっとも暗くなります。	
DATE/TIME	日付と時間の表示を設定します。 TIME: 時、分、秒を表示します。 DATE: 年、月、日を表示します。 TIME&DATE: 時、分、秒と年、月、日を表示します。 OFF: 表示しません。	
LEVEL METER	オーディオレベルメーターの表示を設定します。 ON、OFF	
ZOOM・FOCUS	ズーム値とフォーカス値の単位表示を切り替えます。 OFF、NUMBER、mm/feet、mm/m <ノート> mm/feet 表示、mm/m 表示には誤差がありますので目安としてお使いください。	
CARD& BATTERY	P2 カードの残量とバッテリーの残量の表示を設定します。 ON、OFF	
P2CARD REMAIN	P2 カードの記録残量表示の種類を選択します。 ONE-CARD: 現在記録しているカードの残量を表示します。 TOTAL: 2 枚の合計残量を表示します。	

____ は工場出荷値です。

メニューの一覧 (つづき)

DISPLAY SETUP 画面 (つづき)

項目	設定内容	備考
OTHER DISPLAY	その他の情報表示を設定します。 PARTIAL: 一部の情報を表示します。 ALL: 全ての情報を表示します。 OFF: 表示しません。	
MENU BACK	設定メニューを表示中、バックグラウンドの透過率を下げ、文字を際立たせるかどうかを選択します。 ON: バックグラウンド透過率を下げます。(ただし LCD SETTING、EVF SETTING のサブ画面は透過率は上がりません) OFF: バックグラウンド透過率は上がりません。	
REC COUNTER	記録時のカウンターの動作を設定します。 TOTAL: COUNTER RESET ボタンでリセットするまで積算してカウントを続けます。 CLIP: 記録開始時にカウント値をクリアし、撮影単位の時間をカウントします。	

___ は工場出荷値です。

CARD FUNCTIONS 画面

項目	設定内容	備考
SCENE FILE	<p>SDメモリーカードへシーンファイルの読み書きをします。</p> <p>FILE SELECT : シーンファイル (1 ~ 4) を選択します。</p> <p>READ : SDメモリーカードに保存されたシーンファイル (1 ~ 4) の設定値を選択して読み出します。</p> <p>WRITE : SDメモリーカードに現在のシーンファイル (1 ~ 4) の設定値を保存します。</p> <p>TITLE RELOAD : タイトル一覧を更新します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> REC SIGNAL 項目が 1394 のときは、設定できません。 ワンクリップレックのクリップ連結継続中は、設定できません。
USER FILE	<p>SDメモリーカードへユーザーファイル (SCENE FILE 以外の項目) の読み書きをします。</p> <p>FILE SELECT : ユーザーファイル (1 ~ 4) を選択します。</p> <p>READ : SDメモリーカードに保存されたユーザーファイル (1 ~ 4) の設定値を読み出します。</p> <p>WRITE : SDメモリーカードに現在のユーザーファイル (1 ~ 4) の設定値を保存します。</p> <p>TITLE RELOAD : タイトル一覧を更新します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> REC SIGNAL 項目が 1394 のときは、設定できません。 ワンクリップレックのクリップ連結継続中は、設定できません。
SD CARD FORMAT	SDメモリーカードをフォーマットします。	<ul style="list-style-type: none"> ワンクリップレックのクリップ連結継続中は、設定できません。

メニューの一覧 (つづき)

OTHER FUNCTIONS 画面

項目	設定内容	備考
USER FILE	本機内部のメモリーに対し、ユーザーファイルの保存、読み出し、初期化を行います。(→ 60 ページ) LOAD、SAVE、INITIAL ・SCENE FILE 画面の項目には影響を与えません。	<ul style="list-style-type: none"> REC SIGNAL 項目が 1394 のときは、設定できません。 ワンクリップロックのクリップ連結継続中のときは、設定できません。
REMOTE	付属のワイヤレスリモコンでの操作を設定します。 「リモコンの設定」(→ Vol. 1 の 23 ページ) OFF: リモコンでの操作を受け付けません。 1: 動作モード 1 用に設定されたリモコンでの操作を受け付けます。 2: 動作モード 2 用に設定されたリモコンでの操作を受け付けます。	
1394 CONTROL	本機から DVCPRO/DV 端子に接続された外部機器を制御する場合の制御方法を設定します。(→ 106 ページ) EXT: 外部機器のみ制御し、本機への記録は行いません。 BOTH: 外部機器と本機の両方を制御し、同時記録を行います。 CHAIN: 本機の記録残量が終端付近になると自動的に外部機器に記録を行います。 OFF: 制御しません。	<ul style="list-style-type: none"> AVC-Intra モード、および DVCPRO HD の Native モードでは、設定できません。 インターバル記録、ワンショット記録、ループロックのときは、設定できません。
1394 CMD SEL	本機から DVCPRO/DV 端子に接続された外部機器を制御する場合の、外部機器側の記録停止の状態を設定します。 REC_P: REC/PAUSE 状態にします。 STOP: STOP 状態にします。	<ul style="list-style-type: none"> AVC-Intra モード、および DVCPRO HD の Native モードでは、設定できません。 インターバル記録、ワンショット記録、ループロックのときは、設定できません。
ACCESS LED	P2 カードアクセスランプを点灯させるかどうかを設定します。 ON、OFF	
TALLY LAMP	タリーランプの点灯を設定します。 OFF: タリーランプは点灯しません。 FRONT: フロントのタリーランプ (マイクロホン側) が点灯します。 REAR: リアのタリーランプ (ビューファインダー側) が点灯します。 BOTH: フロントとリア、両方のタリーランプが点灯します。	
CLOCK SETTING	内蔵のカレンダー (日時) を設定します。 「カレンダーを合わせる」(→ Vol. 1 の 25 ページ)	

___ は工場出荷値です。

OTHER FUNCTIONS 画面 (つづき)

項目	設定内容	備考																																																																																																												
TIME ZONE	<p>GMTに対して、- 12:00から+ 13:00まで30分単位(ただし+ 12:45(はあり))で設定します。(→ 下記) +9:00 (圏内以外は00:00)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時差</th> <th>地域</th> <th>時差</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>00:00</td><td>グリニッジ</td><td>+ 01:00</td><td>中央ヨーロッパ</td></tr> <tr><td>- 00:30</td><td></td><td>+ 01:30</td><td></td></tr> <tr><td>- 01:00</td><td>アゾレス諸島</td><td>+ 02:00</td><td>東ヨーロッパ</td></tr> <tr><td>- 01:30</td><td></td><td>+ 02:30</td><td></td></tr> <tr><td>- 02:00</td><td>中部大西洋</td><td>+ 03:00</td><td>モスクワ</td></tr> <tr><td>- 02:30</td><td></td><td>+ 03:30</td><td>テヘラン</td></tr> <tr><td>- 03:00</td><td>ブエノスアイレス</td><td>+ 04:00</td><td>アブダビ</td></tr> <tr><td>- 03:30</td><td>ニューファンドランド島</td><td>+ 04:30</td><td>カブール</td></tr> <tr><td>- 04:00</td><td>ハリファクス</td><td>+ 05:00</td><td>イスラマバード</td></tr> <tr><td>- 04:30</td><td></td><td>+ 05:30</td><td>ボンベイ</td></tr> <tr><td>- 05:00</td><td>ニューヨーク</td><td>+ 06:00</td><td>ダッカ</td></tr> <tr><td>- 05:30</td><td></td><td>+ 06:30</td><td>ヤンゴン</td></tr> <tr><td>- 06:00</td><td>シカゴ</td><td>+ 07:00</td><td>バンコク</td></tr> <tr><td>- 06:30</td><td></td><td>+ 07:30</td><td></td></tr> <tr><td>- 07:00</td><td>デンバー</td><td>+ 08:00</td><td>北京</td></tr> <tr><td>- 07:30</td><td></td><td>+ 08:30</td><td></td></tr> <tr><td>- 08:00</td><td>ロスアンゼルス</td><td>+ 09:00</td><td>東京</td></tr> <tr><td>- 08:30</td><td></td><td>+ 09:30</td><td>ダーウィン</td></tr> <tr><td>- 09:00</td><td>アラスカ</td><td>+ 10:00</td><td>グアム</td></tr> <tr><td>- 09:30</td><td>マルケサス諸島</td><td>+ 10:30</td><td>ロード・ハウ・アイランド</td></tr> <tr><td>- 10:00</td><td>ハワイ</td><td>+ 11:00</td><td>ソロモン諸島</td></tr> <tr><td>- 10:30</td><td></td><td>+ 11:30</td><td>ノーフォーク島</td></tr> <tr><td>- 11:00</td><td>ミッドウェイ諸島</td><td>+ 12:00</td><td>ニュージーランド</td></tr> <tr><td>- 11:30</td><td></td><td>+ 12:45</td><td>チャタム諸島</td></tr> <tr><td>- 12:00</td><td>クワジャリン</td><td>+ 13:00</td><td></td></tr> <tr><td>+ 00:30</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	時差	地域	時差	地域	00:00	グリニッジ	+ 01:00	中央ヨーロッパ	- 00:30		+ 01:30		- 01:00	アゾレス諸島	+ 02:00	東ヨーロッパ	- 01:30		+ 02:30		- 02:00	中部大西洋	+ 03:00	モスクワ	- 02:30		+ 03:30	テヘラン	- 03:00	ブエノスアイレス	+ 04:00	アブダビ	- 03:30	ニューファンドランド島	+ 04:30	カブール	- 04:00	ハリファクス	+ 05:00	イスラマバード	- 04:30		+ 05:30	ボンベイ	- 05:00	ニューヨーク	+ 06:00	ダッカ	- 05:30		+ 06:30	ヤンゴン	- 06:00	シカゴ	+ 07:00	バンコク	- 06:30		+ 07:30		- 07:00	デンバー	+ 08:00	北京	- 07:30		+ 08:30		- 08:00	ロスアンゼルス	+ 09:00	東京	- 08:30		+ 09:30	ダーウィン	- 09:00	アラスカ	+ 10:00	グアム	- 09:30	マルケサス諸島	+ 10:30	ロード・ハウ・アイランド	- 10:00	ハワイ	+ 11:00	ソロモン諸島	- 10:30		+ 11:30	ノーフォーク島	- 11:00	ミッドウェイ諸島	+ 12:00	ニュージーランド	- 11:30		+ 12:45	チャタム諸島	- 12:00	クワジャリン	+ 13:00		+ 00:30				<ul style="list-style-type: none"> • MENU INIT 項目および USER FILE の INITIAL 項目で初期化を行っても、初期化されません。 • 時刻を設定後に、設定メニュー TIME ZONE 項目の設定値を変更すると、表示および記録される時刻が時差を加えたものに切り替わります。
時差	地域	時差	地域																																																																																																											
00:00	グリニッジ	+ 01:00	中央ヨーロッパ																																																																																																											
- 00:30		+ 01:30																																																																																																												
- 01:00	アゾレス諸島	+ 02:00	東ヨーロッパ																																																																																																											
- 01:30		+ 02:30																																																																																																												
- 02:00	中部大西洋	+ 03:00	モスクワ																																																																																																											
- 02:30		+ 03:30	テヘラン																																																																																																											
- 03:00	ブエノスアイレス	+ 04:00	アブダビ																																																																																																											
- 03:30	ニューファンドランド島	+ 04:30	カブール																																																																																																											
- 04:00	ハリファクス	+ 05:00	イスラマバード																																																																																																											
- 04:30		+ 05:30	ボンベイ																																																																																																											
- 05:00	ニューヨーク	+ 06:00	ダッカ																																																																																																											
- 05:30		+ 06:30	ヤンゴン																																																																																																											
- 06:00	シカゴ	+ 07:00	バンコク																																																																																																											
- 06:30		+ 07:30																																																																																																												
- 07:00	デンバー	+ 08:00	北京																																																																																																											
- 07:30		+ 08:30																																																																																																												
- 08:00	ロスアンゼルス	+ 09:00	東京																																																																																																											
- 08:30		+ 09:30	ダーウィン																																																																																																											
- 09:00	アラスカ	+ 10:00	グアム																																																																																																											
- 09:30	マルケサス諸島	+ 10:30	ロード・ハウ・アイランド																																																																																																											
- 10:00	ハワイ	+ 11:00	ソロモン諸島																																																																																																											
- 10:30		+ 11:30	ノーフォーク島																																																																																																											
- 11:00	ミッドウェイ諸島	+ 12:00	ニュージーランド																																																																																																											
- 11:30		+ 12:45	チャタム諸島																																																																																																											
- 12:00	クワジャリン	+ 13:00																																																																																																												
+ 00:30																																																																																																														
GL PHASE	<p>HD (1080i、720P) モードのとき、GENLOCK IN 端子に入力された信号に、位相をロックさせる出力信号を選択します。(→ 70 ページ)</p> <p>HD SDI : HD SDI 出力が位相ロックします。</p> <p>COMPOSITE : ダウンコンバートされたコンポジット信号 (VIDEO OUT の信号および SDI OUT の 480i、576i 信号) が位相ロックします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • SYSTEM MODE 項目が 480-59.94i、576-50i のときは、設定できません。 																																																																																																												
H PHASE	<p>GENLOCK IN 端子に入力された信号に、位相をロックさせる際に水平位相を調整します。 - 512...0...+ 511</p>	<ul style="list-style-type: none"> • OPERATION レバーを ▲▼ 方向に倒した状態を続けるとう値が早く変化します。 																																																																																																												
SEEK SELECT	<p>再生一時停止中に、OPERATION レバーを ◀▶ 方向に倒して、頭出しする位置を選択します。</p> <p>CLIP : クリップの先頭</p> <p>CLIP&T : クリップの先頭と、テキストメモの付加点</p>																																																																																																													
MENU INIT	<p>シーンファイル F1 ~ F6 すべてとユーザーファイルを含む設定メニュー全体を工場出荷時の状態に戻します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 以下の場合は設定できません。 • REC SIGNAL 項目が 1394 のとき • ワンクリップレックのクリップ連結継続中のとき 																																																																																																												

___ は工場出荷値です。

メニューの一覧 (つづき)

DIAGNOSTIC 画面

項目	設定内容	備考
VERSION	<p>本機の全ファームウェアのバージョンを表示します。 サブ画面を開くと、それぞれのファームウェアのバージョンを確認できます。 (サブ画面)</p> <p>CAM SOFT: カメラマイコンのソフトウェア</p> <p>SYSCON SOFT: システム制御マイコンのソフトウェア</p> <p>P2CS BL2-1: P2 制御マイコンのブートプログラム 1</p> <p>P2CS BL2-2: P2 制御マイコンのブートプログラム 2</p> <p>P2CS KR: P2 制御マイコンのカーネル</p> <p>P2CS AP: P2 制御マイコンのアプリケーションソフトウェア</p> <p>VUP: 本機のファームウェア全体をアップデートするシステムのソフトウェア</p> <p>VUP FS: 本機のアップデートのファイルシステム</p> <p>CAM FPGA: カメラ FPGA のコンフィグレーション ROM</p> <p>DM FPGA: メイン FPGA のコンフィグレーション ROM</p>	
MODEL NAME	本機の製品名を表示します。	
SERIAL NO.	本機の製造番号を表示します。	
OPERATION	本機の通電時間を表示します。	

___ は工場出荷値です。

OPTION MENU 画面

DISP/MODE CHK ボタンを押したままにして、撮影状態の内容が表示されてから、MENU ボタンを押すと表示されます。


- ノンリニア編集時に接続状態を確認するときに使用します。
- 画作り効果を切り替えたいときに使用します。

項目	設定内容	備考
1394 STATUS	1394 状態表示サブ画面が表示されます。 (サブ画面) FORMAT: 入力、もしくは出力されている信号のフォーマット RATE: 入力、もしくは出力されている信号の転送レート 60/50: 入力、もしくは出力されている信号の方式 CH: 入力、もしくは出力されているチャンネルの値 SPEED: 入力、もしくは出力されている信号の転送速度 STATUS: IEEE 1394 デジタルインターフェースで入力、もしくは出力されている信号の状態 VIDEO: 入力、もしくは出力されるビデオ信号の状態 AUDIO: 入力、もしくは出力されるオーディオ信号の状態	
1394 CONFIG	1394 拡張用メニューが表示されます。 DFLT, 1 ~ 255 • 通常は DFLT のままでご使用ください。	
P.A.P FILTER *1	3次元適応処理技術により画質を向上させる画像フィルターの種類を選択できます。 TYPE1: 3次元適応効果により感度を向上させた状態で、ノイズ感を極力抑えた画作りに適した設定 TYPE2: 3次元適応効果を抑え、感度、画質ともに自然な画作りに適した設定 • 設定を変更すると「TURN POWER OFF」と表示されます。一度本機の電源を OFF にし、再度電源を ON にしてください。	• この項目は、SCENE FILE、USER FILE として SDメモリーカードに読み書きできません。

*1: 3次元適応処理を駆使した PAP (Progressive Advanced Processing) 技術により画像を高感度、高画質にする映像処理回路
____ は工場出荷値です。

故障?と思ったら (Q&A)

電源関係

電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"> • バッテリーや AC アダプターは正しく接続されていますか。接続を確認してみてください。 	(→ Vol. 1 の 20 ページ)
電源が入ってもすぐに切れる。	<ul style="list-style-type: none"> • バッテリーが消耗していませんか。 • バッテリー残量表示が点滅していたり、 の表示が出ている場合は、バッテリーが消耗しています。 • バッテリーを充電するか十分に充電されたバッテリーを入れてください。 	(→ Vol. 1 の 19 ページ)

バッテリー関係

バッテリーの消耗が早い。	<ul style="list-style-type: none"> • 十分に充電されていますか。AC アダプターの CHARGE ランプが消灯するまで充電してください。 • 低い温度の所で使っていませんか。バッテリーは、周囲の温度の影響を受けます。低い温度の所では、使用時間が短くなります。 • バッテリーが寿命になっていませんか。バッテリーには寿命があります。寿命は使いかたによって変わりますが、十分に充電しても使用時間が短い時は、バッテリーの寿命です。 	(→ Vol. 1 の 19 ページ)
バッテリー残量が正しく表示されない。	<ul style="list-style-type: none"> • バッテリー残量表示は、目安です。バッテリー残量が正しく表示されない場合は、バッテリーを満充電した後、使い切り、再度充電してください。(この操作を行っても、低温、高温になる場所で長時間使用したバッテリーや、充電を繰り返したバッテリーは、バッテリー残量表示を正しく表示できないことがあります) 	————

撮影

撮影が始まらない。	<ul style="list-style-type: none"> • POWER/MODE スイッチが ON になっていますか。 	(→ Vol. 1 の 24 ページ)
自動でピントが合わない。	<ul style="list-style-type: none"> • マニュアルフォーカスモードになっていませんか。オートフォーカスモードにすると自動でピントが合います。 • オートフォーカスモードでピントが合いにくい場面を撮影していませんか。オートフォーカスでは、ピントの合いにくい場面があります。この場合は手動フォーカスモードでピントを合わせるができます。 <p>ピントの合いにくい場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遠くと近くのを撮る ・ 汚れたガラスの向こうのを撮る ・ 暗い場所を撮る ・ キラキラと光るものが周りにある ・ 動きの速いものを撮る ・ コントラストの少ないものを撮る 	(→ 28 ページ)

撮影

P2 カードを正しく入れていないのに撮影できない。	<ul style="list-style-type: none"> ● P2 カードの書き込み禁止スイッチが「PROTECT」側になっていませんか。「PROTECT」側になっていると録画できません。 ● P2 カードのメモリー残量が極端に少なくなっていますか。内容を他のメディアに保存した上で不要なデータを消すか、新しいカードに交換してください。 ● P2 カードが正しくフォーマットされていますか。または、使用できないフォーマットになっていませんか。本機でフォーマットしてください。 ● 2 GB の P2 カードは使用できません。 ● メディア情報表示が [E] 表示になっていませんか。本機でフォーマットしてください。 ● P2 カード 1 枚の中にクリップ数が 1000 をこえて記録することはできません。ワンクリップで記録すると、たくさんのクリップが連結されたクリップが生成されるため、サムネール画面で見えるクリップ数は少なくとも、1000 クリップになっている場合があります。 	<p>(→ 12 ページ)</p> <p>————</p> <p>(→ 13 ページ)</p> <p>————</p> <p>(→ 124 ページ)</p> <p>————</p>
インターバル記録、ワンショット記録、ループレックができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● ループ REC では残量 1 分以上のカードを 2 枚挿入してください。 ● 24P などのモードでは、これらの記録ができません。「特殊な記録機能を使う」(→ 43 ページ)を参照して記録フォーマットなどの設定を行ってください。 	<p>(→ 46 ページ)</p> <p>————</p>

編集

ノンリニア編集ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● パーソナルコンピューターと接続ケーブルの仕様を確認してください。 ● メニュー設定や動作モードを確認してください。1394 接続の場合は、PB/THUMBNAIL モードにするか、または設定メニューの REC SIGNAL 項目を 1394 にしてください。また、USB 接続の場合は、PC MODE SELECT 項目を USB DEVICE にして、POWER/MODE スイッチで PC モードにしてください。 	<p>(→ 102 ページ)</p> <p>(→ 109 ページ)</p> <p>(→ 134 ページ)</p> <p>(→ 136 ページ)</p>
外部機器にダビングできない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 外部機器は正しく接続されていますか。 ● DVCPRO/DV 端子から出力できるモードになっていますか。AVC-Intra、24PN などのネイティブ記録モードでは出力できません。 	<p>(→ 103 ページ)</p> <p>————</p>

表示関係

タイムコード表示がおかしくなる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 逆スロー再生をすると、タイムコード表示のカウントが一定にならない時がありますが故障ではありません。 	<p>————</p>
------------------	---	-------------

故障?と思ったら (Q&A) (つづき)

再生

再生ボタンを押しても再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> CAMERA モードになっていませんか。POWER/MODE スイッチを押して、PB/THUMBNAIL ランプを点灯させてください。 再生できないクリップ (クリップ番号が赤色) を選択していませんか。 SYSTEM MODE (1080i、720P など) が異なるクリップは再生できません。 AJ-HPX3100 などの機器で録画した 24 ビットオーディオ (CLIP PROPERTY の AUDIO で BITS PER SAMPLE が 24) のクリップは再生できません。 	<p>(→ 74 ページ)</p> <p>(→ 78 ページ)</p>
テレビと正しく接続しているのに再生画が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> テレビの入力切り替えが「ビデオ入力」になっていますか。テレビ側の説明書をよくお読みになり、接続したビデオ入力端子を選んでください。 	———
本機のスピーカーから再生音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> 本機の音量調整が小さくなりすぎていませんか。PAGE/AUDIO MON/VAR ボタン+ を押して音量を調整してください。 	(→ 100 ページ)
ホットスワップ再生ができない。	<ul style="list-style-type: none"> 本機はホットスワップ再生に対応していません。ダビング時には一度停止し、P2 カードを入れ替えてください。 	———
クリップコピーができない。	<ul style="list-style-type: none"> ワンクリップレックモードでクリップ連結継続中はコピーができません。CAMERA モードにして OPERATION レバーを ▼ 方向 (STOP) に 2 秒間倒し、クリップ連結を解除してください。 	(→ 86 ページ)

その他

SD メモリーカードが読めない。	<ul style="list-style-type: none"> SD メモリーカードが正しくフォーマットされていますか。本機でフォーマットしてください。 	(→ 16 ページ)
リモコンが動かない。	<ul style="list-style-type: none"> リモコンのコイン電池が消耗していませんか。リモコンを本機のリモコンセンサーの近くで操作しても動作しない場合は、コイン電池が消耗しています。新しいコイン電池と交換してください。 リモコンの設定は合っていますか。リモコンと本機の [REMOTE] 設定が合っていないと、リモコンを操作しても動作しません。 	<p>(→ Vol. 1 の 23 ページ)</p> <p>(→ Vol. 1 の 23 ページ)</p>
本機を前後に傾けた時に、カタカタと音がする。	<ul style="list-style-type: none"> PB/THUMBNAIL モードの時や、POWER/MODE スイッチが OFF の時は、カメラ部の構造にカタカタと音がする部分があります。故障ではありません。 	———
電源を入れた時や、PB/THUMBNAIL モードから CAMERA モードに切り替えた時、一瞬カタッと音がする。	<ul style="list-style-type: none"> カメラレコーダー起動時の初期化動作です。カメラレコーダー構造によるもので、故障ではありません。 	———

本機搭載ファームウェアのアップデート

ご使用機器本体でバージョンを確認しアップデートする方法

設定メニューの DIAGNOSTIC 画面で本機のバージョンを確認のうえ、下記に記載されたサイトのファームウェアに関する最新情報にアクセスし、必要に応じてファームウェアをダウンロードしてください。

- アップデートはダウンロードしたファイルを、SD メモリーカードを介して本機にロードすることにより完了します。アップデート方法の詳細については、下記ウェブサイトのサポートデスクをご参照ください。
(日本語) <http://panasonic.biz/sav/>
(英語) <http://pro-av.panasonic.net/>
 - 本機で使用する SD メモリーカードは、SD または SDHC 規格に準拠したものをお使いください。また、SD メモリーカードのフォーマットは、必ず本機で行ってください。
-

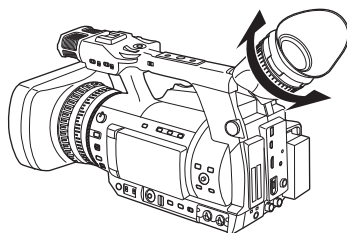
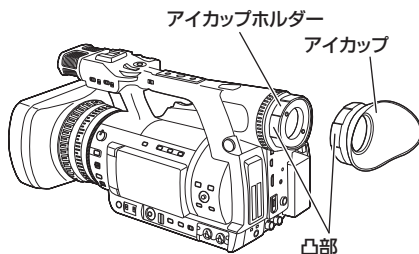
お手入れについて

お手入れの際は、ベンジンやシンナーを使わないでください。

- ベンジンやシンナーを使うと、カメラレコーダー本体が変形したり、塗装がはげるとおそれがあります。
- お手入れの際は、バッテリーを外しておくか、ACコードをコンセントから抜いておきます。
- 柔らかい、清潔な布でカメラレコーダーをふいてください。汚れがひどい時は、水でうすめた台所用洗剤にひたした布で汚れをふき、乾いた布で仕上げてください。

ビューファインダーのお手入れ

- ビューファインダーの内部にホコリが付着した場合、アイカップホルダーを取り外して除去してください。
- アイカップホルダーの内側には、特殊処理を施していますので、絶対にふかないでください。ホコリが付着した時は、エアブローなどで吹き飛ばしてください。
- アイカップホルダーは、アイカップを付けた状態で反時計方向に回して取り外します。
(アイカップホルダーは、固めに締めてあります。)
この時、少しビューファインダーを上向きに行ってください。
- アイカップホルダーを取り付ける時は、アイカップホルダーとカメラ本体の凹凸部を合わせ、時計方向にカチッと音がするまで回してください。



保管上のお願い

保管時は、バッテリーを外してください。
湿気が少なく比較的温度が一定な場所にそれぞれ保管してください。

[推奨温度：15℃～25℃]
[推奨相対湿度：40%～60%]

カメラレコーダー

- ほこりが入らないよう、柔らかい布で包んでください。

バッテリー

- 極端に低温、高温になる所では、バッテリーの寿命が短くなります。
- 油煙やほこりの多い所に保管すると、端子がさびるなどして故障の原因となることがあります。
- バッテリーの端子に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させないでください。端子間がショートし発熱することがあり、この状態で触れると大やけどをするおそれがあります。
- バッテリーは放電した状態で保管してください。長期間保管する場合、1年に1回は充電し、カメラレコーダーで充電容量を使い切ってから再保管することをお勧めします。

P2 カード

- 本機から取り出した時は、必ず専用キャップを取り付けて砂やほこりがコネクター部に付着しないようにしてください。また、保管時や携帯時は、専用ケースに入れてください。
- 腐食性のガスなどが発生する所には置かないでください。

SD メモリーカード

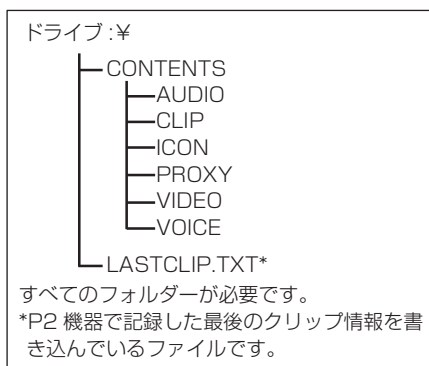
- 本機から取り出した時は、必ずケースに収納してください。
- 腐食性のガスなどが発生する所には置かないでください。
- 車の中や直射日光の当たる所など温度が高くなる所には置かないでください。
- 湿気の高い所やほこりが多い所には置かないでください。

P2 カード記録データの取り扱いについて

P2 カードはプロフェッショナル映像制作・放送用機器「DVCPRO P2 シリーズ」の記録メディアに採用した、半導体メモリーカードです。

■ DVCPRO P2 フォーマットおよび AVC-Intra の記録データは、ファイル形式のため、パーソナルコンピューターとの親和性にすぐれていますが、そのファイル構造は独自フォーマットであり、MXF ファイル化される映像、音声データだけでなく、さまざまな重要情報が含まれており、右記のようなフォルダー構成にて関連付けられています。

これらの情報が一部分でも変更、または削除されると、P2 データとして認識できない、もしくはカードが P2 機器で使えなくなるなどの不具合が発生する場合があります。



■ P2 カード内のデータをパーソナルコンピューターなどに転送したり、パーソナルコンピューターに保存されているデータを P2 カードに書き戻すときは、情報の欠落を防ぐために、必ず専用ソフトウェア「P2 Viewer」を下記のウェブサイトよりダウンロードし、お使いください。なお、P2 Viewer の動作環境については、同ウェブサイトのサポートデスクをご参照ください。

(日本語) <http://panasonic.biz/sav/>

(英語) <http://pro-av.panasonic.net/>

■ Microsoft Windows Explorer や Apple Finder など、一般の IT ツールを使用してパーソナルコンピューターに転送する場合は、下記のように行ってください。
なお、P2 カードへ戻す場合は、必ず P2 Viewer をご使用ください。

- CONTENTS フォルダーと LASTCLIP.TXT ファイルごとに行ってください。
- CONTENTS フォルダー以下は、操作しないでください。
- コピーするときは、CONTENTS フォルダーと同時に LASTCLIP.TXT ファイルも行ってください。
- 複数の P2 カードをパーソナルコンピューターに転送する場合、同一クリップ名の上書きを防ぐため、P2 カードごとにフォルダーを作成してください。
- P2 カード内のデータ消去は行わないでください。
- P2 カードは必ず、P2 機器でフォーマットしてご使用ください。

メモリーカードのご使用について

<SDメモリーカード使用上の注意>

- 本機には、SD規格またはSDHC規格に準拠したSDメモリーカードを入れてご使用ください。
- MMC (Multi Media Card) は、使用できません。(撮影することができなくなることがありますのでお気をつけください)
- mini SD/micro SDカードを本機で使用する場合は、必ず、mini SD/micro SDカード専用のアダプターを装着してご使用ください。(mini SD/micro SDアダプターのみを本機に挿入すると正常に動作しません。アダプターには、必ずメモリーカードを入れてご使用ください)
- 当社製のSDメモリーカードおよびmini SD/micro SDカードをご使用いただくことをおすすめします。またフォーマットは、必ず本機で行ってください。
- 本機では、8 MBから2 GBのSDメモリーカードおよび32 GBまでのSDHCメモリーカードが使用できます。
- 取扱説明書に記載された情報以外の最新情報は、下記のウェブサイトより、P2のサポートページをご覧ください。

日本語: <http://panasonic.biz/sav/>
英語: <http://pro-av.panasonic.net/>

使用可能なカード

- ・SDメモリーカード (miniSDカードを含む)
- ・SDHCメモリーカード (miniSDHCカードを含む)



使用できないカード

- 左記以外のすべてのメモリーカード
- ・マルチメディアカード



本製品に関するソフトウェア情報

1. 本製品には、GNU General Public License (GPL) ならびに GNU Lesser General Public License (LGPL) に基づきライセンスされるソフトウェアが含まれており、お客様は、これらのソフトウェアのソースコードの入手・改変・再配布の権利があることをお知らせいたします。ソースコードの入手については、下記のホームページをご覧ください。

(日本語) <http://panasonic.biz/sav/>

(英語) <http://pro-av.panasonic.net/>

なお、お客様が入手されたソースコードの内容等についてのお問い合わせは、ご遠慮ください。

2. 本製品には、MIT-License に基づきライセンスされるソフトウェアが含まれています。

これらの内容については、本機に付属したインストール CD に収められています。「LDOC」という名前のフォルダーを参照してください。(原文(英文)で記載しております)

海外で使う

AC アダプターは、電源電圧（100 V～240 V）、電源周波数（50 Hz、60 Hz）でご使用いただけます。市販の変圧器などを使用すると、故障するおそれがあります。

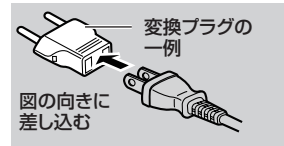
バッテリー充電器を海外で使用するには

国、地域、滞在先によって電源コンセントの形状は異なります。海外旅行をされる場合は、その国、地域、滞在先に合ったプラグを準備してください。変換プラグは、お買い上げの販売店にご相談のうえ、お求めください。

充電のしかたは、国内と同じです。

バッテリー充電器は日本国内で使用することを前提として設計されておりますが、海外旅行等での一時的な使用は問題ありません。

- ご使用にならないときは変換プラグを AC コンセントから外してください。



AC アダプターを海外で使用するには

海外で使用する場合は、その国に合った接地端子付電源コードを準備してください。

記録フォーマット一覧

SYSTEM MODE	REC FORMAT		撮影・記録フレームモード		
	コーデック	フレームモード	VFR OFF	VFR ON	
1080-59.94i	AVC-I100 AVC-I50	60i	60i	1P～30P*1 (60iとして記録)	
		30PN	30P (30PN Native 記録)	1P～30P*1 (30PN Native 記録)	
		24PN	24P (24PN Native 記録)	1P～30P*1 (24PN Native 記録)	
	DVCPROHD	60i	CAMERA MODE: 60i	1P～30P*1 (60iとして記録)	
			CAMERA MODE: 30P (2:2 Over60i 記録) 24P (2:3 Over60i 記録) 24PA (2:3:3:2 Over60i 記録)	—	
1080-50i	AVC-I100 AVC-I50	50i	50i	1P～25P*2 (50iとして記録)	
		25PN	25P (25PN Native 記録)	1P～25P*2 (25PN Native 記録)	
	DVCPROHD	50i	CAMERA MODE: 50i	1P～25P*2 (50iとして記録)	
			CAMERA MODE: 25P (2:2 Over50i 記録)	—	
720-59.94P	AVC-I100 AVC-I50	60P	60P	1P～60P*3 (60Pとして記録)	
		30PN	30P (30PN Native 記録)	1P～60P*3 (30PN Native 記録)	
		24PN	24P (24PN Native 記録)	1P～60P*3 (24PN Native 記録)	
	DVCPROHD	60P	60P	60P	1P～60P*3 (Over60P 記録)
			30PN	30P (30PN Native 記録)	1P～60P*3 (30PN Native 記録)
			24PN	24P (24PN Native 記録)	1P～60P*3 (24PN Native 記録)
720-50P	AVC-I100 AVC-I50	50P	50P	1P～50P*4 (50Pとして記録)	
		25PN	25P (25PN Native 記録)	1P～50P*4 (25PN Native 記録)	
	DVCPROHD	50P	50P	50P	1P～50P*4 (Over50P 記録)
			25PN	25P (25PN Native 記録)	1P～50P*4 (25PN Native 記録)
480-59.94i	DVCPRO50 DVCPRO DV	60i	CAMERA MODE: 60i 30P (2:2 Over60i 記録) 24P (2:3 Over60i 記録) 24PA (2:3:3:2 Over60i 記録)	—	
576-50i	DVCPRO50 DVCPRO DV	50i	CAMERA MODE: 50i 25P (2:2 Over50i 記録)	—	

*1: 設定可能なフレーム数は、1、2、4、6、9、12、15、18、20、21、22、24、25、26、27、28、30P

*2: 設定可能なフレーム数は、1、2、4、6、9、12、15、18、20、21、22、23、24、25P

*3: 設定可能なフレーム数は、1、2、4、6、9、12、15、18、20、21、22、24、25、26、27、28、30、32、34、36、40、44、48、54、60P

*4: 設定可能なフレーム数は、1、2、4、6、9、12、15、18、20、21、22、23、24、25、26、27、28、30、32、34、37、42、45、48、50P

さくいん

番号		MENU EVF PEAK FREQ.....	146
MENU 25M REC CH SEL.....	142	MENU EVF PEAK LEVEL.....	146
MENU 1394 AUDIO OUT.....	143	MENU EVF SETTING.....	146
MENU 1394 CMD SEL.....	150		
MENU 1394 CONFIG.....	153	F	
MENU 1394 CONTROL.....	150	FBC.....	38
MENU 1394 STATUS.....	153	MENU FOCUS BAR.....	147
1394 接続.....	106	MENU FRAME RATE.....	131
A		G	
MENU ACCESS LED.....	150	MENU GAMMA.....	132
AC アダプター		GENLOCK.....	69
海外で使う.....	163	MENU GL PHASE.....	151
使う.....	Vol. 1 の 20		
取り付け.....	Vol. 1 の 20	H	
取り外し.....	Vol. 1 の 20	MENU HANDLE ZOOM.....	137
		MENU HIGH GAIN.....	137
MENU AF.....	139	MENU H PHASE.....	151
MENU AGC.....	139		
MENU A.IRIS.....	139	I	
MENU A. IRIS LEVEL.....	132	INTERVAL REC.....	44
MENU ASPECT CONV.....	136	MENU INTERVAL TIME.....	140
ATW.....	33	MENU INT MIC.....	142
MENU ATW.....	137, 139	IRIS ボタン.....	30
MENU AUDIO OUT.....	143	IRIS リング.....	30
MENU AUDIO SETUP 画面.....	142		
MENU AUTO LEVEL CH3.....	142	K	
MENU AUTO LEVEL CH4.....	142	MENU KNEE.....	133
MENU AUTO SW 画面.....	139		
		L	
C		LAST CLIP DELETE.....	42
MENU CAMERA MODE.....	135	MENU LCD BACKLIGHT.....	147
MENU CARD&BATTERY.....	147	MENU LCD SETTING.....	147
MENU CARD FUNCTIONS 画面.....	149	MENU LEVEL METER.....	147
MENU CHROMA LEVEL.....	132	MENU LIMITER CH1.....	142
MENU CHROMA PHASE.....	132	MENU LIMITER CH2.....	142
MENU CLOCK SETTING.....	150	MENU LIMITER CH3.....	142
MENU COLOR TEMP Ach.....	132	MENU LIMITER CH4.....	142
MENU COLOR TEMP Bch.....	132	MENU LOAD/SAVE/INIT.....	131
		LOOP REC.....	46
D		MENU LOW GAIN.....	137
MENU DATE/TIME.....	147		
MENU DETAIL CORING.....	132	M	
MENU DETAIL LEVEL.....	131	MAIN MENU.....	Vol. 1 の 29
MENU DIAGNOSTIC 画面.....	152	MENU MARKER.....	146
MENU DISPLAY SETUP 画面.....	146	MENU MASTER PED.....	132
MENU DOWNCON MODE.....	144	MENU MATRIX.....	133
MENU DRS.....	132	MENU MENU BACK.....	148
MENU DRS EFFECT.....	132	MENU MENU INIT.....	151
DVDPRO/DV 端子.....	105	MENU MF ASSIST.....	138
		MENU MIC GAIN1.....	143
E		MENU MIC GAIN2.....	143
MENU EVF B. LIGHT.....	146	MENU MID GAIN.....	137
MENU EVF COLOR.....	146	MENU MODEL NAME.....	152
MENU EVF MODE.....	146		

さくいん (つづき)

N		MENU SDI OUT.....	144
MENU NAME EDIT.....	133	SD メモリーカード.....	161
Native VFR 記録.....	21	状態表示.....	98
Native 記録.....	20	使う.....	16
O		取り出し.....	16
ONE CLIP REC.....	47	取り付け.....	16
MENU ONE CLIP REC.....	141	フォーマット.....	92
ONE SHOT REC.....	45	MENU SEEK SELECT.....	151
MENU ONE SHOT TIME.....	140	MENU SELF SHOOT.....	147
MENU OPERATION.....	152	MENU SERIAL NO.....	152
MENU OPTION MENU 画面.....	153	MENU SETUP.....	136
MENU OTHER DISPLAY.....	148	SHUTTER.....	49
MENU OTHER FUNCTIONS 画面.....	150	MENU SKIN TONE DTL.....	133
MENU OUTPUT SEL 画面.....	144	MENU START DELAY.....	140
P		MENU START TEXT MEMO.....	141
MENU P2CARD REMAIN.....	147	MENU SUPER GAIN.....	137
P2 カード		MENU SW MODE 画面.....	137
入れる.....	10	SYNCHRO SCAN.....	50
書き戻し.....	116	MENU SYNCHRO SCAN.....	131
記録時間.....	14	MENU SYNC SCAN TYPE.....	131
記録データ.....	160	MENU SYSTEM MODE.....	134
状態表示.....	130	MENU SYSTEM SETUP 画面.....	134
取り出す.....	15	T	
フォーマット.....	13, 92	MENU TALLY LAMP.....	150
分割.....	14	MENU TCG.....	141
保護.....	12	MENU TC IN/OUT SEL.....	144
P2 カードアクセスランプ.....	12	MENU TC MODE.....	140
MENU P.A.P FILTER.....	153	MENU TC OUT.....	145
PB/THUMBNAIL モード.....	13, 74	MENU TC PRESET.....	141
MENU PC MODE SELECT.....	136	MENU TC VIDEO SYNC.....	145
PRE REC.....	44	MENU TEST TONE.....	142
MENU PREREC MODE.....	140	THUMBNAIL.....	76
R		MENU TIME STAMP.....	141
REC CHECK.....	12	MENU TIME ZONE.....	151
MENU REC COUNTER.....	148	U	
MENU REC FORMAT.....	134	MENU UB MODE.....	141
MENU REC FUNCTION.....	140	MENU UB PRESET.....	141
MENU RECORDING SETUP 画面.....	140	USB	
MENU REC SIGNAL.....	134	デバイスモード.....	109
MENU REMOTE.....	150	ホストモード.....	111
S		MENU USER1.....	138
MENU SAFETY ZONE.....	146	MENU USER2.....	138
MENU SCAN REVERSE.....	135	MENU USER3.....	138
MENU SCENE FILE.....	149	MENU USER4.....	138
MENU SCENE FILE 画面.....	131	USER CLIP NAME.....	90
MENU SD CARD FORMAT.....	149	MENU USER FILE.....	149, 150
MENU SDI EDH.....	144	MENU USER MAIN.....	138
MENU SDI & HDMI CHAR.....	144	USER ボタン.....	39
MENU SDI & HDMI SELECT.....	144	V	
MENU SDI METADATA.....	144	MENU V DETAIL FREQ.....	133
		MENU V DETAIL LEVEL.....	131

MENU	VERSION	152
	VFR.....	21
MENU	VFR.....	131
MENU	VIDEO OUT CHAR.....	144
MENU	VIDEO OUT ZEBRA.....	144

W

MENU	W.BAL.PRESET	137
MENU	WFM.....	138

Z

MENU	ZEBRA1 DETECT.....	146
MENU	ZEBRA2.....	146
MENU	ZEBRA2 DETECT.....	146
MENU	ZOOM・FOCUS	147

あ

アイカップ	Vol. 1 の 22
アップデート	157
アンダークランク撮影	25

い

インターバル記録.....	44
---------------	----

う

ウェブフォームモニター機能.....	40
--------------------	----

え

液晶モニター	7
エラー表示	126

お

オーディオ拡大表示.....	55
オーディオ機器	53
オートトラッキングホワイトバランス	33
オートフォーカス.....	28
オーバークランク撮影	26
音量調整	
音声の記録レベル.....	54
再生音量.....	100
撮影時の音量調整	40

か

外部機器制御	106
外部マイク	53, 101
カウンター	61
書き込み禁止スイッチ	12
カラーバー	40

き

記録機能	43
記録フォーマット一覧.....	164

く

クリップ	
コピー	86
再生	79

削除	84
修復	85
プロパティ	94
メタデータ	87
連結	85

け

警告表示	126
ゲイン	30

さ

再生	74
撮影	10, 28
撮影日時.....	100
サムネール	
切り替え.....	80
サムネール画面	77
選択	79
変更	81
三脚	Vol. 1 の 13

し

シーンファイル.....	56
シーンファイルデータ.....	57
視度調整	6
シネライクガンマ	23
シャッタースピード.....	49
ショットマーク	41, 82
シヨルダールベルト.....	Vol. 1 の 21

す

ズーム.....	18
スタンダード VFR 記録.....	22

せ

セーフティゾーンマーカー.....	36
設定メニュー	
一覧	131
基本操作.....	Vol. 1 の 27
構成	Vol. 1 の 29
初期化	Vol. 1 の 28
設定メニューの基本操作.....	Vol. 1 の 27
ゼブラパターン	35
センターマーカー	36

た

タイムコード.....	61, 66
タイムコードの記録と出力.....	71
タイムコード表示	121
タイムゾーン	151
タイムデータ	61
対面撮影	35
タリーランプ	9

つ

通常記録	20
------------	----

さくいん (つづき)

て	定格 Vol. 1 の 32	も	モードチェック (MODE CHK) 130
	テキストメモ 42		モニター 104
	テレビ 104	ゆ	
な			ユーザズビット 62
	内蔵電池 Vol. 1 の 26		ユーザズビットの記録と出力 71
	内蔵マイク 52	る	
に			ループロック 46
	入力音声 52	れ	
ね			レックチェック機能 12
	ネイティブ VFR 記録 21		レンズフード
	ネイティブ記録 20		取り付け Vol. 1 の 21
は			取り外し Vol. 1 の 21
	バッテリー	わ	
	使う Vol. 1 の 20		ワンクリップロック 47
	取り付け Vol. 1 の 20		ワンショット記録 45
	取り外し Vol. 1 の 20		
	バッテリー残量表示 124		
	早送り再生 74		
	早戻し再生 74		
	バリアブルフレームレート 21		
ひ			
	ビューファインダー		
	状態表示 120		
	使う 6		
ふ			
	ファームウェア 157		
	ファントムマイク 53		
	フォーカスアシスト 29		
	フォーカスパー 29		
	ブラックバランス 34		
	フラッシュバンド補正 38		
	プリレック 44		
	ブルダウン記録 20		
	プログレッシブモード 20		
	プロパティ 94		
へ			
	ヘッドホン 101		
ほ			
	ホワイトバランス		
	調整 32		
ま			
	マニュアルフォーカス 28		
め			
	メタデータ		
	アップロード 87		
	項目 88		

パナソニック株式会社 AVCネットワークス社

〒571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号 ☎(06)6901-1161

© Panasonic Corporation 2011